

順序として我が内地國民が如何なる職業に生活しつゝあるかを一瞥する。

日本職業別人口 (大正九年國勢調査)

種別	本業者	從屬者	合計	比例
農業	一四、一四〇	二、八〇三	一六、九四三	四八・二
水産業	五九七	八九五	一、四九二	二・七
鑛業	四九六	五五	一、〇三二	一・八
工業	五、二七八	五、五八七	一〇、八六五	一九・五
商業	三、二九〇	四、三五六	七、六四六	一三・七
交通業	一、〇三三	一、四八三	二、五二六	四・五
公務自由業	一、一五八	一、八三四	二、九九二	五・四
其他有業者	四九一	五九	一、〇三〇	一・八
家事使用人	二五	四三	六八	〇・一
無職業	五八一	七五	一、二九六	二・三
計	一七〇、〇八九	二六、七六〇	一九六、八四九	一〇〇・〇

上表に示す我が國の農業生活者は四八プロセント餘であるが、實際上に於ては水産業者の大部分も半農半漁民であり、又商工業者中にも地方に在つては農業を兼ぬるものが相當多數を算せられる。故に精密には我が人口の過半数に上ることは言ふ迄もなく、現に國際聯盟統計年鑑に據る我が國民の職業別比率は水産業等をも含め%五四・八

となつてゐる。即ち總人口數の約五割五分までは農業經濟の直接的對象と看做し得る。かく國民全人口の五割以上が農を以て立ち、農に依つて生を營んでゐるからには、農村問題を無視し或は輕視して、如何なる政治も方策も現實的價値を認められない筈であり、隨つて農業家の地位、環境及生産狀態等に就き其の實態を見究むることは、國民經濟建直しの前提として、最も重大なる觀點たらねば

ならない。然るに我が國に於ける耕地面積如何と見るに、

我が國の耕地面積 (單位千町)

大正元年	同十年	昭和元年	土地利用總面積	耕地	同比率
三六、九三三	三九、二九	三九、四七五	五八、八九	一、四九	一・四九
三九、二九	六、一六二	六、〇八九	一、七〇	一・七〇	一・七〇
三九、四七五	六、〇八九	一、七〇	一、七〇	一・七〇	一・七〇

即ち我が國に於ける耕地は土地利用面積の一分六分弱しか無く、而して之を前表の農業人口數に割り當つれば、農民一人當りの耕地は僅々二段三畝にも達しない——且つ水産業其他の兼農者を加ふれば更に減少すること勿論である。尙前表の職業別人口數は、大正九年の國勢調査に據るものなるを以て、其の後の人口増加數をも參酌する時は、實際には我が農民一人當りの耕地は二段以内となる——故に之を戶數割にすれば、田・畑兩者を合して一戸當り一町歩未満にしか該當しない(一戸五人の家族と見て)。最近農林省調査に依れば、内地農家の一戸平均耕作段別田五段六畝、畑四段三畝、計九段九畝となつて居り、大體上述の計算と合致する。

南米や加奈陀の如き未開墾地多き國は別とし之を歐洲各國の現狀と比較するに、英國農業者の一人當り耕作地は約四町、佛國は同二町六段、獨逸は二町一段、白耳義の如き小國ですら二町餘となつて居り、歐洲の農業國といはるゝ丁抹の如きも一人當り五町五段を持つてゐる。列國中最も少なきは伊太利であるが、それでも一人當りの耕地一町三畝にして、平均約五人の家族より成る我が國の一戸當りよりも尙多いのである(尤も前掲職業別人口表中の本業者のみに割當つれば我が農家一人當り耕地約四段二畝となるが、そ

は必ずしも實際の状態と適合せざるのみならず、假りにそれを標準としても尙伊太利の農民が持つところの三分の一より少ないのである。若し夫れ北米合衆國の如きに於ては、農民一人當りの耕地實に十二町五段に及び、而かも廣大なる未開墾地を残してゐるのである。

この簡單なる數字に依つても、我が國農家の地位が如何に苦境に在るか略と想像されるのであつて、それは要するに土地の面積に比して人口數が多いからである。其處に農村の人口過剩問題も起れば、次男以下の分家難も訴へられ、地價騰貴の説明もつくのである。随つて都會失業者の歸農を歓迎し得るが如き餘地のあらう筈も無く、少しく氣概ある青年が何等かの機會又は刺戟に觸れて都會に進出し來るは寧ろ必然の趨勢である。昔は土地と人口との調和を保持する爲に、或る種の人口調節手段を寛大に看過したといふ例もあり、日韓合邦以前に於ける朝鮮の如きも、それ々の階級に應じて矢張り同種の方法が用ゐられたと聞く。しかし斯くの如きは現代に於て廣く容易に許さるべきことで無く、それよりは積極的に農村の耕地を擴大し、其の資源を開發し、其の環境を改造することに依り、年々に増加する人口を活用し消化せなければならぬ。これ即ち産業國策の遂行を急務とする所以である。

(二) 農家の生産と食料の不足

我が國の農民は上述の如く自然界の制限に餘儀なくせられ、極めて狭き立場に置かれつゝあるを以て、勢ひ耕地の集約的利用法に多大の努力を注ぐに至れるは改めて説明を用ゐない。舊來の耕作法に慣熟す

ることに於て、又如何なる勞苦をも厭はざる點に於て、恐らく世界何れの國にも劣らないであらうことは、其の狹隘なる耕地を以てして、歐洲列國に數倍する如き人口を收容しつゝある事實に照らして疑ふべくも無い。英國農民一人當りの耕地四町なるに對し、我が農民が二段内外しか有せないことは、即ち平面的數字上一單位の耕地を以て二十倍の人口を養つてゐる證據であり、又佛國が一人當り二町六段となつてゐることは、我れに比して十三分の一の人口收容力しか持つてゐないといふ事實を物語るものである。それだけ我が國の農民は能く耕やし能く努め且つ能く忍んでゐるとも言ひ得るが、しかしそれを以て最善とし、人間の能事既に盡せりと考ふるに於ては今後發展の可能性が消滅する。科學の進歩、人智の發達に違反する。子孫の繁榮を自ら見殺しにすることに於ては、消極的退嬰主義を以てしては到底人口問題の解決も農村の振興も望まれないのである。

こゝに吾々は今少しく我が國農業の現勢を攻究しなければならぬ。農林省の統計に據れば我が内地の農産額は年額三十二億圓乃至三十五億圓内外となつてゐるが、其の概略の内譯は左表の如し。

農村生産物價格表 (單位百萬圓)

種目	昭和元年	昭和二年
米	一、八三六	一、七六四
麥	三〇二	三七五
蕎麥	六六一	四九七

此の合計額を以て我が國の耕地總面積約六百萬町歩に割り當つれば、田及畑の兩者を平均しての年産額は一段に付き約五十萬圓乃至六十萬圓に該當する。而

蔬菜及花卉	三三	三九
其他食用農作物	三九	三六
果實	六	七
工藝用農作物	二四	二二
茶	三	三
綠肥用作物	三五	六
合計(其他共)	三、五四〇	三、三三七

家一戸平均五人と見ての生産額は年六百圓乃至六百五十圓であつて、一戸當り平均約一町歩の耕地しか持たざる我が農民は主として此の收穫に衣食することになる。

農林省農務局に於て行ひたる農家經濟調査に據れば、我が國農民一人一日當りの勞働報酬は自作、小作及自作兼小作の三者を平均して、大正十三年度は一圓十一錢、同十四年度は一圓二十八錢、昭和元年度は九十三錢であつた。一戸五人の家族中老人小兒を除き、勞役に堪へるものを平均二人とし、一ヶ月二十五日間、一年三百日勞働するとして、此の一家の収入は矢張り年額六百圓内外である——假りに前表生産物各種目以外、尙別種の副業又は餘得ありとしても、他方に公課、肥料代、農具等の支出をも見込まねばならない——これ恰も都市の住民が一ヶ月五十圓の給料に依つて一家五人を養ふと同額であり、其の生活状態が如何にあるかは推して察すべきである。

若しも農産物の全部を以て、單に其の耕作者たる二千七百萬の農民だけに充當さるゝものとせば、或は

前記の收穫を以てしても自營の途は立つかも知れない。原始人類時代に於ける經濟の建て方は即ちそれであり、鎖國時代の國民經濟論にも往々此の種の考へ方が見出される。だが現實の世界に於て斯くの如き遊牧人種的存在は寧ろ御伽噺である。我が農家が産出する所の作物は内地國民六千萬の需要品であり、同時に農家も亦自ら製造し能はざる工業生産物なくして一日も生活し能はぬのである。其處に各種生産品の交換利用價值が発生し、そして其の生産の善悪多寡と利用價值の高低と廣狹とが直接的に國民生活の苦樂を分つことになるのである。随つて問題は單なる農村農家限りの盛衰禍福に止まらずして、國民全般、國家全局の運命問題へと展開する。

そこで我が國の農家が生産者として如何なる利用價值を國民經濟上に占有しつゝありやと問へば、それは前掲の生産價格表が示す通り、繭並に他の小種目を除きては廣き意味の食料品に屬するものばかりである。之を作付段階よりいへば全耕作地の九割以上が食料品生産の爲に使用されて居り、而かも其の大半は米である。桑、麻、除蟲菊等の如き工業用作物は残りの一割未満を利用するに止まり、我が農家は事實上の恒久的總動員に依り、國民生活の兵站部を引受けつゝある尊き戰士である。

それにも拘はらず、我が國に於ける食料品は總括的に見て尙甚だ足りない。足りないだけでは無く之が爲に多き時は二億四千萬圓、少なき時にも一億四千萬圓近くの代價を外國に支拂つてゐるのである。參考の爲に國民全般の食料品輸出入關係を掲げる。

食料品輸出入表 (單位百萬圓)

年次	輸 入		輸 出		差引入超
	粗生食料	製造食料	粗生食料	製造食料	
大正十四年	二五五	七	五五	三	二四五
昭和元年	二四三	一七	四九	六	二二三
同 二年	二三三	一〇	四	九	一七
同 三年	一九一	一四	五	一四	二二六

この差引入超額が、即ち我が食料品不足の爲に主として外國の農民に支拂はれるものである。精密には表中の食料品にも糊その他の用途に充てらるゝものがあり、例へば輸入大豆の中から油を搾取して工業に供する(之は極めて少額なれど)が如き事實もあるが今は概括的に記述する。更に其の上に朝鮮から約一億八千九百萬圓、臺灣からも約五六千九百萬圓、合せて二億四五千九百萬圓の食料品を我が植民地よりする移入に仰いでゐるのである。故に前表昭和三年度の數字を標準として見ても、我が内地食料品の輸入超過總額は約四億圓に上るのである。加之朝鮮に於ては我が内地に米を送る代りに滿洲より三千萬圓内外の粟を輸入し、臺灣も亦同じく一千餘萬圓の外米を他より輸入してゐる状態であるから、精密には是れ亦前記入超額に加算されなければならないのである。

我が農業者の涙ぐましき勞役を以てして、現在尙本邦食料品の自給し能はざる實情は斯くの如くである。其の上にて我が國には棉花も羊毛も麻も無い。建築用の木材も鐵も足りない。生くべき爲の最初の用具即ち衣食住の何れもが海外よりの供給に補充せられずしては立ち行けない。若し現状のままに放任し推移すとせば、稼いでも追つかぬとは蓋し我が日本の國民、殊に收入少くして而かも人口の過半數を占むる農民の現境ではないか。

る農民の現境ではないか。

(三) 代表命題としての米

我が農業者の地位環境が如何に在るか既述の通りであるが、更に歩を進めて其の實情を解剖すれば、全耕作地の九割餘までが食料用生産の爲に充當され、そして又其の中の大半が米作の爲であるといふ事實から見て、農村問題の第一要目が何よりも先づ米を主題とせらるべきことは最早や多言を要せない。我が國に輸入せらるゝ食料品としては小麥があり、豆があり、砂糖があり、何れも數千萬圓に上つてゐるが、其の金額に於ても將た國民生活上の要性より見ても米が筆頭である。それは三十五億圓内外を算する我が農作物中、米の一項目だけで全生産額の過半を占めつゝある事實に依つて明瞭である。

所謂農村問題は如上の意味に於て、米を離れて解決することは出来ない。少くとも米を對象としての研究對策を缺如するに於ては、農村問題の焦點を逸する。故に茲には先づ米の問題を以て農村經濟の代表的命題として觀察し、他は別の機會に譲る。

勿論最近の實勢よりいへば、米の生産高は年々に増加し、朝鮮及臺灣よりする移入米を加ふれば自給自足の域に達するの時期遠からずとも認められるのであつて、問題は寧ろ其の價格に在るが如く觀ぜられる。殊に現時の米價は農家に取つて生産費を割る程に低落し、採算不利となりつゝある。随つて今日農家の立場より見る時は生産增收問題よりも、却つて米價の安定策を要求するであらう。だが吾々の所見を先

づ簡單に打ち出して置くならば、米の需要は人口の増加及生活の向上と共に益々増進する。明治十四年の農務局調査に據れば我が國民の主食料は米五三%、麥二七%、雜穀其の他二〇%であつたが、大正十年調査では米七八%一、麥二%八、雜穀〇・一となつてゐる。即ち五十年前の國民中米を主食料とせるは約五割餘であつたが、今は約八割近くが精白米を用ふる迄に進んだのである。而かも國民の主食品の爲に巨額の輸入を必要とすることは國家經濟上堪へ難き痛苦である。随つて食料品の輸入防遏策として多量生産を望むことは當然であると同時に、他の一面に於ては從來我が國限りの特産物の如く見做されたる米も、今後は國際的商品化すべき趨勢に置かれてゐる。故に其の價格も亦直接若くは間接に世界的需給關係の影響を被るべき運命から解脱され得ないであらうことを推せしめる。但しそれが我が國の農家に取れて有利に展開するや否やは疑問であり、其處に國家の對策と農民の自覺如何が重大觀點となるのである。別言せば米を主題としての農村の盛衰は、一に將來に對する準備の有無に懸つてゐるのであつて、今は即ち運命の分岐點に立つてゐるといふ一事を見忘れてはならない。

米の問題に對する眞實の意義は蓋し此の點に横はつてゐるのである。國際的商品としての米は、他の總ての生産物と同様に價格の低廉化を促す。しかし米價が安ければ農家の生活はますます壓迫を受けねばならない。國家は米の多量生産を必要とする。しかし之が爲に農家をして生産費を割るが如き苦境に陥らしむることを傍觀しては居られない。それを如何に妥當化し、如何に有利に進展せしむべきか。問題の解決は結局此の點に歸着する——吾々は先づこれだけの論點を掲げ置きて以下記述の歩を進める——

顧みるに我が國は今より三十數年前までは少量ながらも米の輸出國であつた。それが海外よりの輸入に待たざるべからざる狀況を呈するに至つたのは、明治三十年頃からである。念の爲に左表を一瞥せよ。

米 輸 出 入 高 (五ヶ年平均 △印は入超)

年次	輸出品量 (千石)	同價格 (千圓)	輸入量 (千石)	同價格 (千圓)	入出超 (千石)
明治六一一〇	二四七	一、四三七	三	一五	二四四
同 一一一五	八五五	五、三二〇	三	一五	八五二
同 一六一二〇	三三〇	一、八六九	三	一六	三二七
同 二一一二五	八五五	五、三二〇	五	一六	八五〇
同 二六一三〇	六七一	八、三七八	一、五三三	一、五三三	△ 一、一四四
同 三一三三五	五四〇	六、六三三	一、八八〇	一、八八〇	△ 一、三五〇
同 三六一四〇	三六七	四、〇三三	四、二八	四、三六七	△ 三、八四二
同 四一一四五	三三	三、九二〇	一、六七七	一、六七七	△ 二、二四三
大正二一六	五二六	八、九七六	一、三九八	一、三九八	△ 一、五七八
同 七一一一	一三三	四、七二六	二七	七、七六	△ 一、六四
同 一七一昭二	四六	一、八八七	三、二七六	二、三三六	△ 三、三三三
昭和三年度	三	一、二七六	一、八九九	三、六三三	△ 二、八四四

と人口の増加に由るのであつて、此の間、其の數量及價格に變動多きは天候に支配される、作物の豊凶を主因とする。但し大正年代に入りてよりは、前表の外米輸入高以外、朝鮮米の移入漸増し、臺灣米も亦之に

我が國の農業は既述の如く年々に進歩し、随つて米の收穫高も増進してゐるに拘はらず、明治三十年を境として以前の輸出國から一轉著しき輸入國に激變した。爾來歐洲戰爭時代に於て多少輸入の減退を見たけれども、未だ大勢を既往に取戻すことは出来なかつた。斯く米の消費量が生産量を超えて斷足的に増加したのは種々の原因もあらうが、要するに國民生活の向上

加はりて次第に外米を驅逐し、此の數年來は我が内地不足額の八割内外までも鮮、臺よりする移入米に依つて補充されるやうになつてゐる。左に最近四ヶ年間に於ける我が國の米需給高を表示する。

國內米需給高(單位千石)

年次	内地生産高	輸入超過高	移入超過高	合計(消費)	一人當り消費(石)
大正十四年	五七、一七〇	五、〇四七	五、二六一	七〇、三六八	一・三三
昭和元年	五九、七〇三	二、〇五〇	六、九五五	六九、七〇八	一・三三
同 二年	五五、五五二	四、〇九四	七、三四五	六六、九三二	一・三〇
同 三年	六三、〇三三	一、七一九	九、〇六八	七三、八八〇	一・三三
同 四年	六〇、三〇三	一、〇〇〇	七、四〇〇	六八、七〇三	一・三三
右平均	五八、九七四	二、七六二	七、一八三	六八、九一九	一・三三

内地生産は大部分翌年に消費されるもの故、茲には各前年度の産額を掲ぐ。

輸入超過高は年度内輸移出額を差引きたるもの。但し持越米及再輸移出は含まず。故に微細には本表合計額を以て總消費額と見做し難きも大體を知るには充分であらう。

尙大正十四年は特別に輸入高多く、昭和二年も相當亦多額に上りしも、爾後朝鮮及臺灣の移入米の増加に依り、更に減少の趨勢に在る。

千三百六十餘萬圓——大正十四年には實に一億二千萬圓餘——に上つてゐる。又朝鮮及臺灣よりの移出米

上表平均高に依つて知り得るが如く、我が内地米は其の消費高と對照して年々一千萬石内外の不足を告げてゐるが、其中大正十四年の如きは別とし、近年朝鮮及臺灣よりの移入高が増加して約八割内外を補充し、他の二割、約三百萬石内外が外國米の輸入である。そして此の數年來輸入米に對して何程の金額を外國に支拂つたかといへば、昭和三年度五千一百萬圓、同二年年度七千九百萬圓、同三年度三

に對して支拂つた金額は昭和元年度二億五千五百萬圓、同二年度二億五千九百萬圓である。即ち年々少くとも三億乃至三億五千萬圓の巨額に相當する米が我が内地國民に不足を告げてゐるのである(尙半面に於て之が爲め朝鮮が粟、臺灣が外米を輸入しつゝあることは前に指示せる通りである)。

量に於て一千萬石、金額に於て約二億五千萬乃至三億圓。それが斷じて輕少なる數字では無いことは言を加ふるを俟たない。勿論大勢より見れば外米の輸入は、大正十四年を峠として漸減の傾向を示し、昨昭和四年の如きは既に百萬石程度にまで減少した。而かも此の百萬石中には餉其の他の菓子や燒酎などの原料として使用せらるる、碎米を含むが故に、樂觀的には鮮臺を包有する我が國家經濟の全局に於て著しく以前の狀態を緩和せられつゝありと認め得る。然れども年々九十萬人内外を數ふる我が内地人口増加の趨勢を眼前にして、思ひを前途に運ぶならば、果して現状のまゝに傍觀し、自然の成行に放任して心を安んじ得べきや否や。

朝鮮及臺灣の産米は尙増加するでもあらう。我が内地米も同じく生産を増すではあらう。それでも今日の農作法、今日の農業經濟のまゝに經過するに於ては、既往の實績より推算し十年の後には朝鮮及臺灣よりする移入米の増加を當込みても、恐らくは約一千萬石の不足を外米に仰がなければならぬ立場に達するであらうことを考慮し置く必要がある。而してそれが二十年後には又二千萬石に倍加し、三十年後には益々累増して更に驚くべき數字を示さずとは何人が斷言し能ふか。且又前に一言せるが如く米の國際商品化は朝鮮及臺灣米の移入と共に益々米價の低落を誘致し、内地農村をして一層不利なる地位に投すべき運

命を示唆されつゝある。之をしも等閑に附して如何に農村を振興し、如何に國民經濟を建直し能ふか。

(四) 合理的方策如何

近時食糧自給に關する列國の施設は、極めて徹底的にして且つ用意周到である。例へば先年英國が砂糖の栽培を奨励するに方り殆んど原價同額の補助を與へ、近くは又滿洲の大豆の種を移植して自給の計を講じつゝあるが如き、又濠洲が五ヶ年間全然外産砂糖の輸入を禁止する政策を敢行する程の保護主義を執りつゝある如き、何れも國家經濟の大局に鑑みての計慮に外ならない。而かも斯くの如きは、たま／＼以て農業に關する保護政策の一端を示せるに過ぎずして、廣く之を列國に徴すれば、其の實例は寧ろ枚舉に遑が無い。然るに翻つて我が國の現状を見れば、姑息不徹底なる彌縫策以外、其處に果して如何の根本方策があり、如何の施設が國家百年の長計として策定せられつゝありや。

そも／＼我が國の農業、殊に米作は既に天候關係に支配さるゝこと少き迄に進歩せりとはいへ、尙若干の豊凶を告ぐる毎に價格の暴騰暴落を惹起し、之が爲に國民の過半数を占むる農業者の立場を甚だしく不安の状態に放置するが如きは、果して爲政者たるの任務を完うせるものと稱し得るであらうか。暴騰する時は忽ち都市に於ける消費者の生活を脅威し、暴落する時は又忽ち農家の經濟を苦境に沈淪せしむる。之を以て不可抗力とし拱手傍觀するは自ら人間の智能を無視すると異ならない。人間には自然を征服し制御し得る能力があり、自然の暴威と人類の生活とを整調し得る叡智と技術とが與へられてゐる筈である。國家

の政策、政府の施設は其の征服乃至整調の爲である。現に歐米各國に於ては麵麩肉類等其の他主食品の價格は殆んど一定し、それに變動なからしむることに多大の注意を拂つてゐるのであつて、若しも異常の騰落を惹起するに於ては世論囂々朝野を騒がし、延いては爲政者の責任を問ひ内閣更迭問題ともなるのである。尤も既往に在つては概ね主食品の價格騰貴を防止し、消費者の生計を擁護する手段として之が調節を緊切とせられたのであるが、近來は生産の方面にも同様なる注意と努力とが差向けられつゝある。曩に米國大統領選舉戰に際して農作物の價格安定が共和及民主兩黨の重要な政綱として持ち出されたことは何人も之を記憶するであらう。今や小麦及棉花の市價低落を調節する爲め生産段階制限が高唱せられ、生産消費兩方面に對する合理的調節策は現に列國を通じて大なる關心事となつてゐるのである。

交通機關の普及と耕作法の進歩に伴ひ、我が國に於ても昔時の如き饑饉の慘禍は既に跡を絶ちたりと言ひ得べきが、米價の幅廣き變動は尙之を免れ能はずして、高き時は一石四十餘圓にも上るかと思れば低き時は二十五圓にも下るのである。近年は亦朝鮮及臺灣の作物如何に依つて其の影響を受け、之が爲に農家は必ずしも米穀の多産多量のみを至上の幸福とはせず、凶年不作の臻るを恐れながらも豐作に依る過度の暴落を憂ひて、其の胸には常に不安が漂うてゐる。其の矛盾せる心理作用、其の複雑なる利害關係、加ふるに大自然の脅威と鮮臺米の影響等一日も暢かな心地はしないのである。勿論消費者としては米價の低廉なるを欲するは言はでものことであり、殊に工業政策上に於ては其の勞銀關係よりしても、成るべく米價の低きを一要件として希望するに不思議は無い。

この利害相反せる生産者と消費者との関係を合理的に調節することに政治及政策の認識価値がある。同時に生活安定、思想安定、國民經濟安定の先提的及基礎的職業か、如何に取扱はれるかに依つて其の國の爲政者及國民の能力が判定されるのである。本來よりいへば國民の主食品は安からねばならぬ。併しなから過度に安きが故に生産者をして多量多産を囓はしむるが如きは絶対不合理である。國民の主食品を生産することの爲に、雨に濡れ風と戦ひて長き勞役に服するに拘はらず、其の結論が貧苦であるとせば、世に是れ程大なる矛盾は無い。

こゝに於て當然に導き出さるべき原則的方策は、低廉にして而かも同時に生産者の立場を快適ならしむることである。消費者にも農業家にも共に安意と満足を得せしむることである。少くとも其の雙方に脅威を與へず、相互の生活の安定を期することでありねばならない。然らば現在殆んど反對の立場に在るが如き生産者と消費者とをして相共に其の福祉を増進せしむる方策如何。それは神と雖も或る一つの方法しか指示し能はぬのである。何ぞや、集約方法を科學的經濟的に改善利用して農家の収益を多くし生産單位を豊富にすることだけである。別言せば同一面積よりする生産高を多くすることに依つて、生産原價を低廉にすると同時に、農家の利潤を増加する。例へば従来一段歩當りの收穫平均約二石と假定して若しそれに一割の收穫を増したとせば、即ち其處に生産者の利得は一割だけ加はる。二割三割乃至五割にも十割にも收穫が増せば、其の生産原價は更に之に伴うて引下けても農家の利益を減せない理である——勿論精密には肥料代及勞力等の増加も之を見込む必要があり、過度の多量生産に陥る時は所謂收益低減法の症

狀を呈する。故に總ての場合に於て、科學的及經濟的なるを要するのである——これ即ち大量生産に依りて需給相互の利益を増進せしむる經濟原理の實現に外ならないのであつて、それは常に米其の他の農産物とは限らず、あらゆる産業に共通する定則たらねばならない。近時の流行語たる所謂産業合理化なるものは、消極主義の政策に誤られて人爲的に農産物の價格を下落せしむるが如き手段を意味するのでは無い。又消費節約を強調して一般の需要を減退せしめ、生産者を死地に投ずるが如き政策が何うして産業合理化などと稱し得やう。大に生産を増進すると共に大に需要を喚起する。此の外に生産消費兩者の調和と融合法は無いのである。

随つて問題は又二つに分れる。如何にして一單位當りの生産を多量にするか、其の第一であり、如何にして多量生産に依る米價の下落を適度に整調し其の價格を安定せしむるか、其の第二である。前者は收穫高の増加、即ち「量」の問題である。後者は生産の増減に由る暴騰暴落を調節する。即ち「價」の問題である。そして此の「量」と「價」とが生産者と消費者との雙方の利益を共に確保せしむる點に、有意義なる國家の政策が働いてこそ、初めて我が農家の憂惱と、米を主食物とする國民の胃の腑から屢々發生する恐怖的心理が取拂はれ得るのである。

それで茲には「量」の問題を説き、次いで「價」の問題に移ることとする。

(五) 農村の科學化と多量生産

練の試作者の收穫高よりも遙に低く、之を其の勞力及施肥等の點より對比すれば暹羅や、英領印度支那のそれにも及ばない。地味及氣候の關係に由るにもせよ、段一石五斗は徳川時代の實質的標準高であり、爾來一世紀を経て未だ二石に達しないのである——實際には現在にても二石以上なりと主張する論者あれども——之を目して原始的狀態を離るゝこと尙遠からずと評する人あればとて、徒らに憤激的態度を以て抗爭するは決して大國民の經濟眼では無い。

吾々の斯く言ふは既に種々の確證が提示されてゐるからである。現に一昨昭和三年には滋賀縣に於て一段歩七石を收穫せる事實が擧つて居り、更に昨昭和四年には島根縣に於て一段歩實に八石四斗てふ好成绩を現はしたのである(之を内地に一般化し得る可能性の有無並に所要經費の問題等は尙未知數だが)。又福岡縣に在つては一段歩平均三石餘の記録も出てゐるのである。二石未満と八石四斗との差は一對四強であり、假りに其の半額よりも少く四石を以て全國的標準と爲し得る迄に立至つたとしても、我が國民に取つては一大驚異であり、國民經濟上の革命的變化であらねばならぬ。勿論此の結果を持ち來す迄には、假りにそれが可能且つ有利にもせよ、尙相當の歲月を要すべく、隨つて此の間に於ける人口の累加と需要の増進をも考へなければならぬが、少くとも從來の輸入を防遏し得る程度にまで生産増加の方法が無いとは決して言はれないのである。

かくて生産の増加即ち「量」の問題は單なる空想にも幻覺にもあらずして既に現實化の道程に在る。然らば其の方法、其の技術如何。一言以て掩へば即ち集約に集約を以てせる人間智能の結晶である。我が富良策は積極的なる增收計畫の達成以外、合理的手段なきが故に。

とはいへ、一段三石乃至八石餘の收穫は從來の耕作法そのまゝを踏襲しただけでは素より期待され得るものではない。それには種々の條件を要する。殊に深耕と施肥とが其の二大要件である。深耕法を一般化する爲には機械の力を應用しなければならぬが故に、個々の農家に於て其の設備を完備することは至難であり、隨つて組合又は府縣農會等の機關を活かして協力的に利用せしむるを可とすべく、それには政府の指導及必要なる保護政策が當然に發動しなければならぬ。其の上進んで豊富にして低廉なる電力を應用するに至らば、能率の増進期して待つべきである。農村の電化は既に露國之を計畫し、伊國も極力其の實現を激勵しつゝある。そは米作限りの要具では無く、灌溉、排水等にも利用すべく、同時に養蠶に際して。蠶室の換氣と溫度及干濕、桑葉の乾燥等に宜く、又脱穀、精白、製粉等其の利用方面は極めて廣汎である。其の他養禽、畜産、水産等にも直に活用し得べきが故に、農村の電化と機械力の運用は、古來専ら太陽の動きと天與の雨水にのみ運命を託せる農家をして、新世界を發見せると殆んど同様の効果的活路を開かしむるであらう——若し夫れ機械力應用の爲に人間力を輕視し、それだけ勞力過剩、失業群を増加すべしとの説は、最初の出發點に於て鎖國的錯覺に囚はるるものである。積極的に各種産業を起さば勞力の需要は増大する。産業は獨り米作のみでは無く、又國內限りの需給關係を超越せる幾多の國際的産業がある。

故に産業發展と勢力消化とは必然的に因果的關係を持つ——

肥料の問題は亦特に農村に取つて切實性を有し、就中米其の他の農作物に關する限り、極めて重要な内包的意義を含蓄しつゝある。所謂肥料管理法案の發想せられたるも之が爲であり、現消極内閣すらが肥料の配給改善を其の主要政綱として掲げてゐる。但し單に配給改善とのみにては何等具體的價値を有せず、進んで根本的なる自給策を樹つると同時に其の價格を極度に低下するにあらずんば、未だ以て問題の解決點に到達せりとはいひ能はぬ(電力及肥料等の事に就ては)。

農村の機械化は、他の言葉に於て農村の科學化である。其の電氣電力に於けるも、其の肥料に於けるも、皆科學的智能の發達應用たらざるものは無い。耕耘、播種より運搬貯藏に至る迄、結局は機械力の勝利を告ぐる時代である。それが米國に見るが如く大農式なる能はずして我が國特殊の集約法を要するところに確實精緻なる實驗科學の力が働かねばならない。そして交通機關の完備である。道路港灣の改修である。金融機關の充實運用である。わけても治水事業は内務省調査に由る年々の洪水被害高平均約六千萬圓に上るの事實に徴するも、國策の一部面を占むべき重要施設であらねばならぬ。年額六千萬圓は十億圓以上の投資に價ひする事業である。

治水事業は同時に林産増殖事業である。所謂「水を治むるは山に在り」で、昔は森林國を以て目されし我が國が、近年一億圓もの木材を輸入せなければならなくなつたことは、寧ろ驚くべき不用意と無政策の暴露である。過去十五年間に於ける河川改修事業には不充分ながらも、尙ほ六億圓を支出してゐるが、此

の間、造林費は僅に八千萬圓に過ぎない。これ素より官有山林のみに對しての費目ではあるが、其の至らざるや察すべきである。若し此の如き趨勢を以てして今後三十年五十年を経過せば果して何うか。或る専門研究家の説に依れば、年々二百五十萬圓を植林事業に投じて四五十年後に約五十億圓の木材を得るは確實であると言ふ。建築材料や薪炭を別としても製紙又は人造絹絲の原料にも行く、少なからぬ木材を要するのみならず、一度支那の將來の需要を考ふる時(彼國が現在及近き將來に於て容易に林業施設等に着手し得ない實情を見て)五十年後の彼我需給關係と更に歐米各森林國の伐採狀況に想到せば、其の五十億圓が四五十年後に至り幾億圓の價を呼ぶか、測り知れないのである。木曾の檜林、秋田の杉林は今日我が寶庫の一と言はれて居るが、それは當時大名の一家老が創意實行せし賜に外ならない。山國にして而かも石炭の埋藏量僅に九十億噸に止まり將來の工業動力を水力に依頼せねばならぬ日本としては、大に林業經濟を考慮する必要がある。況んや世界の大勢を見るに天然林は今後遠からずして概ね伐採され盡さる運命に在るに於て、我が國に於ける森林は伐る代りに植ゑねばならぬ。治水及林業に對する徹底的施設は、米の問題と共に、農村振興の方策として併行しなければならぬ重要事業である。

上述の如くにして米の増産方法は既に見出されつゝある。一段歩當り八石餘の收穫は尙試驗時代なりとしても、之を三石餘に増加せしむることは恐らく最早や疑問ではあるまい。假りに全國各地の肥瘦及氣候關係等を考慮し且つ漸進的改良を計るとして最少限二石五斗と見積るとも、既往五ヶ年の内地平均總産額五千九百萬石が七千五百萬石以上となるのである。隨つて現在我が内地國民が必要とする六千九百萬石

の需要を満たし、従来の輸入を全然不必要とするに止まらず、更に六百萬石の餘剰を生じ之を海外に輸出し或は備荒貯蓄と爲し得るのである（勿論之が爲には相當の準備と經驗と歳月を要する。故に一兩年にして直ちにそれだけの増産とはならず。此の間亦人口及消費の増進をも見込まねばならぬを以て、實際には需給關係に急激の變動を惹起せない）。今日農民所得高の三割に該當すると稱せらるゝ公課は一段歩一石八斗の場合も二石五斗の場合も格別の差異なく、農家の日用品即ち衣食住の費用も何等新たな負擔を加へず、そして努力は我れに於て餘りあり。唯だ肥料に若干の支出を増すとすても、それは別に之を低廉ならしむべき施設を見出し得る途がある。而して更に其の收穫を三石以上たらしむるに至つたとせば、十年後の人口増加も將た生活向上に依る消費の増進も亦敢て憂ふるに足らないのである。

前に提出せる「量」の問題——單に米のみでは無い。之を推し擴げて農産物全部に共通するところの具體的根本的産額増加策——は既に以上の説明に依り略々讀者の了解を得たことと思ふ。

(六) 米價調節策と國際商品化

次には「價」の問題である。率直にいふならば、現時農家の悩みは「量」よりも「價」の如何に在る。豊作に歡呼することよりは、米價の下落が胸を撃つ。深刻なる恐怖と不安は、天候に禍ひさるゝ凶作よりも、寧ろ生産費を割る「價」の脅威に在る。殊に現時の消極政策のために如何に農産物の價格を下落せしめ、如何に農民の額に愁ひの罅を深く刻ましめつゝあるかは、先きの總選舉後に至り、既に判明せる事實

ではないか。それ故に、若しも米の増産が、「價」の問題を考慮すること無しに計畫せられたとせば、我が國の農業家は舉つて之に反對し、或は之を呪咀するでもあらう。何となれば不用意なる米の産額増加は、價格の下落を豫告すると異ならないから。國家の力に依る對米價策は、こゝに緊切なる理由を持つ。從來とても原内閣の施設にかゝる米穀管理法あれど、未だ完全なる効果を奏したとはいへず、此の數年間に於ても一石に付大正十四年には四十一圓を突破し、本年は二十六圓臺に下つたやうな状態であり、其の騰落の開きが屢々十圓も十五圓もの幅を示しつゝあるは、何人も熟知する所である。それで此の開きを狭め、此の幅を縮めて生産費を割らざる範圍に、同時に消費者の負擔を重くせざる程度に、價格を安定せしむることとは、國民の主食品に對して極めて當然の方策であらねばならぬ。

其の實行方法として當面的には矢張り現行米穀管理法の精神を徹底せしむる趣旨に依り、各年度の豫想收穫高を標準とし、其の過不足を推計する。そして供給不足を告ぐる場合は先づ一定の備凶貯米を以て補充し、更に不足の分は外米を輸入し、過剩と認むる場合は海外に賣り放つ。從來の如く政府の買上米を數年に亘りて徒らに貯藏する結果、其の量が必要以上に過剩を告ぐる場合は常に市場を壓迫し價格の騰落を招くを以て、此の缺點を貯藏米の海外放出に依つて排除するのである。既に上來の記述に依つて明かなるが如く、我が國內地の不足米は朝鮮及臺灣よりの移入を別にして、約二百萬石（昨四年度は百萬石に止まれど）内外なるが故に、之に相當する準備をだに用意せば足るのである。この準備以上に政府が貯藏米を死藏する必要なきのみならず、豊作の場合は何等貯藏の必要は無いのである——但し朝鮮及臺灣の作物

にも常に注意を拂ひ移入米の推定量を参酌すべきは言ふ迄もない。随つて内地及植民地共に豊作過剰を告ぐる場合は移入米に對しても適當なる統制を行ひ、内地植民地相互間に於ける投機的競争の爲に市價を混亂し、相互の利益を共殺するが如き弊害なからしむるを必要とする——手短かにいへば政府は作柄の豊凶を見て其の買上米を増減し、豊作過剰と認むる時は特に買上數量を増加して之を海外に輸出することゝする。

此の方法に依る時は、第一に如何なる凶年と雖も豫め準備を整へあるが故に、米價の暴騰よりする消費者への脅威を排除し得る。第二に豊作過剰より生ずる暴落を阻止し、生産者の不安を消滅せしめる。第三は國家が常に國民に必要缺くべからざるだけの米を準備してゐる。第四に國民の主食物たる米價が安定する。第五に生産者も消費者も將た地主も小作人も其の利害關係を調和され、相互間の反撥的傾向を防遏する。故に假りに此の方法を行ふがために國庫の負擔を避くる能はざるにもせよ、米價の激動に依る脅威壓迫を取除き、其の過不足より來る各種の不安と弊害とを消散又は輕減するを得ば、それは國民に取つて寧ろ安値なる負擔といはねばならぬ。

唯だこゝに疑問の眼を差向けらるべきは、上述の如き海外への輸出が果して可能なりやといふ點である。然り、此の一點こそは營に如上の計畫の成敗如何に關するのみならず、實は我が國將來の米作問題に對し、大なる謎を投げ懸けるものである。若しも米の輸出が絶對不可能なりとせば、一定限度を越ゆる米の増産は寧ろ禁物となり、一段十石を理想とする富民協會の努力も、内地及朝鮮に於ける耕作地の開拓も

却つて手加減を要するに至るやも知れない。何となれば過度の増産は勢ひ價格の暴落を招き、遂に生産費を割るに至る虞れあるが故に。併しながら、現に外米が立派なる國際的商品として我が國に輸入されつゝある如く、米は世界的需要品の一つである。我が國民の多くは内地米の不足と古來の嗜好に執着せる結果、全然輸出不可能かの如く考へつゝあるに似たりと雖も、明治の中葉に至る迄の日本は既記の如く米の輸入國にあらずして、却つて輸出國でありたる事實を今一たび其の記憶より喚起せなければならぬ。統計に徴するに現時米の生産地としては蘭貢、暹羅、西貢、支那、日本、瓜哇、比律賓等を主なるものとし、他には米國、ブラジル、伊太利、西班牙等にも少許の産額がある。然るに是等各國を通じて米の輸出國はビルマ、暹羅、印度支那の三國に過ぎないのであつて他は悉く輸入國である——局部的には各國共若干の輸出入があり、就中米國は約百萬石内外の輸出超過であるが——それで試みに上記三國の輸出入量及其の仕向先きを見るに左表の如し。

世界各地に於ける米の輸出入概況(單位千噸、昭和四年度)

輸入地	輸出國別			合計
	蘭貢	暹羅	西貢	
歐洲	七三	三元	二六九	一、〇四六
米洲	二八	七三	二四	二〇四
支那	一〇七	三三三	五三四	九四四
日本	九一	一〇五	四九	二四四

乃ち、米は單に亞細亞民族のみならず、歐米に在りても既に相當の需要を有する國際的生産物であり、而かも米の主産地たる亞細亞諸國中に於て輸出力を有するは唯だ緬甸(蘭貢)、暹羅

瓜哇	三五	九一	一九五	四〇一	及安南(西貢)三國に止まり、
印度	一、三六	—	四九	一、三六	他は四億の人口を擁する支那も
其他	三四三	五四	一〇八	九六五	三億の民族を包含する印度も皆
計	二、九四二	一一五四	一、二五八	五、三五六	輸入國であり、南洋海上に浮ぶ

瓜哇ですら日本よりも遙に多くの供給を他國に仰いでゐるのである。

一層通俗的にいふならば今日の國際的貿易品としての米は上記三國より五百三十五萬噸(假りに一噸六石として換算せば三千二百萬石餘)を世界各國に輸出して居り、其中歐洲が百萬噸餘(約六百萬石)を需要し、印度は約四十萬噸(八百四十萬石)、支那も亦約百萬噸(六百萬石)を輸入してゐるのである。この事實よりいへば日本の如きは寧ろ少額の外米需要者として見らるゝ程の觀を呈し、隨つて今後假りに我が國に於て既述の米穀調節法に依り二百萬石程度の餘剩米を海外に放出する場合ありとしても、現に三萬石以上を消費しつゝある世界は、其の割にも達せざる端米の爲に決して消化不能を訴ふるが如き虞れは無いのである。就中我が近域には支那があり、近年國內の騷亂と彼れが國民生活の向上に伴ひ益々米の不足を告ぐる實情に在るを以て、將來我が國の産米高が増進し、恒久的輸出國の地位に轉ずればとて、其の對策に宜しきを得るに於ては、敢て消費者なきを危惧するにも及ばないのである。

但し此の場合特に注意を逸し能はざるは其の價格である。米が既に國際商品として取扱はるゝからには其の價格も亦當然國際市場の標準に順應せなければならぬ。現在我が内地産米質は祖先以來國民の嗜好

に慣れ、且つ供給不足の状態に在るが故に未だ他邦の波動を被らざる觀を呈すれど、上述の私案に依り我が過剩米を處分せんとするに方りては勢ひ國際市場の相場を無視することは出来ない。國庫の負擔は即ち内地相場と國際相場との差額を意味するのであつて、假りに内地米時價一石二十七圓とし、今日之を輸出せんとするに於ては外米時價十八圓と見て其の差額は九圓である。しかし我が内地米は蘭貢米に比して常に二圓内外の高値を呼び、それだけ實質の優良なるを國際的に認識されつつあるを以て、實際の値開きは一石七圓以下に止まるべく、隨つて百萬石に付き六百萬圓以内の差損を生ずる譯である——現在平年に不足を告げつゝある我が内地米が、たとへ何程の豐作に恵まれたりとしても、所謂過剩米の殘高は寧ろ知れたものである。決して數百萬石に上るが如き奇蹟的大豐作に逢着すとは想定されぬ——此の差損は甚だ不利に相違なしと雖も、之に依つて米價が安定し、生産及消費の兩者が共に頭上の壓迫を取除かれ得とせば、それは毫も無意義の損失たらざるのみならず、國民經濟の全局より見て其の効果は至大なりと思ふ。これ余輩が現時の米穀管理法を改正し、その運用を徹底的ならしむることの必要を唱ふる所以である。

以上は主として當面の問題たる對米價調節策について所見を陳べたのであるが、翻つて前段に説きたる量の問題、即ち米作法の改良に依り、一段歩當りの收穫を増加し、二石五斗以上三石、四石乃至八石にも上るが如き時代に到達せば何うか。それは全然別個の問題であり、隨つてその對策も亦當然に轉換されなければならぬことは言ふまでも無い。此の場合に於ける米は最早や内地需要を對策とする生産物たるに止

まらずして一大輸出品となり、國際的商品として評價される。其の結果若しも蘭貢及西貢米との競争に不利なる時は我が國の農家は自動的に耕地の利用法を變ふると同時に、政府も亦適度の生産調節を行ふべく指導せねばならぬ。しかし今日吾々が直面しつゝある眼前の問題は米の不足を豫想しての方策である。故に茲には現狀に即して量と價との兩面から當面の對應策を略述したのである。

(七) 斯くて農村は甦へる

上來吾々は我が農村及農作物問題に關する代表的命題として専ら米の事を論じたが、其處には單に米の問題とは限らず、一般農業者の將來に對して相當重要な指針を見出され得ることと思ふ。それは所謂農村問題の根本的解決策が結局は科學的、經濟的なる進取的施設に基きて積極的に生産増加を計る以外に方法なきと同時に、我が内地米も亦他の農作物、即ち小麥や大豆の如く總ては國際化さるべき趨勢に向つてゐるといふ事である。

この二つの觀點を如何に理解し、此の趨勢に對して如何に善處するか、究竟する所、農村振興策の認識價値は其の理解と對應策の妥當なるや否やに在る。之を見忘れたる一切の論議、之を考慮の中に置かざる總ての方策、それは大局に目醒めざる迂見にあらずんば、一種の口頭禪に過ぎない。科學的經濟的なる施設としては例へば低廉なる肥料の供給、農業の電化、機械化、農具及農作法の改良を要求する、又國際商品化の途上に在る農作物は極度の集約法に由る多量生産を必要とし、而して其の價格を國際的水準線にま

で持ち來さしむることを豫想的條件たらしめる。幸ひに我が國の農業者が之を早きに自覺するならば、そして思慮ある爲政者が國家の力を善用して此の機運を有利に開導し助成するならば、現に行き詰れる我が國の農村は其處に潑刺たる光明面を展開するを疑はない。

或は言ふでもあらう、斯くの如き積極的方策に依り徒らに多量生産を促すに於ては、さらでだに供給過剩を告ぐる農作物の價格を益々低下せしめ、却つて農家を苦しむるに至らずやと。此の種の見解は屢々消極主義者の口より唱へらるゝ説であるが、しかしそれは實に經濟の通則を無視するのみならず、現に食料輸入國たる我が國の實情に眼を閉づる局少見である(米國の小麥及棉花等が生産過剩の爲に低落せるは事實なれども、彼れは元來が農産物の輸出國であつて、我が國の如く米、麥、豆等食料品の不足に悩む輸入國とは異なることを見忘れてはならぬ)。既に前にも言へる通り再び米の問題に依つて例示するならば、假りに一段歩當り二石未満の米を四石に増すとせよ、一石二十七圓の時價を引き下けて二十圓ならしむるとしても尙農家の所得は一段歩に付五十四圓對八十圓の比差を生じ二十六圓の利益を増すではないか。此の場合合肥料代其他若干の費用増加を免れざるにもせよ、公課其他の諸係りは同一であり、且つ蘭貢及西貢等の外米とも對抗し得ることになる——又假りに我が内地米一石の價格を三十五圓と見積りても一段二石當りの所得は七十圓である。然るに四石の收穫を見るに至らば、一石二十圓としても一段歩當り八十圓を得るのである。因に大正十二年以來の外米平均價格は本邦受渡し相場十九圓内外の指數を示してゐる。但し日本米の國際市價は外米と比較して二圓高なること既記の如し——勿論こゝに例示する所は假定的數字

であり、實際的には吾々と雖も無限的又は無軌道的に多量生産を主張するのでは無い。世界各国の需要にも自然的制限があり、我が國としては寧ろ内地國民の需給を圓滑にし輸入を防遏する程度を以て最も有利と考へる。

且つ夫れ科學的及經濟的方法に依り假りに或種の農作物が過剰を告ぐる場合に立至るとせば、土地利用方法を轉換して他の農作物を生産し得るの利益を忘却してはならない。例へば米の代りに小麦を作るも可、豆を植ゆるも可、粟、玉黍蜀等々々に轉ずるも可、水田を變じて畝と爲すことは今日の科學的設備を以てして特殊的地域以外敢て至難とはせないのである。故に一段歩當りの米の收穫が將來四石乃至十石ともなりて需給の飽和點を超え價格の激落を招くが如き形勢に逢着したとせば、米田を變じてヨリ有利なる作物と取換へる。此の理は米以外の他の農産物に於ても同様であつて、其の實例は古來の茶、麻、棉花を廢して桑園に改めたる農家が夙に自ら經驗してゐることである。之を別の話に移すならば米にせよ、麥にせよ桑にせよ、他の果實蔬菜類等にせよ、一單位當りの收穫を増加すればする程、土地に餘剰を生じ他方面の利用價值を廣からしめる。從來約六千萬石の米を收穫する爲に假りに三百萬町歩の耕地面積を要したりとせば、其の一單位當りの收穫を倍加したる場合は前者の半即ち百五十萬町を以てして同一の産額を擧げ、他の一半はヨリ以上の増收又は別の生産に振向け得るのである。更にそれが四倍乃至五倍して八石乃至十石の收穫を得るに至らば、それだけ我が國の領土が擴張して肥沃なる耕地を増加したると同一の効果を發生する。國土狹隘人口稠密にして一戸平均一町歩以内の耕地しか持ち得ざる我が農家としては、斯くし

て其の利用價值を増進せしむることに依り、如何に國民生活を多幸ならしめ能ふかは最早や絮説を俟たずして分明と信ずる。

事新らしく繰り返すまでもなく、我が國は主食料たる米の外、昭和三年の貿易は小麦、砂糖及豆類の爲に各々六七千萬圓にも上る代價を海外に支拂つてゐる。又高粱に約四百萬圓、玉蜀黍に約三百萬圓、探油用種子には二千萬圓、總に一千四百萬圓等々々、實に巨額の輸入を餘儀なくされてゐる。これ國家經濟上決して米に劣らざる重要問題であらねばならぬ。然も麥、豆、玉蜀黍の如きは我れに耕地の餘裕だに生ずれば寧ろ容易に生産せらるゝものであり、又若しも我が内地米の増産計畫が實現し、將來植民地よりの移入を必要とする時機至れば、臺灣に在つては益々砂糖の増産を圖るべく、朝鮮に於ても麥、豆等は勿論、現に彼れが滿洲より輸入しつゝある粟、高粱等を自給し、或は他の農産物と取換へ得るのである。要するに根本の要件は生産増加である。農村の振興も、國民經濟の充實も、食料の自給、輸入の防遏も、國際貸借の改善も、事の農業に關するに限り、極度の集約法に依る多量生産を措きて別の工夫はあり得ない。而かも之が爲には農業の科學化及經濟化を要求すると同時に、國家として適切なる積極的施設を講じなければならぬ。併しながら國家の施設は産業爲本主義に立脚する國策の確立を前提とする。明快確乎たる方策なくして區々の小計に耽り、局部的彌縫に没頭するが如くんば、斷じて妥當且つ有意義なる徹底的手段は見出され能はぬからである。

説いて茲に來れば、世人又或は如上の方策を遂行するに方り驚くべき多大の經費を必要とせざるかを懸

念するかも知れない。されど差當つては集約的生産増加の要素たる肥料を安價に供給すること、農作法の改良に伴ふ機械及電力の普及が其の直接的な主目であり、實際は何程の費用も投ずるには及ばないのである(肥料、電力等の事)。假りに之が爲に二億乃至三億の資金を要すとしても、國家經濟上に持ち來すところの利益は之に數倍する。例へば現在年産約六千萬石の米が單に一割即ち六百萬石を増すと見ても一石二十七圓當りに計算して一億六千二百萬圓の増收となり、二割の生産を増すに於ては三億二千萬圓以上の利益を國家經濟に齎らすのである。更に河川改修、耕地整理、用排水工事等の爲に國庫より約十億圓を支出する事に依り、毎年三億圓の増收を得る計數も又立派に成立する。米の生産過剰を避くる爲め之を麥、豆等の増産に振向けたる場合も結果に於ては同一の理であり、輸入防遏又は輸出増進の形に於て生産増加に基く所得額は當然國民經濟を潤すに相違ない。故に國家としては毫も此の種の生産的投資を惜むべき理由なきのみならず、農村振興の根本策は這般の積極的計畫に依つてのみ實現化し得るのである。而して他面治水、開墾、道路、交通運輸機關等を整備し、資金の運用を圓滑ならしめ、組合の發達を促進する等、それら適當なる施設を講ずるに於ては常に農業に限らず各般の産業も同時に勃興する。斯くして初めて農村は變へり、國民經濟は如實に建直され能ふのであつて、因循姑息なる他の如何なる手段を以てしても、確乎たる國策の樹立と其の發動とに由らざる其の日暮しの小策は寧ろ無價値に墮する。

尙農村繁榮策として齊しく考究を缺くべからざるは農家の副業である。昔は養蠶及紡織を以て主なる副業とせられたが、今日養蠶は副業以上の重要産業であり、紡織も亦夙に工場化機械化の時代に入り一般

の副業たる範圍を超えてゐる(此の事第十一。現に實行せらるる、眞田、麥稈、カマス等の小手工業の如き、或は家畜、養魚等の如き、何れも更に大に奨励せらるべきものであり、曩に大正十四年より昭和二年に互り鶏卵の輸入額三千數百萬圓に上るに及び、農林省は國立種鶏所を設置し、養鶏の奨励と品種の改良を促進したる結果、兩三年にして早くも輸入を撃退し却つて輸出國たらんとする趨勢に一變せる程に副業の價値は重要である。故に此の方面の調査と指導とは爲政者として特に努力を怠つてはならない。又北海道より東北及北陸地方に亙る寒地の國民は南國と比較して農産物に恵まるゝこと薄きが上に、冬季四五ヶ月間手を空しくして坐食の状態に在るものが多い。是等の人々の爲に適當の副業を見出すことは勞力經濟上極めて緊切なる要務であり、例へば時計其の他小機械の部分品の如き、レース及刺繡類の如き、或は進んで電光、電熱及電力を利用して副業的家内工業を起さしむるが如き、政府及町村産業組合等に於て然るべく考察協力すべきである。

本章は我が國農業の代表的命題として米に關する問題に稍と多くの言を費したる關係上、他の農作物及林業問題等につき詳述の違なきに至つたが、無論賢明なる讀者は既に農村振興策の如何に在るべきかを十二分に理解され得たるを疑はない。

曾て聞く、英佛海峡の一孤島たるゲルンゼーは其の耕地面積僅に我が四千町歩、人口四萬五千人に過ぎるに拘はらず、馬鈴薯蔬菜等の純農作物に由る輸出額は實に年額一千百萬圓に上り、一段歩當りの輸出二百七十五圓を下らずと稱せられてゐる。加之四萬五千の人口を以て牛馬及羊を飼育すること一萬頭之に

依つて得る所の収益も亦甚だ少額ではない。而かも同島の土壤は岩石の破片より成り地誌上極めて不良なるを記録されてゐるのであるが、住民の奮勵努力と耕作法の改良殊に深耕及施肥に精慮を盡し、三十年前に比すれば其の農産物に約九倍の收穫を増加するに至つたことである。勿論其の近域に英佛の如き大需要地あるに由ると雖も、之を以て我が國の農業と對照せば果して如何の感と與へるであらうか。我が一段歩當りの生産高は既述の如く一切の農産物を合計して（爾其の他縁肥用作物までも網羅して）漸く五十五圓乃至六十圓に過ぎざるに對し、彼れは單に輸出額のみにも二百七十五圓に上つてゐるのである。假りに此の輸出額を以て彼れが生産高の全部と見做すとも、尙我れに比して約五倍の收穫を擧げてゐるではないか。他が行ふ所、我れに於て不可能なる理なし、其處に科學的及經濟的なる改良進歩の餘地あることを證據立てゝゐるのである。これ吾々が積極主義を基調とする國策の確立を提唱し、依つて以て農村振興、産業發展の根本的要件と爲す所以に外ならない。

第十章 工業發展策

(一) 國民生活と工業

我が國民生活の現状より見たる農業の重大性は前に述べた通りであるが、眼を轉じて之を産業國策の全局、殊に國際經濟の上より大觀すれば、我が工業の占むべき地位、與へられつゝある役割の重要さは、毫も農業に遜らないのみならず、其處には農業に期待すると同様、若しくはヨリ以上の働きと發展とを、將來の工業に求めざるべからざる極めて切實なる理由が認識される。

今日我が國貿易上に於ける輸出の大宗が生絲であり綿製品であることは、小學の兒童も知悉する所であるが、同時に輸入品の主なるものに鐵あり油あり機械あり肥料あり、其の他各種の工業製造品を合し、毎年少くとも七八億圓の巨額を海外に支拂つてゐると云ふ事實を無關心に看過するものはあるまい。隨つて我が國の工業を振興し發展せしむることのそれ自體が即ち輸出増進策であると共に、最も適切なる輸入防遏策に外ならないのである。所謂國際貸借の改善といふも、其の最大要件は貿易の好轉と隆昌に依るの外は無いのであり、國富の増進、國力の充實も、語を變ずれば産業の繁榮を意味し、産業の繁榮は特に工業能力の働きたるに待たねばならない。故に世界各國を見渡して其の國民生活の裕かなるは農業と共に工業の振

興に努力する國である(礦業、林業、水産業等も無論同様だが)。就中農工何れが國際的重要性を有するかといへば、概括的には工業に屬するものが寧ろ多く、文化程度の高低遲速も其の國の工業狀態如何に依つて下せられる程である。

又之を人口問題の上よりいふも、其の收容力及消化力の強靱なる點に於て如何なる産業も工業に優るものは稀である。普通に考へらる、農業を始め林業、礦山業等の如きは何れも相當の地域を要し、生産過程上、時間空間の制限を受くることに於て、工業の自由性多きに及ばない。精密には工業と雖も地質及水質等と深き關係を有するもの少しとせざれど、一般的には交通運輸の便を缺かざる限り、小面積を以てして多数の人口を收容消化し得る弾力を持つてゐる。随つて將來に於ける人口問題解決策は必ずしも所謂歸農政策に見出すべからずして、ヨリ多くを工業の發展に期待すべきである。左表は即ち此の事實を物語る一證である。

主要列國民の職業別 (百分比にて示す)

國別	工業及農業	水産業	交通業	自由業	其他
佛	二九・九	四一・五	一六・六	八・一	三・九
獨逸	四一・三	三〇・五	一六・四	六・五	五・三
米	三三・四	二六・三	一七・六	七・〇	一五・七
英	四七・二	六・八	二〇・九	一〇・九	一四・二
蘭	四四・四	二五・九	一六・六	六・七	六・四
瑞	二七・〇	三三・八	一六・七	七・〇	一四・五
白耳義	四六・五	一九・一	一八・五	九・一	七・〇
伊	二四・六	五六・二	一〇・四	六・五	二・四

先に記せる如く現に世界に於て、日本と共に、其の人口密度の高き國に英國、獨逸、白耳義及和蘭等がある(第二章參照)。然るに其の英にせよ、獨にせよ、將た白、和等にせよ、何れも全

國別	工業及農業	水産業	交通業	自由業	其他
日	二二・四	五四・八	一六・一	六・一	一・六
本	三三・一	三三・九	二四・三	七・三	二・〇
加奈	二八・五	三五・〇	二〇・八	九・〇	六・七
和	三〇・八	二二・三	二二・三	八・二	九・一
瑞	二七・〇	三三・八	一六・七	七・〇	一四・五
白耳義	四六・五	一九・一	一八・五	九・一	七・〇
伊	二四・六	五六・二	一〇・四	六・五	二・四

く人口の最多數を占むるものは上表に示すが如く工業業者であつて農林業者では無い。英の如きは全國民の四七・二%までが工業業者であり、之に次ぐは商業及交通業の二〇・九%であつて、農林及水産業に生活するものは僅々六・八%しか無い。又統計上世界最高の人口密度を有する

白耳義は工業業者が總人口の四六・五%を占めて居り、之に次ぐ和蘭の如きも亦三七・八%までが工業業者である。獨逸の農業は頗る盛んであるが、それでも工業業者が多數であり、農業の模範國と稱せらる、丁抹の如きすら、實際には農業の三四%に對して工業業者が二七%を示してゐる。又加奈の如き農産物の豐かなる植民地に於ても、農と工との割合が大いに我が國の現状と異なるものあるは前表に徴して推知し得やう。

勿論工業國と雖も屢々失業問題の起ることがあり、現に英國にも米國にも同様の問題が朝野政治家の頭腦を痛ましめつゝある。併しながら是等の各國に於ける失業問題は其の本質的意味に於て我が國の人口問

題とは趣きを異にする。それは産業經濟界の不況の爲に勞力の需要が減退し、延るて失業群を續出するに至つたのであつて、必ずしも人口過剰の結果ではない。殊に米國の如きは今日尙ほ一方、籽の平均人口僅に十三人に過ぎずして、我が國に比すれば十倍以上の收容力を有する餘裕を持つてゐるのであるから、彼國に於ける失業問題を以て我が國の人口問題と同一視するは全然當らない。換言するに我が國の人口問題こそは最も切實なる勞力過剰の事實を反映するものであり、それは他國に見るが如き一時的現象でなく、耕さんと欲するも耕すべき土地を持たず、働かんと欲すれども働くべき場所を見出し難き生存上の絶對問題化しつゝある。然るに工業國に在つては失業問題あれども人口過剰問題は殆んど之を耳にせず、否之を耳にするも決して我が國の如く深刻では無い。これ即ち工業に依る人口消化力が強靱なる彈力を有するが故であり、隨つて國家の政策だに宜しきを得るに於ては寧ろ多々益々之を辨じ能ふことを疑はない。

既にいへる如く、白耳義は其の面積日本の約十三分の一に過ぎざるに拘はらず、能く稠密なる人口を消化して富裕を世界に誇り得るは何故か。又瑞西の如き山間溪谷より成る小地域の國家を以てして立派に獨立自主の權威を保ち得る最大の理由は何か。言ふまでもなく工業の力ではないか。獨逸が平均約二十億金、麻てふ巨額の賠償金を年々に負擔しつゝ、國勢復興の迅速なること、却つて戰勝國を凌駕する程の觀あるも、亦其の一半は工業の力に由るものである。上記列國中、日本の状態に匹敵するは伊太利であるが、それだけに同國の國民經濟は甚だ安泰ならず、隨つて郷土を後にして海外に移住するもの頗る多かりしは夙に世

の知る所である——但し近年に於ける伊太利がムツソリニの勇斷政策に依り、急轉歩の工業化に邁進しつゝあるは刮目に價ひする——

かくいへばとて吾々は固より農業を輕視するにもあらざれば、之を産業國策上の第一位に置きて可なりとするのでも無い。農産は概ね食料品を以て主とする。食料は國民一日も缺くべからざる生活必需品たる關係に於て、農は國の本なりといふ語は、平凡陳套なれども永久の眞理である。今日世界各國が頻りに農業を獎勵し、米國の如く自然の天恵に饒かなる地に在つてすら、農業に對する保護政策を執りつゝあるは、決して單なる流行性現象とは思はれない。併しながら各國の農業政策を通觀するに、例へば米國の棉花、同國及加奈陀の小麥等の如き特殊の例を除き、他は概ね先づ其の目的を自給自足に置く。そは歐洲大戰當時に於ける辛き體驗に刺戟されての自覺的又は反動的趨勢とも推せられるが、別の見解よりいへば、風土地味に適する特殊の天産以外、農作物の總てをして工業生産品の如く國際商品化するに不便なるが爲であり、海外に供給するに先ちて自國の需要を満たすを急務とするが故でもある。別言せば南北兩米の如く肥沃なる處女地を持つが、又は露西亞の如く廣大なる面積を有する場合の外、自國の國民を養つて尙ほ多大の輸出力を剩す程に豊富なる農作物の收穫はなか／＼に望まれ難い。それよりは工業生産の國際商品化に依つて國を富ますと同時に、國內の過剰人口又は過剰勞力を活用し消化するを有利とするが故である。

世人往々資本少くして而かも生産の豊富確實なる産業は農に如かずといふ。舊き手工業本位の時代に於ては此の言にも一理ありとせられたが、動力の應用、器械工業の時代となつては寧ろ反對の結論に到達す

る。土地及勞力の利用價值より見て、地價極めて低き國は別とし、農業は如何に集約に集約を以てしても工業生産力の著大なるには及ばない。少くとも日本の如き地價高き國柄に在つては、極度に農業の經濟化を圖るにあらざれば採算至難であり、我が農村疲弊の主なる一因は其處に在る——現時我が國に於ける土地の純收益は公課其の他諸係りを除けば資本に對し約三分に過ぎずして郵便貯金の利子よりも尙低い。然るに勸業及工銀行等の貸附利率は最低七分であり、此の一事に徴するも主として土地を財産とする農村の不利は想像せられ得る——それ故に農村の將來は極力農業の經濟化に努力する必要がある、農業の經濟化とは即ち既述の如く之を科學化し器械化することである。而して其の科學化、器械化を別の言葉に置き換ふれば、それは「農業の工業化」に外ならない。即ち將來の農業は電力其の他の新武器を利用し、能ふ限り工業的設備と工業的技術とを取入れることに依つて、その發達繁榮を促さねばならないのである。

故に我が國今後の産業は民族自存の根本國策より云ふも、或は人口、貿易、その他あらゆる方面より考察するも、工業及工業的知識の普及と其の發展と高度化を促進せなければならぬ。國家の富と國民の生活環境が如何に在るか、工業人口の多寡を標準として判別せらるゝ程に、工業國策は顯著なる重要性を持つ。

(二) 我が國工業の一般的價值

一口に工業といつても其の種類は多い。紡績工業、金屬工業、機械工業、造船工業、化學工業等々々、その範圍は頗る廣いのである。で、我が國の工業が如何なる現状に在るかを知らる爲め左表を一覽に供する。

我國の工場統計 (使用職工五人以上) (昭和二年度)

種別	工場數	従業者 千人	生産額 百萬圓
紡績工業	一八、九三四	一、〇五五	二、六七六
金屬工業	三、五〇〇	一一三	四、七〇七
機械器具	四、五〇四	二八三	五、一六
窯業	二、六四四	七三	一、九三
化學工業	二、七〇一	一七	八、八
製材及木製	三、九三三	六三	一、八七
印刷及製本	二、三三九	六三	一、九三
食料品工業	一〇、三三四	一九〇	一、二二三
瓦斯及電氣	四、二四	一一	一、四九
其他	四、三六五	九六	五、二八
合計	五三、六八〇	二、〇九四	六、九七七

にまで發達せしむとせば、既記農工兩者の比より見て尙此の上少くとも一千五百万人近くの人口を工業方面に吸収し得ることになる。

假りに現在の一千八十六萬人の上に、新たに一千五百萬人を加へたる合計二千六百萬近くの國民が、我が國工業の振興に依つて生活の資を獲得するに至つたとせば、今日朝野識者の頭を悩ましつゝある所謂人口過剩問題は如何に在るべきか。又刻下の失業問題や、學校卒業生の就職難問題は何うあらうか。それは單なる机上の想像に依つて、獨り善がりの痛快味を貪るが爲に之を持ち出すのでは無い。一年二萬人にも足らざる移民、而かも歸國者を差引けば僅々五千人未満の人口を海外に送るが爲に至大の努力と奨勵とを要し、或は國際關係上種々の問題を起しつゝある他の一方に於て、一千五百萬人にも上る人口消化策が、我が内地に取り残されてゐるとしたならば、何人か之を以て賢明なりと稱し得やうか。又何人か之を以て爲政者たるの任務職能を盡しつゝ、ありと認め能ふか。其處に産業國策上の重大性が認識されねばならぬのである。

更に前表の工場統計に據つて明かなる通り、我が國に於ける工場工業は二百九萬人の従業者を働かすことにより、六十九億四千七百萬圓の生産高を昭和二年に示して居り、大正十四年には七十億二千八百萬圓、昭和元年には七十一億五千五百萬圓を同じく二百四萬乃至二百七萬人の従業者に依つて生産してゐるのである。當局の調査計數に隨へば此の數年間に於て従業者五人以上を使用する一工場當りの平均生産額は約十三萬圓であり、其の一職工當り生産は約三千四百圓となつてゐる。勿論此の生産高中には多額の原料費を含むのみならず、工場機械設備等に要する資本配當及借入金の子償却等を要するものがあるが故に、之を以て直ちに農業に依る總生産額三十二億五千萬圓と同一視することは出来ない。併しながら、假りに工

場工業の總生産額平均約七十億圓の一割二分を勞銀として推算するも、其の従業者約二百萬人に對する一人當りの所得は四百二十圓となり、男女各半數家族三人とし一戸五人の收入は八百四十圓であつて、等しく五人の家族より成る農家一戸の平均所得六百五十圓よりも多く、又農に従事する本業者一人當りの所得約百三十圓に比すれば、二割強の増收となるのである——加之工場勞働者の中には家族を支持せざる單獨生活者たる約半數の女工を含み其の上彼等の多くは寄宿舎生活なるが故に——彼此對照し來れば其の勞銀關係に於て、農に薄くして工の優れるは多語を要せずして知るべきである。

斯くの如く工場生産額が假令輸入品たる棉花、又は内地産蠶繭等の如き原料代の多くを含むにもせよ、僅に二百數萬人の従業者を以てして、農業總生産額に倍する産額を示しつゝあることは、之に關聯する商業等の間接利益及先きに述ぶる勞銀の比較よりするも、工業經濟の甚だ有利なるを立證する點に於て最早や何等疑ひなき事實である。それにも拘はらず、農に衣食する人口數は其の生産高に逆比例して二千七百萬人に上るに對し、工は工場従業者及其の他の全部を合するも尙一千百萬人にも達しないのである。假りに兩者の統計調査に難易の差ありて農作物の計數に多少の脱漏あるにもせよ、又一方は生活程度低き農村生活者にして他は概ね都會地若くは都會風の生活環境に置かれてあるにもせよ、其の所得に於て二割強の差は可なりに大きな懸隔といはねばならない。

觀點を易ふれば、それは農業經營の尙ほ原始的狀態を脱し能はざる事實を物語るものであり、工業に比すれば、交換價値の低きを物語るものである。それだけに又農業人口の過多を證據立つると同時に、工業

人口の收容及消化力に富めることを推知し得るのみならず、今後の農業經營を改善して之を科學化、經濟化すべき急務を痛感せしめる。

然れども我が國現時の工業を以て、既に假りにも満足すべき程度に在るが如く解するものあらば、それこそ由々しき謬見である。否、我が國の工業は甚だ遺憾ながら未だ幼稚の域を脱し能はざる地位に在ることとを自認せねばならない。農業に比すればこそ稍と優れりとしても、それは單なる國內限りの比較である。又其の一人當りの所得とても、農業に對照すれば有利なりといふだけのこと過ぎない。我が國工業が國際的に占め得べき地位、その世界的價值如何は無論別問題であり、眞實には全然今後の發展如何に懸つてゐる。随つて國家經濟上に於ける對工業策如何てふ問題に關しては、更に廣き觀點より考究されねばならない。

だが是等の問題に對する總括的解答は、苟くも常識を失はざる限り、寧ろ簡單に與へられ得るのである。何となれば、それは我が國の貿易表を一目する事に依りて直ちに判明するからである（前項及第）。即ち生絲及綿絲綿製品の二つを除く外、近世的機械工業方面の生産に屬する殆んど總てのものが輸入超過であり、偶と輸出するものも尙甚だ少きに徴して如何に我が工業能力が國際的に弱く、國內的にも不完成未發達の道程にあるかを推知し能ふと同時に、其の輸出に弱きは將來大に成長進出の餘地あるを示すものであり、未發達の道程を歩んでゐることは、更に大に改良伸展の可能性多きを物語つてゐるのである。疑ふものは少しく米國の工業狀況を見るがい、彼れが工場生産額は一九二五年の調査集計に於て一

千二百五十億圓を超え、我が七十億に比すれば約二十倍に近い。其中、各種機械工業の生産が百億圓を越えて居り、又彼れが化學工業は年額百三十億圓を製出して居る。其の他織物の百八十億圓といひ、鐵鋼の百三十億圓等其の何れを見ても、殆んど我れに較べて十倍乃至二十倍せざるものは無い。又例へば機械工業中の一項目たる電氣機械類を見ても、米國の生産額は約三十億圓なるに對し、我れは漸く一億五千萬圓程度に過ぎない——獨逸は十億圓、英國は約七億圓——凡そ機械工業及化學工業の如きは必ずしも原料の有無或は其の價格に左右せらるゝ産業にあらずして、主として動力、技術及設備の問題である。技術は教育と熟練の生むところにして我が國民の寧ろ自信に富める事業であり、設備は相當の放資に依つて整へられ得るのみならず、是れ又我れに於て必ずしも難しとせないものである。況んや工業に最も必要なる水動力は他國に優りて豊富である事は誰も知る處である。然らば何が故に彼れが行ふ所に比し、我が國の後るゝこと斯くも甚だしきや。誰れか米國の繁榮を以て神の業なりといふや。假りに米國を別としても英國は如何、獨逸は如何、將た日本よりも遙に小國なる白耳義、瑞西等は如何。又その英國や白耳義が日本よりも人口密度の多きに拘はらず、機械生産の増加に由る努力過剰を我が國の如く甚だしく悲觀せざる事實を正視せよ。工業政策に力づけらるゝ人口問題の解決について其處に活ける教訓を見出し得る筈である。證じ來れば我れに確乎たる工業國策の無いことが大なる弱點である。そは農業に對すると同様、産業立國主義の國是が未だ具體的實際的に行はれてゐないが爲の缺陷では無いか。それは又政治の經濟化に切念せず、紛々として眼前區々の問題に其の日暮しの政治を行ひ、且つ之を傍觀し或は無關心に經過しつゝあ

る國民それ自らの招く所では無いか。所謂人口過剰も、不景氣問題も、經濟國難も、其の由て來る所は皆産業國策なきの一事に在るのみ。

(三) 原料及資金問題

時人、口を開けば忽ち言ふ、我が國は資源貧弱にして原料に乏しく、工業の基礎たるべき鐵も無ければ、燃料も豊富ならざるを如何せん。其の語、必ずしも誤らず。併しながら我が國の資源は果して論者の悲觀するが如く殆んど皆無なりや。既に其の乏しき資源を開發し盡して最早や餘地を残さざるや。又其の鐵にせよ、燃料にせよ、將た他の原料等にせよ、之を他國に求むる能はざる理由、若くは之を求むるとも國際的經濟戰に打ち勝ち難き關係に在りや。

こゝに直言する。吾々は其の何れをも無條件的には肯定する能はずと。

假りに我が國に資源なく原料なしとせよ、然も我れに智能の働くと豊富なる努力にあらば、何等悲觀するに當らない筈である。少くとも、事の工業に關する限り、原料の有無多少は決して絶對的問題では無いのである。

例へば棉花を見よ、我が國産は既に跡を絶ちて殆んど其の全部を海外よりの供給に仰ぎつゝあるにも關はず、我れは自國の需要を満たして尙毎年四億圓内外の綿製品を列國との競争に打ち勝ちて海外に輸出してゐるではないか。英國の如きは七億圓の棉花を輸入して十四億圓の商品化し、原料價格に倍加する收

入を外國より受取つてゐるではないか。獨り棉花だけではない、毛織物も又同様の立場に在る。

又例へば鐵を見よ。現今世界に於て其の原料たる鑛石の輸出超過國は佛國と瑞典の二箇國あるのみにして他は悉く輸入超過である。世界第一の鐵生産國たる米國すらが、百五十萬佛噸内外の原料を外國より輸入して需要を満たして居り、獨逸の如きはアルサス・ローレンを失ひたる結果、需要高の三分の一、一千百三十萬佛噸以上を外國に購ひ、而して之を各種の製品化し海外に販賣してゐるのである(一九二五年)

獨逸は戦後石炭までも奪はれたる爲め、大に褐炭を活用して工業能力を發揮しつゝある。此の點に於て我が國の石炭が現時尙ほ自給自足的狀態に在るのみならず、別に大量の水力を惠まれつゝあるは寧ろ有利としなければならぬ程である——更に必要に迫らるれば石炭は支那より補充の途もある。

かく實例につきて一考すれば直ちに理解し得らるゝが如く、原料品の輸入は必ずしも憂ふるに足らず、嘆くには當らぬのである。否、寧ろ盛んに輸入し盛んに利用して之を機械其他に精製加工し、以て輸出貿易の資源たらしむる事に依り、國民經濟を擴充しなければならぬのである。況んや我が國には後に説くが如く尙相當の資源あるに於てをや、憂ふべきは必ずしも原料の缺乏にあらずして、實は國家國民の無策よりする工作品の輸入である。本来原料品は概ね天産物であるが、製造加工せられたる商品は無論高價となり、中には原料に數倍乃至數十倍するものもある。而して其の高價となるは資本設備の運用費以外、大部分は勞銀、即ち製造加工に要する勞力が加はつてゐるからである。故に製造し加工して商品化せられたる高價なる輸入品を購ふといふことは、それだけ外國國民に對して勞銀を支拂ふことになるのである。

語を換ふれば、我が國に缺乏する天産物を買つてゐるのでは無くて、それに加へられたる人間の勞力を高く買入れてゐるのである。然るに我が國には其の勞力が有り餘つてゐる。失業問題や、就職難問題は假りに一時的なりとしても、年々九十萬乃至百萬を増加する人口問題なるものは、即ち勞力過剰の別語に外ならない。この勞力だに利用消化せられたならば、人口過剰問題は決して發生しない。生活の糧を得べき職なきが故の人口過剰である。働かんと欲するも勞力の買ひ手なきが故の人口過剰である。そして其の現はれが單に都會といはず、農村といはず、國民を舉げての行き詰りであり、不景氣であり、生活不安であり、思想悪化ではないか。

國家の前途、國民生活の現狀について考慮を缺かざるものは、何を差措きても、如上の事實を凝視し正視しなければならぬ。如何なる政策も、方針も、外交も、財政も、教育も、國防も、國民の生活權を確保することを離れては絶対に意義を爲さない。國民の生活を平らかにする、豊かにする、少くとも不安を除く、食ふには困らないやうにする。此の根本義に立脚せざる一切の論議方策は其の全部が遊戯である。故に國家は假令相當の犠牲を拂つても、國民に對して生活の途を開かねばならぬ。生活の途とは則ち勞力を活かすことである。智力、能力、勞働力の總てを適材適處、能率増進の原則に據りて有効に運轉する。それは國家が負ふところの義務である。爲政者の責任である。然るに我が國に於ては一方に人口過剰問題や、失業問題に悩まされつゝ、他方に巨額の勞銀を商品輸入の形に依つて外國に支拂つてゐる。若し我が二十億乃至二十五億圓の輸入額から、眞實日本に缺乏せる原料代のみを抽出すとしたならば、それは恐ら

く總額の二分の一内外に止まるであらう。他の二分の一即ち十二億圓の巨額は外國の國民に對する勞力代の提供であり、而かもその勞力は日本それ自身が餘りにも甚だしき過剰に苦しんでゐるものである。

若し我が國民が未だ何等工業能力なく、製造技術を持合はざる非文化民族であるか、又は粗工業以上に頭腦の働きを缺けるものなりとせば、吾人豈何をか言はんやである。だが國民の名譽にかけても、實際の技能に徴しても、日本民族の文化能力は斷じて他國に劣るものには無い。現に歐洲大戰當時には殆んどあらゆる方面の事業に好箇の經驗を得、不十分なながらも相當の輸出力を發揮したのである。そして其の當時には猫も杓子も手が足らぬといふ程に、國民の勞力が活用されたのである。彼の場合に於ては決して失業問題が無く、就職難が無く、人口過剰問題の叫びをも耳にしなかつたのである。だから我が國の産業に振興せば、是等總ての難問題は自然に消滅し若くは緩和される。就中工業の發展に依る人口及勞力の消化は、單なる國內需要品を別とし、概して事業それ自らに多量の國際的性質を固有するものなるが故に、殆んど無限的擴大性を見出し得る強味あるを忘れてはならない。

試に我が輸入品中より純然たる原料を差引きたる製品又は半製品を算出すれば、其の金額十億圓内外である。之を國內にて製作することが我が國際貸借改善の根本要件であり、失業防止も國家繁榮策の基礎も此處にあるとすれば其の實現は絶対的の要求である。世間往々之を以て實行不可能とするものあれど、そは我が工業能力の實質も現前の事例すらも未だ理解せざるもの、誤れる觀察である。眞實には輸入防止は勿論、やがては進んで大に輸出を増進し得る可能性が種々の點から既に明かに認められる。然るに國家は

現に果して何程の努力と経費を我が國の工業政策上に支拂つて居るだらうか。假りに農林・商工兩省の全豫算七千五百萬圓と地方支辨の勸業費一千萬圓内外が、半額宛農工兩方面に支出されるときも、その額は僅かに四五千萬圓に過ぎない。別に鐵道、道路、港灣等の事業費もあり、間接には産業の發展に助成するとは言へ、産業そのもの、振興を主務とする國家の支出は、國際經濟戰の重大性即ち國運の盛衰消長に關する對策から出立して居るとは云ひ能はぬ。語を更ふれば現在の國政及地方行政は産業國策の重大性を適切に理解しての建て前になつて居ないのである。

今假りに當面策として、三億圓程度の輸入を防遏することを主眼として重要工業の國産化を圖るとし、何程の資金を要するかを概算するに、例へば鋼鐵年産百萬噸、化學肥料五十萬噸、機械類、自動車一億圓、金屬類、化學資料等五千萬圓、合計約三億圓の製作を行ふに必要な資金は約四億圓にて足らう。而も其の中、外國に支拂ふべき機械代は多くとも三分の一内外に過ぎまい、故に國家經濟の見地よりすれば三億圓の生産に對し、一時唯だ一億二三千萬圓の對外支拂を忍ぶ事に依り、假りに是等の生産の内、外國に仰ぐ原料五千萬圓と見積りても國家は年々二億五千萬圓の輸入を防止し得る譯になる。此の數字より推算し輸入工作品全額十億圓を企業すとせば、其の所要資金は約十二億圓となれど、其の重大性と融通力とを考ふれば是將た驚くに當らない。勿論是等の事業を完成するが爲には朝野共に大なる努力を要するは言を俟たずして適當なる關稅政策の施行、金融政策の運用等各般に互り夫れ々方法をも講ぜなければならぬ。而して若しも絕對必要の場合あらば國家自ら之が經營に當りて不可なしと雖も、原則としては民間に獎勵

して其の企業を促進すべきであり、幼稚なる産業を助成する爲には相當の期間適度の保護を與ふるも亦止むを得ざる寧ろ當然の手段と思ふ——假りに十年間十億圓の民間投資に對し平均年五分に相當する補給を爲すとしても、其の金額は一年五千萬圓に過ぎない。十億圓にも昇る生産に對し、そしてそれが國民數百萬人の生活を支持する爲ならば、年々五千萬圓程度の支出の如き、國家としては寧ろ僅少の負擔ではないか。

我が國の消極論者は此の如き企業に對する投資が果して可能なりや否やを危み、其處に大なる懸念を抱くでもあらう。併しながら、資金は元來融通性を有するものであり、苟くも事業そのもの、確實にして有利なる限り、それは原則として水の流れる如く流轉する。現に我が財界に於ては遊資の聲が大銀行間に高唱せられ、其の使途を見出し得ずして日本銀行に無利子同様に預金せらるゝもの二三億圓にも上りつゝある。又此の種國家的事業に對しては單に民間資金のみに限るを要せず、或は郵便貯金を適當なる方法の下に活用するも一策と考へられる。又更に國際經濟の發達せる今日には在つては企業の實質及經營の如何によつては、外國に資金を求め得る途もあり、混亂止むなき支那や、社會狀態の最も不安と目せられるロシアにすら冒險的投資者が輩出して居るのである。生産の發展即ち國富増進の根本國策に要する國庫の支出に對しては、國民は喜んで之に共鳴し決して反對する理由なきのみならず、若しも國家直接の財政が其の支出を許さざる場合ありとせば、之に代るべき方法も一二には止まらない。生産的公債の増加が何等危惧するに足らざるは既に上に説明した通りであつて、所謂非募債主義の政策的價值は、産業國策の急務を解

せざる退嬰論者限りの錯覺的理論たるに過ぎない。一方に時代遅れの鎖國的消極政策を固執しつゝ、他方に産業振興を説くが如きは、諺に所謂二足の草鞋を履くものであり、或は産業合理化を唱へ、國產愛用を口にするが如き、假令其の趣旨は可なりとしても、其の前提要件として國內産業の發展を積極的に計慮せずして如何なる妥當價値を認め能ふか。蓋し、難局打開の方策を案出し能はざる無爲主義者が、當面を糊塗する爲の臺詞たらずんば寧ろ至幸のみ。

(四) 基本工業の問題

原料難竝に資金難の問題が、何等産業國策の開立を遲疑せしむる根本的障礙とならざることは既に之を略述した。さて然らば如何なる方針、如何なる計畫に依りて我が國工業の發展を具體化すべきか。

精密には固より箇々の工業に就てそれ々々特殊の施設、特殊の工夫を要するのであつて、機械工業の知識を以て食料工業に當てはめることは出来ない。其の金屬工業に對すると、窯業、纖維工業、電氣工業、化學工業等々々に對する、何れも亦然りである。だが、吾々は今是等箇々の場合に於ける對策を一々詳述する違を持たざるのみならず、それは寧ろ各専門家の經營的技術的知識に期待して可なりである。當面に緊切なる問題は、箇々の工業を如何にするかを検討することよりは、ヨリ全局的、ヨリ綜合的に、我が工業國策の運用如何を考究するに在る。

就中何よりも緊要なる根本方針としては、上來說明せる通り、輸入防遏の爲め、人口問題解決の爲め、そして國民經濟建直しの爲め、我が工業能力を十二分に發揚し得る程度に迄國民が妥當とする方策を講じ、保護、獎勵及指導の任務を遂行せねばならない。其の方法としては既に列國に採用せられつゝある關稅政策もあれば課稅上及運賃等に就いての特殊手段もある。又之に必要な資金に就いては民間の金融を援助する方法として、例へば興業銀行、勸業銀行等の機能を擴充するも善く、又郵便貯金、簡易保險資金の活用、其他公債の發行や官業及官有財産の整理を行ふも敢て非なりとせぬ。

それで此の方針を實際化するに當り、第一に打着せらるべき工業上の施設を問ふならば、一般的には即ち基本工業の發展策を講ずるに在る。殊に最も急務と考へられるは、

- イ、製 鐵
- ロ、製 油
- ハ、肥料及化學製品
- ニ、機械及自動車
- ホ、電力、等々々

であると思ふ。

製鐵業が我が國の産業國策上、如何に緊要なる基本工業であるかは、改めて喩々の辯を勞するにも及ばまい。歐洲戰爭時代には我が國の製鐵業も内外の旺盛なる需要に促進されて開戦後三箇年間に生産額を倍加する程の飛躍ぶりを示したが、戦後特に近年に於ては、外國品の競争に壓されて非常なる打撃を被り形

勢退轉した。併し其の需要量は敢て減少せず、現に昭和三年度の鐵類輸入額は鑛石及器具を別として尙一億五千萬圓を算し、同二年度に於ても同じく一億三千萬圓の巨額を各國に支拂つてゐる。(但し最近の激減は一時的現象と見るが至當で、國民生活の向上に伴ひ今後も適度の需要累進を爲すべきは極めて當然である)。試みに既往數年間に於ける内地生産及輸移出の狀態を見るに、

鋼材及鉄鐵需給高 (單位千佛噸)

種別	年次	内地生産	輸移入	輸移出	差引需要	需要對生産%
鋼材	大正十四年	一、一〇二	五七	六	一、一四三	七三
	昭和元年	一、三三〇	九四	一〇	二、一三四	六三
	同 二年	一、四六九	九〇	一五五	二、一四七	六五
鉄鐵	大正十四年	一、七〇四	九四	一七九	二、四三六	七〇
	昭和元年	八二五	五〇八	五	一、三三九	六四
	同 二年	九二	五八〇	四	一、四八七	六二
同 三年	一、一〇一	七二	四	一、八〇八	六一	

斯くの如く財界不況、事業不振の時機に拘はらず、生産も需要も減退してゐない。而して昭和三年度に於ける鋼材の輸移入高は約九十一萬佛噸、鉄鐵七十一萬佛噸、計百六十二萬佛噸餘である。又、一方内地生産高は鉄鐵の復作用はあるが同じく兩種合して二百八十萬佛噸を超えて居り、總需要高に對する内地生産割合は約七割近くになつてゐる——昭和四年度に於ては更に内地生産額を増加し、特に鋼材に於て百八十五萬噸に上り、同年の鋼材需要高二百五十三萬噸に對し約七割三分を自給し得るやうになつてゐる——

しかし鉄鋼合して尙依然一億圓以上の輸入超過を免れざるのみならず、將來の需要増加を考慮すると共に、經濟的生產と輸移出方面の開拓宜しきを得るに於ては、現時の製産額を倍加しても未だ決して過大といへないのである。

蓋し過去十五年間に於ける我が國の鐵の使用増加率は年に依つて高低の差あれども、大體毎年百分の六を下らず、假りに之を低率に見て平均百分の五とするも、十年後の需要高は單に鋼材のみにも四百萬噸を必要とするものであり、實際には無論それよりも多く、恐らくは約五百萬噸にも上るであらう。隨つて其の場合に於ては現在の内地生産額を以てして尙需要額の三割六分しか供給し得ないことになる。更にそれが二十年三十年の後に至らば益々累進的に増加すべき趨勢に在るを以て、其の不足額(即ち輸入高)は驚くべき數字を示すに相違ない。

殊に又他方面より推計するも、我が國の鐵使用高は主要列國の何れよりも低く、一九一五年の調査に據るに、國民一人當りの鐵消費高が米國に於ては四六八噸なるに對し、日本は僅に四〇噸に過ぎない。即ち米國民に比して未だ十分の一にも達しないのであつて、之を白耳義に比するも六分の一以下である。隨つて將來文化の普及に伴ひ、其の施設に宜しきを得ば、我が國民の鐵の利用高が躍進的增加を呈するであらうことを推測せしむるに充分である。否、一日も速にこの基本工業の躍進的發展を實現せしむることに依つて、我が國の産業、我が國民生活の繁榮を期せねばならぬのである。

いはゆる製鐵國策の聲は多年屢々之を耳にせぬでは無い。又八幡製鐵所の如き官營事業もあるにはあ

る。されど實際には未だ適確たる根本の方針が立つてゐるのでもなければ、合理的保護政策が講ぜられてゐるのでも無い。忌憚なくいへば、課税の負擔なく又政府の低利資金を融通され得る官業が民業を壓迫して却つて其の發達を妨げてゐるとの非難さへ起つてゐる。これでは到底濟まされぬ。

英にせよ、獨にせよ、鐵の原料輸入國であることは前に一言して置いたが、我が國に於ても其の原料鐵石は從來大部分を支那及南洋から輸入してゐるのである。然るに翻つて廣く之を調査するに、我が領土にはあらざれども事實上我が經濟勢力の範圍内即ち滿洲に於て、十二分に需要を満たし得る鐵礦石が地下に埋藏されてゐるのである。而して其の鐵石の全量は之を概算的に見て十數億噸に上ることは人意を強くするに足ると思ふ——此の計數に關し曩に或る一部に疑問なりとの説があつたが、しかし大體の推算に動きは無い——我が鞍山の製鐵所は此の鐵石を利用して既に年々二十餘萬噸の製鐵を行ひ、近年相當の成功を收めてゐるのである。

元來我が國民は常に資源の貧弱を啣ち、其の枯渴を愁訴してゐるが、果して精細なる踏査研究の結果に基いての立論であらうか。屢々問題に上りつゝある鐵が既に調査を経たもののみにも上述の如く十數億噸もあり、假りに一年一千萬噸づゝ掘出すとしても今後百年餘の需要に應じ得らるのであり、他にも踏査未了のものが僅少とはいへない。石炭や石油の如きも、内地の鐵床、鐵脈は概ね調査済みなりとしても、未だ決して前途に望みなしといへず、又全く枯渴を告げてゐるのでも無い。現に石炭は大正十年頃迄は相當重要な輸出品の一つであつた程で、今日と雖も敢て埋藏量が缺乏してゐる譯では無い。且つ滿洲

には豊富なる撫順の石炭があり、近くは新邱炭も開かれつゝある。更に樺太の石油は人の知る所、其の他工業の原料たるべき鐵産類は必ずしも乏しとはいはれない。否、未だ完全なる調査を了してゐないといふが寧ろ眞實である。又將來最も有望なる工業生産の一として認めらるゝ窒素肥料の如きは無限量の空氣を原料とするものであり、水力電氣に至つては、これこそ大に天恵を感謝すべき環境に在る。

それ故に資源の貧弱を理由として工業國策の達成を不可能とし、或は將來の發展に致命的障礙を爲すもの、如く考ふるは、極めて幼稚なる臆見に過ぎない。それは恰も原料及資金難を理由として悲歌を奏しつゝあると同じであり、まことは眠れる資源を未だ有効に開發し利用してゐないのである。其處に科學的經濟的なる研究が遺憾なきまでに行はれてゐないからである。而かも其の主なる原因は第一に國の識者が、爲政家が、産業立國主義に立脚する方策を意識的徹底的に運行してゐないが爲の缺陷に外ならない。

(五) 具體的計畫の一例

かくいへば世人或は問ふでもあらう、製鐵始め、基本工業の緊要なるは何人も之を認める。唯だ如何にして其の資源を開發するか、如何にして之を經濟化し得るか、世人の聞かんと欲する所は之が實行方策であり、對内的及國際的に見て、最も妥當且つ效果的なる具體的計畫如何と。

それは確かに眞面目なる提問である。しかも是れ決して實現の可能性なき机上論でも無ければ、採算不可能なる事業でも無いのである。當局の決断にあらば、根本的大方策は暫らく別としても、少くとも生

産増加に依る輸入の防遏は寧ろ容易に達成され能ふことを疑はない。

豈嘗に製鐵の一事業に止まらんや。同時に燃料油、肥料等の問題も解決し得るのである。こゝに余輩の経験を語るは聊か心苦しい感じもするが、問題は産業國策の具體化に在る。故に一例として余が前滿鐵當局者として自ら計畫せる實際的方法を提擧することは、敢て余輩一個の興味の爲でも、又一滿鐵限りの問題でも無いと信ずる——即ち左は昨年八月 大阪經濟會 席上に於ける余が講演筆記であるが、單に製鐵事業だけでは無く、燃料油及肥料等の問題に就いても、必要なる概念と其の相互關係を略説せるを以て、茲に採録するを便益と考へる。

製鐵・油及肥料に就いて

(滿鐵に於ける計畫の概要——昭和四年八月大阪經濟會講演)

(前略)今日の日本の經濟狀態に於て、最も苦痛と致す所のものは一億五千萬乃至二億圓の輸入超過である。此の輸入超過をどの程度まで、滿洲經濟、即ち其の執行機關たる滿鐵が之を背負ふことが出来るであらうか。更に滿鐵それ自體の利益がどれ程まで増進せられ、其の收入に依つてどの程度まで日本の國際貸借改善の一端に資することが出来るであらうか。而も此の二つのものが現在の經濟事情に處して滿鐵に日本が要求する一番重大なる問題であると考へたのであります。それで着任早々専ら其の點に向つて注意を致し、調査研究を致して見ました所が、私は滿洲が自分の想像いたして居つた所よりも遙に

大きな貢獻を日本になすことが出来、而して滿鐵だけの經營努力に依つて、現在吾々が惱みの根柢として居る所の輸入超過の數字は、之を滿洲に於て大體に補充することが出来ると云ふ確信を得たのであります。是れ私が滿鐵に入社いたしましたして、新に私の立てました滿鐵の所謂三大計畫と稱するもの、一端であります。其の計畫の内容は第一に、

鐵の問題——であります。滿洲に於ける製鐵工業は新しい問題ではございませぬ。現在既に鞍山製鐵所に於て十八九萬噸乃至二十萬噸位の製鐵をいたして居るのであります。併しながら其の成績は今日までは頗る不良でありまして、又之を擴張すると云ふやうな意志は少しも無かつたのであります。一段調査して見ますと、滿洲には日本の關係して居る鐵區だけで水平線上に約十億噸の鐵礦石があるのでございませぬ。吾々は鞍山の専門家ではありませんが、水準以下の數量は大體五割増しに見るのが普通でありますから、左様に考へますと、十五億噸の鐵礦石が滿洲の而も滿鐵の線路に最も接近して埋藏されて居るのでございませぬ。唯だ此の鐵礦石は今日楊子江流域、若くは馬來半島方面から持つて來る含有鐵分五十五パーセント乃至六十パーセントと云ふものと比較して、三十七パーセント乃至三十八パーセントより無いと云ふ其の品位の低劣なことが稍缺點であるのであります。併しながら此の三四年間の研究に依りまして、之を技術的、經濟的に六十パーセント内外までに引上げることに成功いたしました。私がか就任いたしました時の滿鐵の生産費は一噸四十五圓について居りましたが、今日では鞍山に於ける舊式の小さい熔鑪に依りまして、一噸二十四圓で鐵鐵が出来上ることになつたのでございませぬ。そこ

で此の擴張を計畫いたしましたして、先づ五百噸の鎔鐵爐を新設することにし、昨年から着手して本年十月にはそれが完成するのであります。是れが完成いたしますれば、正味の原料代から計算すれば鞍山では恐らく二十圓内外で鉄鐵が出来上る譯であります。之は豫想だけではありませぬ。既に四五年間實際について経験いたしました結果でありまして、確實に二十圓内外で鉄鐵が出来ると云ふことを申上げて可いと思ひます。爲替の平價から見れば、十九圓二三十錢であります。

十九圓二三十錢の鉄鐵と云ふものは世界の最低値段であります。最も安い値段として日本に輸入されて居ります印度の鉄鐵にも立派に對抗することが出来るのであります。私共の取調べました所に依りますれば、ピツツバルグを中心としたる亞米利加の鉄鐵の値段は二十八圓乃至三十圓でありますし、獨逸のエツセンを中心として調べた鉄鐵も同値段の三十圓内外であります。何故に滿洲に於ける鐵が左様に安く生産し得るか云ふと、鑛石に次いで製鐵に最も重要な關係のある石炭が世界に稀なる安い値段で得られると云ふことが其の主なる原因であります。

撫順炭は私が申上げるまでもなく諸君が御承知の通り六百尺の炭層であります。而も其の六百尺の炭層を、唯だ上土を剥して露天掘の方法に依つて採掘するのであります。私が就任いたしました時の生産費は、一噸二圓五十錢乃至六十錢でありましたが、私は滿鐵の經營を全部請負式にすることが古い習慣を破つて、生産費を引下げる方法だと考へまして、それを嚴密に勵行いたしました結果、今日では一圓六七十錢で掘れることになつたのであります。諸君、一圓六七十錢で一噸の石炭が掘れると云ふこと

は、總ての工業に根本的に偉大なる革命を惹起するものであると云ふことは、私が申上げるまでもなく、直ちに解ることあります。唯今撫順の採炭方法は千尺内外の豎坑に依り採掘するものと、露天掘に依るものと各半數を掘つて居ります。これを全部露天掘の計算にしますと、一人の採炭夫は一日二十三噸掘るのであります。僅か一日五十錢の勞銀を拂つて居る採炭夫が一日に二十三噸掘ると云ふことになりましたならば、其の石炭の原價は殆んど無價であります。斯くの如き炭鐵は蓋し世界中他には類が無いと思ひます。此の驚くべき富源が滿洲の鐵道線路近くに在るのであります。

鉄鐵一噸を造るのに二噸の石炭を要するのでありますが、假りに一噸二圓五十錢といたしましても、五圓で一噸のコークスが出来るのであります。更に鐵鑛石の方から考へましても、唯今の所では三圓五十錢乃至四圓で六パーセントの鐵鐵が一噸得られるのであります。此の一噸半の鑛石代即ち六圓内外に五圓のコークスを結び合したものが、鉄鐵の原價になるのであります。これを以て見ても、世界中で他にあり得ない安い生産費を以て鐵鐵が得られると云ふことは、極めて明々白々でありまして、何人と雖も否定することが出来ない數字が、こゝにはつきりと現はれて居るのであります。

昨年日本に輸入いたしました鐵鐵が二億圓で、鐵具類が五千萬圓、合せて二億五千萬圓であります。過去五箇年間の鐵鐵の輸入は平均一億七千萬圓内外であらうと思ひます。若し此の昨年の數字を捉へて、鐵具類は別と致し、二億圓の鐵鐵を日本の勞力日本の資本に依つて造ることが出来たならば、是丈けでも直ちに二億圓の輸入超過を防ぐことが出来るのであります。而も半面に於て政府は鐵鐵の製造に對し

て關稅政策其の他種々の手段を以て之を獎勵し、其の發達を促進せんと致して居るのであります。それが唯だ一帯帶水、亞米利加などから見たならば湖水と同じやうな對馬海峡を隔て、日本の向ふ側に、而かも吾々の勢力範圍内に此の豊富なる鐵礦石があり、又他に類例を見ないやうな最も良質の、値段の安い撫順炭が全く自然にサイド・バイ・サイドに置かれて居るのに、何故吾々は二億圓の鐵を外國から買はねばならぬのであるか。私は滿洲に赴任して何故に今まで之に手が着いて居なかつたかと云ふことを痛歎いたしましたのでございます。

此の意味に於て私は先づ第一歩として鞍山製鐵所の擴張を圖り、五百噸爐の増築を致しましたのは先刻申上げました通り、今將に完成に近からんとして居るのであります。第二計畫と致しまして、更に新義州に於て滿洲より唯今申上げた所の鐵礦石と石炭を輸入して、五十萬噸の鉄鐵を造る所謂

鉄鋼一貫作業——を創める計畫を立てたいのであります。新聞紙上で御承知のお方があるかも知れませぬが、私が今回の政變に際して自分の進退を決する前に、此の國家的事業たる製鋼事業だけは後繼者が何人に代られても、是非とも完全に遂行すると云ふことを政府に認めさせたいと考へまして、私は濱口總理を訪ひ、松田拓務大臣を訪うて、此の事業は政黨政派の問題にあらず、現に窮迫して居る日本の經濟上の見地から、最も重大なる國策の一つとして其の遂行の必要なる所以を説き、其の了解を求めたのであります。固より其の了解がなければ職を辭めぬとは言ひませぬが、併しながら其の了解を求むることが聊か國家に盡す自分の職分の一つであると考へて、各方面に對して可なり強く此の意見を主張いたしたのであります。

たしたのであります。此の問題に關し工場的位置に就き、或は殊に諸君のやうな事業家の中には、何故に鐵礦の所在地たる鞍山なり、炭坑のある撫順に於て企業をせず、之を特に離して朝鮮に持つて來たのか、譯が分らぬぢやないかと云ふ疑問が起るであらうと思ひますが、之に就ては私も非常に苦心を致し考慮を盡した結果でありまして、滿洲で此の工業を起すとして、先づ以て最も不便に感じますことは、滿洲は帝國の領土ではなく支那の領土でありますから、一朝事有る際に支那が嚴正中立の態度を執りました場合、鐵は直ちに戰時禁制品になるのであります。折角巨額なる資本を投じてやつても、一朝事有る時に是れが用を爲さぬと云ふことでは、國として極めて不利なことであります。更に又輸出税に就て考へて見ましても、唯今の支那の關稅では、鐵一噸に付て輸出税が三圓四十錢であります。然るに原料である所の石炭と鐵石を輸出いたしますと、其の税金は六十錢でありまして、彼是其の間に三圓程の差があるのであります。若し私の第一期計畫に次で、第二期計畫が實行された場合百萬噸の鐵を滿洲で造ると云ふことになりますれば、此の百萬噸の鐵と製鐵に附隨した副産物に對して、一年に約五百萬圓の税金を支那政府に納めなければならぬことになるのであります。世界中で輸出税を取つて居る國は支那の他にない。而も支那政府の現狀は収入本位であり、何等かの名義を附けて何時如何なる増税を課するか知れぬ。百萬噸の計畫で五百萬圓の輸出税を要するのでありますが、將來是れが二百萬噸となり、三四萬噸となつた場合、其の鐵の輸出に對して今の稅率の儘でも一年に一千萬圓も一千五百萬圓も支那政府に無意味な税を

拂ふことは、日本の國家經濟としては忍びないことであります。そこで吾々の産業立國の理想から見ても、斯くの如き重大なる工業はどうしても日本の領土内に起さなければならぬ。折角巨資を投じて此の事業を起しても、若し之を滿洲に於てしたならば、其の勞働賃銀の如き悉く支那人に拂はなければならぬ。是れも一つ考へなければならぬことであります。出来るならば、日本の内地、少くとも日本の領土内に此の工業を起し、之に要する總ての用品にせよ、或は勞働者にせよ、日本のものを使用して領土内に其の利益を與へるやうにしなければならぬと考へたのであります。唯だ義州に此の事業を起すに就ての一つの不便は、嵩の大きな原料を運ぶ不利益があります。又港が無い爲に之を輸出するの不便だと云ふことが當時吾々の最も苦心いたしました點でありましたが、幸にして此の鐵石と石炭を運ぶ爲には安奉線がある。即ち奉天と安東縣との間のあの二百哩の鐵道線路は、一千萬噸の輸送能力があるのに對して、現在二百五十萬噸の貨物しかなく、七百五十萬噸の輸送能力を餘して居るのであります。鐵道經濟から見れば、四厘でも、五厘でも、六厘でも構はぬ、實際計算はそれでも損は無いのである。仍ち極めて低廉なる運賃で之を運んでも經濟上利益があるのであります。其の上鴨綠江の下流に多獅島と云ふ島がありまして、義州から僅か十六哩の鐵道を延ばせば其の不凍港に入るのであります。左様いたしますと、鞍山で製鐵をいたしまして、大連まで二百哩の鐵道を運んで参るとか、更に近い距離の營口まで七十何哩の鐵道を運ぶのに比較いたしましたして、此の多忙の線路を使用する代りに、他面閑散の線路を利用して多量を送送するに比較すれば寧ろ相償つて充分に餘地がある。こゝに於て私共は第一期の五十萬噸の鉄鋼一貫作業を義州に起すことを計畫したのであります。而も此の計算は金解禁後の鐵の下落を見込みましたも、私共の調べに依りますれば、全部の機械を十箇年間に償却いたしましたして、約一割五分の利に當るのであります。唯今の八幡の製鐵所で造つて居ります鋼鐵の平均相場から見まして、約十圓乃至十五圓安く鐵が出来るのであります。過去十年乃至十五年間に於ける日本の鐵の使用増加は年々百分の五乃至七の間を往來して居るやうであります。私は此の數字を最も内輪に見まして、將來日本の鐵の使用は年々百分の三分五厘づゝ増加すとして計算いたしますと、將來五十年間に日本の鐵の需要は一億九千萬噸約二億噸にならうと思ひます。百圓の鐵として二百億圓であります。是れが總て日本で出来た其の上に、先刻申上げました通り世界に類例のない安い生産費で出来ると云ふことになつたならば、日本のみならず支那の需要を充つことが出来ます。現在支那の需要は一年に四十五萬噸乃至五十萬噸に過ぎませぬが、其の増加の率を見ますと、今後五十年間に少くとも一億噸の鐵を使ふやうになるであらうと思ひます。従つて吾々は常に日本國內の需要を充つのみならず、其の生産費が安い結果、更に進んで支那方面にまで之を輸出する能力があることを經濟上極めて明かに見得るやうに感ずるのであります。

鐵の原鐵の供給に就ては種々の説がありますが、私共の觀測では、今日日本が輸入を仰いで居る所の楊子江流域の鐵礦なり、新嘉坡方面等の鐵礦なりの前途を見まして、五十パーセントの鐵石は今後餘り長い命數がないやうに思ひます。即ち永久に豊富な供給の餘地は無いのであります。東洋全體の鐵量

と需要を概算いたしましたして、長くとも約四十年後には鐵の原礦石に多大の不足の生ずることが明かであり、又歐米の全體を見ましても、五十パーセントの所謂富鐵と稱するものが無くなるのは、如何なる方面の調査に依りましても二十五年を出でぬと云ふ説に相成つて居るやうであります。現に今日の獨逸の如きは三十四五パーセントのものに、西班牙、挪威から品位の高いものを買つて来て、それを混用して居ると云ふ譯であります。而して其の製品は最も激しい競争をなすつゝ、販賣されて居るのであります。是等の世界的競争乃至東洋に於ける鐵の需給狀況を見ましても、滿洲に於ける鐵礦と石炭とは日本の國家經濟、國民經濟の上に如何に重大なる關係があるかと云ふことは御了解下さることと思ふのであります。鐵に附屬いたしましたして第二に計畫いたしましたことは

肥料の計畫——であります。最近獨逸で專賣權を得ました方法と設備で計算いたしますと、唯今の鞍山と義州で計畫いたして居ります量だけに依つてコークス爐から出ますガスの中の窒素を利用して約三十萬噸の硫酸アンモニヤの製造が副産物として出来ることになつて居ります。元來私は斯様に考へて居ります。日本の食料問題の解決と云ふことに就ては二つの途がある。其の一つは所謂未開墾地の開墾乃至既墾地の改良等即ち農業の發達進歩等に依るもの、例へば朝鮮に於ける産米計畫と云ふやうなものがあります。第二の方法は化學的方法に依る解決、即ち化學に依つて低廉なる肥料を拵へ、之を充分に農家に供給し、集約的に收穫の増加を圖るのであります。而も第一の方法たる未開墾地の開墾若くは干拓事業と云ふやうなことは面積の廣い國にあつては適當であります。最近の例としては埃及に於ける

ナイル河のダムや、印度のイラワデー河に於ける灌溉工事の如きは夫れであります、我が國の事情は餘程異つて居り、元來の地積が狭いのであるから、差當りはまだ開拓、改良の餘地も残されて居りますが、其の方は大體限度が極つて居り、餘り多大の望を置くことは出来ませぬ。勿論急迫する失業者を生活する意味と相待つて夫れも當然の一方方法であるが、ヨリ一般的應急的には夫れ丈では足りない、矢張り同時に科學的の解決に重きを置く必要を認めます。今日日本が輸入する硫酸は三十萬噸乃至四十萬噸であり、需要は年々増加するのでありますが、假りに私共が三十萬噸の硫酸を造るといたしますと、それは實質的意味に於て米を三百萬石增收するのと餘り違はぬ。而かもそれは二年か三年の間に出来てしまふ。私は日本の今日の經濟狀態としては第一の方法の如き原始的の緩慢な方法のみに頼つて居るべきものでない。もつと急速に今日の經濟狀態の建直しをしなければ、急場の間に合はず、或は吾々が常に唱へる所の眞の經濟國難に陥りはせぬかと云ふ憂を有つて居ります。其の對策として肥料の計畫をしなければならぬと考へたのであります。

硫酸の輸入は現在三四十萬噸よりありませぬけれども、其の外に、六七十萬噸の豆粕の輸入もあり、又肥料の中には硝石鳥糞のやうなものもあれば、種々な化學肥料も入つて居るのであります。若し吾々が安い硫酸を造れば、是等も悉く其の輸入を防ぎ、更に其の生産費が安ければ單り日本の輸入を驅逐するのみならず、他に之を輸出することも決して難事ではないのであります。唯今（昭和四年八月）硫酸の相場は、此處に専門の方もお居でのやうであります、百十五圓乃至百二十圓であります。

が私共の計算では裸ではありますけれども、四十五圓ならば立派に出来る計畫であります。更に償却金と云ふやうなものもこれに加へなければならぬのでありますが、何としても百十五圓乃至百二十圓に賣つて居るものが裸の原價にして四十三圓、四十五圓で出来ると云ふことは、日本の食料問題に對しては極めて重大なる問題として私共は其の計畫を進めつゝあつた次第であります。

製油計畫——尙我が國の經濟上の問題、輸出入の問題として考へて見なければならぬことは油の問題であります。唯今日本に輸入せられて居ります油は、私の承知して居ります所では百六七十萬噸、金高にして約一億圓位のものであります。而も日本に於ける油の需要は種々な方面に於て激増しつゝありますので、五年乃至十年の間には是れが二倍になり三倍になるであらうと云ふことは、其の方面の權威者の齊しく認むる所であります。故に此の油の自給自足をして、輸入を防遏すると云ふことは、日本の國家經濟の上から見ても、極めて重大なる意味が含まれて居るのであります。そこで其の途の方はもう既に御承知でありませうが、此の油のことに關聯して私は撫順炭礦と云ふもの、概要を申し上げたいと思ふのであります。

オイル・セール——撫順炭礦は約三十度の傾斜を以て三百尺内外の石炭が地上から下つて居りまして、其の上を四バーセント乃至八バーセントの油を含んで居る所の石の層が二百尺内外の厚さを以て覆つて居ります。此の石の層が即ち吾々の稱へて居るオイル・セールでありまして、唯今測量いたしました所では、此のオイル・セールの數量が五十二億噸あるのであります。五十億噸で五バーセントの油が採

れるといたしますと、數理的には二億五千萬噸の油が採れる譯であります。年に百萬噸づゝ使ふも、隨分長い年數を保つことが出来るのであります。そこで此のオイル・セールの中から油を探ることを計畫いたしましたして、其の第一期計畫として七萬五千噸の油を探る計畫を立てたのであります。其の工場が本年の十月に完成致すのであります。即ち十月には油を見ることに相成つて居ります。私は此の全部の燃料油を海軍省に賣る契約を致しましたが、私共の採算では充分に引合ふのであります。若しも此の第一期のオイル・セールの計畫が本年中に完成致しまして、其の結果が善いと云ふことになれば、私は之を直ちに三倍に擴張いたす考へて居りました。原礦は餘り硬い石ではなく、之を適當の大きさに砕いて、非常に大きなガス竈のやうなものに入れ、其の石それ自體から出るガスに依つて之を蒸して油を探るのであります。恰度大豆より油を探るやうなもので技術としては極めて簡単な問題であります。故に之を擴張することは極めて又容易なことでありまして、而も此の第一期計畫の七萬五千噸の油の中には、約八千噸のパラフィン（蠟）が入つて居りますが、唯今日本で二萬噸輸入して居りまして、一噸五百圓乃至六百圓いたして居りますから、是丈けでも千二百萬圓程の輸入が防げる計數になるのであります。

低溫乾餾——製油計畫と致しましては、此のオイル・セールを離れまして更にもう二つの計畫を立てる段取になつて居ります。甚だ迂遠なことではありますが、撫順炭の素質と云ふものは如何なる風に出來て居るかと云ふことは今日まで學理的に能く分らなかつたのであります。普通蝦夷松とか雜草と云ふやうな寒帶植物の變化したものであらうと云ふことになつて居りましたが、昨年私は専門の顯微鏡學者

を依頼しまして、細かく調査いたしました結果、撫順炭の一番下層にある百尺内外の炭層は温帯植物中の蘇鐵等の變化であると云ふことを発見しました。あの寒い滿洲に在る石炭が元は蘇鐵であつて、而かもそれが百尺から百五十尺の間にあると云ふことに就ては甚だ奇異な感に打たれたのでありますが、之を學者の方から云ふと、一點疑の無いことださうであります。そこで私共は之をカバリ・コールと云つて居りますが、其の部分的分析の結果、最も多いのは百分の二五六迄の油を含んで居ると云ふことを知り得たのであります。従来私共が承つて居りました所では、世界中で一番油の量の多い石炭が二十一パーセントでありましたが、其の二十一パーセントの世界のハイエスト・レコードを破つて、吾々は二十五乃至三十パーセントの油を搾出し得る石炭を発見したのであります。こゝに於て私は是に對する第二の計畫を立てたのであります。其の方法は所謂低温乾燥で、之も極めて簡單なものであります。唯だ瓦斯で石油を蒸せば油が出て來るのであります。残つたものは諸君の御承知のコーライトで、世界中何處でも石炭の代りに使つて居るのであります。それで撫順炭を使つて、三割は多過ぎるが、假りに二割の油が採れるとすれば、十噸に對して二噸の油が出来る譯であります。此處には汽船會社の御關係の方も澤山居られますが、今日油は安くも三十五圓か四十圓はして居ります。さうすると、私共が撫順炭を一圓五十錢で掘り、一圓は金利等の償却に充てるとして、十噸二十五圓の石炭から二噸の油が採れるとすれば、今お話ししたコーライトは相當安値に見積つても、有利な事業になると云ふ計算になるのであります。こゝに於て私は第二の製油計畫として、此の搾油量の最も多いカバリ・コールの低温乾燥

と云ふことに向つて手を着けたいと思ふたのであります。

石炭の液化——尙第三の製油計畫と致しましては、唯今新聞紙上にも能く出て居りますし、又専門の雜誌等には屢々出て居ります所の石炭の液化であります。是は石炭そのものをそつくり油に變化させるのであります。日本の各所の研究所に於て研究されて居りますが、殊に徳山の燃料廠に於ては、目下三十何人かの人に依つて研究されて居るのであります。其の實驗して居る所では唯今の所百分の四十分までは油になる。即ち百噸の石炭が此の方法により四十噸まで油になると云ふのであります。是は只今の所は尙學術上の問題で、まだ逆も算盤には乗りませぬ。併し獨逸では既に石炭の含有する自然の水分を一分引きまして、其の半分まで液化させるだけに進んで居ります。昨年は確か二萬七千噸程實驗いたしましたのであります。本年は更に年産八萬噸の大規模の實驗工場が建設中であります。兎に角此の事は世界の各方面とも非常な重大問題として注目され、而して其の經過より視れば、是れが實際問題として經濟化され具體化されることは全く時の問題であらうと思ひます。今日の専門家中には此の石炭液化的方法の具體化に就て、尙疑を有つて居る人は最早やあるまいと思ふのであります。若し此の方法が實現するとすれば、私が今申し上げましたオイル・セールより油を採ること、若くはカバリ・コールの低温乾燥が假りに無いと致しましても、撫順炭現在の採掘高七百五十萬噸の半分を増掘すれば、日本の要求する百五十萬噸の油が出來て、一滴も外國から油を買はずに済むと云ふ數字が現はれて來るのであります。化學の進歩の實生活に及ぼす影響は殆んど革命的のものであると云ふことは、總ての方面に於

て今日現實に現はれて居るのであります。此の石炭液化と云ふことも今申した通り學理的には既に徳山に於ても出来ると思ふことがはつきり研究されて居るのであります。實際に事業化するのも恐らく兩三年位の問題であらうと思ひます。又ハーバーの工場と云ひ、獨逸の化學の中堅、技術者中に依つて既に屢々撫順炭が液化に適當するやを試験し、或は親しく撫順を訪問して實驗し、同炭は其の炭質が液化の目的に對して最も優秀であることが完全に確められたのであります。

新様な譯で、唯今申上げたのは新しき計畫に就ての唯三つの問題であります。それに致しても先刻も申上げます通り、鐵一品すら日本に輸入するものが一億數千萬圓であります。肥料に致しましても、全部を合せますれば一億圓以上でありますし、更に油は昨年の輸入は税關の統計では一億圓内外でありますけれども、是れが聽て二億三億に達すると云ふことは明かに見えて居る勢であります。此の三つのもの、自給自足を達成した丈けでも、其數字は四億圓乃至五億圓の巨額に達するのであります。是れが唯だ學理とか學者が研究をした問題として解決されるばかりでなくして、眞に經濟上の問題として、而かも企業者に於て利益を擧げつゝ、此の事業が成功すると云ふことになりましたならば、是は日本に幸する爲に、天が之を滿洲に於て與へたものと斷じても可からうと思ひ、私は非常に喜びを極めて居るのであります。

其の他、例へば最近アルミニウムの代りに使はれて居りますマグネシウムは四千圓に賣れる。左様な高價なものであります。世界の需要は昨年は千二百噸と云ふやうな小さな數字でありますけれども、若し安い電力が充分に利用され、生産費が安ければ、アルミニウムに代ることが出来ます。今日日本に於て一萬二千噸内外のアルミニウムを使つて居りますが、マグネシウムそれ自體の將來及アルミニウムを代用として、此の事業の如きも前途頗る有望なものと思ひます。是等のものを更に研究いたせば、滿洲には尙幾多吾人の未だ知らざる資源の埋藏は、蓋し餘程面白き大きなものがあると思ひます。(以下略)

右に説明せる事實の中には、昨年來多少形情の變化を示せるものがあり、鐵及肥料等の相場にもかなりの變動があります。又右に述べたる滿鐵の計畫が果して現當局に依つて如何に取扱はれるであらうかは、余輩の知るところでは無い。そは何れにもせよ、我が國に於ける基本工業の發達が決して絶望的でも悲觀的でも無いといふことは、如上の實驗的事實に依つても明瞭であると思ふ。

(六) 重要工業の現勢と對策 (上)

前段に於て我が國の基本工業として最も重要な地位を有する鐵、油及肥料の問題に關し、吾々は一應の所見を了した。それは多年特殊の地位と便益を與へられつゝある滿鐵中心の計畫を引證せるものであ

り、假令一般的に指標たり難き點あるにもせよ、其の方法及施設に妥當を缺かずんば、優に巨額の輸入を防止し、各種産業の發展を基礎づけ得るのである。そして國際的經濟戰に進出して立派に太刀討ちの出来る筈である。

我が國民の能力と技術とは既に世界的水準線にまで進歩しつゝある。それにも關はらず、何故に其の優秀なる技能の全部を實際上に活かし能はざるが如き状態に置かれてゐるのであらうか。之が工業國策上の根本問題である。例へば前段に引用せる油の問題は今や列國國民が鐵や石炭以上に關心を深めつゝあるところの重大工業である。モスール油田問題が國際政局を如何に險惡ならしめたかを見忘れざる限り、一日と雖も之を忽にするを許さない。語を強めていへば今日は既に石油時代である。石油なくしてはあらゆる文明の機關も用を爲さなくなる。無論自動車も動かない、飛行機も飛ばない、戰爭は絕對不可能である。即ち國家及國民の運命問題にまで進展しつゝある。故に單なる經濟戰以外に激烈なる國際的政略戰が石油を中心として渦巻きつゝあることは、小學生の間にすら教へられてゐる。然るに我が國の實狀如何と見れば、昭和三年度に於ける我が國の産額約一百八十萬石に對し輸入高は實に一千萬石を超えてゐる。即ち全需要高の八割五分までが海外の供給に依るのである。之を貿易統計表に見るに、

我が國の石油類輸入額

大正十四年	數量(百萬ガロン)	價格(百萬圓)	その輸入額が一億圓近く、而かも年々非常なる需要の激増である。
昭和元年	二二	六〇三	
同 二年	二六	六三	
同 三年	五五	八六	

爲でもあるが、先頃吾々同志が招聘したる獨逸の専門家スナイダー氏の實地踏査に依れば、我が國の當業者は實量の八割を棄て、僅に二割しか採油してゐない、一石の油を收穫し得べき貴重品の中から僅に二斗だけしか汲み上げてゐないとして、當時列席せる我が國の専門家の面前に其の不經濟極まれる事實を指摘した——事は無論一例を擧げただけであるが、元來生産力の不足の上に其の施設も未だ充分なる努力が拂はれて居らぬのである——斯くては採算の難きこと寧ろ當然であらねばならぬ。固より我が國に於ても夙に海軍燃料廠があり、又商工省にも燃料研究所が設けられてゐるのであるから、其の道の技術家は敢て之を知らなかつた譯ではあるまい。問題は唯だ努力と設備にあるが、設備は資本の運用、新企業に對する政府の指導如何に依つて如何様にもなり得る性質のものである。而かも是等の種々なる新施設を傍觀し放任して置くといふ點に、國家政策上の缺陷が暴露されてゐるのである。

若しも現在及將來に於ける石油問題の重大性が切實に認識され、一定の國策が樹立してゐるとしたならば、政府として執るべき方法はいくらもある。上述の設備を完成して空しく遺棄つゝある八割の油を活かすことも其の一方法であり、又別に既に満鐵に於て着手せるオイル・セールの利用もあれば、石炭の液化や低溫乾餾の方法もある(前節参照)。又現制度以上石油地質調査や、試掘の獎勵法を講ずることは當

然なる要務であり、或は税法の適用を改めるとか、液化及乾餾事業の保護及助成とか、國家として講じ得べき手段方策は必ずしも少きを憂へないのである（吾々が主張する政治の經濟化は即ち是等の事業に就いて適切な政策施設を行ふことに依り、國民經濟を豊かにすることを意味する）。

肥料の問題に就いても亦同様の感と與へる。我が國の農村振興策として、農作物増收策として、最も適切な方法の随一ともいふべきは、前に説ける通り低廉なる肥料を十二分に農家に供給するに在る。然るにその肥料の爲に我が國が支拂ひつゝある金額は實に左表の如く至大である。

我が國の肥料輸入高（單位百萬圓）

年次	豆糟	油糟	其他	硫酸	磷酸	石	骨粉	硫酸	酸	骸骨	合計
大正十四年	三	四	三	七	五	五	三	三	四	四	一六九
昭和元年	二〇	二	四	四	九	八	四	三	三	三	二〇三
同二年	八	二	三	三	二〇	六	三	三	四	三	一六四
同三年	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一五八

備考——上表中油糟その他の肥料を合して年百萬圓乃至三百萬圓内外の輸出がある。

表に示せる如く我が國の肥料輸入高は年々一億五千萬圓以上二億圓内外に及んでゐるが、其の中最多額を占むるは豆糟と硫酸である。然るに硫酸は全部日本に於て生産可能なるものであり、豆糟と雖も其の性を化學的に分解すれば大部分は窒素なるが故に、硫酸を代用することに依り、豆糟の七割内外を節約し

得るのである。故に我が國の硫酸生産額に増加せば前表の輸入額中より、少くとも八千萬内外を減少することになる。

近年我が國に於ける硫酸事業は、民間企業家の手に依り着々生産を増加し來り、主として英獨よりする輸入品に對し應戦の形に在るが（最近には外國品の廉賣に攻め立てられ意外の苦境に置かれてゐる。其の結果として硫酸一噸の價格は昨年四月の最高値段百三十餘圓から、今は九十圓内外にまで低落し、そして外國のダンピングに對抗する爲め當業者間には既に關稅政策に依る保護論なども唱へられてゐる）。併し乍ら我が農家の立場よりしては成るべく肥料の安きを要求するのみならず、國民經濟上に於ても亦食料政策其の他の關係より言つて、能ふ限り肥料の低廉なるを利益とせなければならぬ。故に事業者としては最新式の設備を整へ生産費の切り下げに努力すべきは勿論であると共に、國家として當業者を保護するに必要なる方策を講ずるを至當とする——既記滿鐵に於ける計畫に在つては最新式の設備に基き一噸當り原價四十五圓内外、之に包裝費を加へても五十圓にて足ることになつてゐる。随つて此の種の事業が實現したとせば、今日傳へらるゝ英獨のダンピングの如きは未だ必ずしも恐るゝに及ばないことになる——但し茲に吾々は既に問題となりつゝある保護關稅案を持出さうとするのでは無い。さりとして又能率の低き官營論を主張せんとするものでも無い。それよりは經濟國策の全局より考察したる徹底的施設を急務とするのである。

例へば我が國に於ける窒素肥料全部の輸入總額を以て、之を化學成分に換算する時は硫酸約百五萬噸に

該當するのである。而して之が製造に必要な企業資金何程かといへば、約一億圓を以て足れりとする。即ち此の一億圓を適當なる方法の下に企業運用すれば、我が内地に於ける輸入肥料一億圓の代用生産を擧げ得べく、随つて同額の輸入品を驅逐し能ふのである。これ寧ろ餘りに易々たる事業と解せらるゝ程に簡單にして而かも有利なる肥料自給策ではないか。

この方策は製鐵の場合に於ても同様である。我が國に於ける鐵鋼類の輸入量を假りに百萬噸と見積り、之を標準としての概算的計畫を數字に現せば、之に要する資金は約一億五千萬圓である。其中、約七千五百萬圓内外を建設材料購入の爲に外國に支拂ふとしても、それは一回限りに過ぎない。而して此の資金に依つて一億圓の鐵鋼を生産するに於ては、その五分の四に該當する八千萬圓は燃料、勞銀及利子等の形に依りて國內に落ち、唯だ残りの二千萬圓だけが鑛石原價及其他の形に依りて外國に流出するだけである。故に國際貸借關係よりいへば、最初の建設材料購入の爲に支拂ひたる七千五百萬圓は一年以内にして償却し得ることになる——この計算は前述滿鐵の計畫とは全然別である——假りに一億五千萬圓の資金を倍加して三億圓と見ても、年々百萬噸、一億圓の輸入を撃退し得るに於ては國家經濟上至大の利益たるは言ふ迄も無い。何となれば燃料勞銀等の形に依りて國內に落ちる金額は悉く國民各階級間に流通循環するのであつて、外國に流出するのでは無い。そして之に依つて國內過剩の勞力は新たに吸收の途を得、國民經濟を賑はすからである。

從來とても製鐵事業に對する國家の保護獎勵が相當に行はれてゐないとは言はぬ。他の産業に對しても關稅その他の保護策の講ぜられてゐるものもある。だがその方法が或は不徹底であり、若くは妥當を缺いてゐる點が少くない。之が爲に大量生産主義の外國品に對抗し難く、巨額の輸入を餘儀なくされるのである。その事業の小規模なる、その設備の不完全なる、施設の統一連絡なき、皆産業國策の基本が立つてゐないからではないか。

鐵の需要が——假令一時的には消長あるにもせよ——大體に於て將來益と増加の趨勢に在るは前に陳べたが、肥料も亦然りである。現時世界各國に於ける窒素固定事業は既に生産過剩を告ぐる迄に發展を遂げ、我が國に對する英獨のダンピングも、それが主なる一原因となつてゐる。しかし之を我が國の經濟關係から見ればまだ大に此の事業を盛んにせなければならぬ理由がある。それは米穀其の他の農産物の多量生産を圖る爲には充分なる施肥を必要とするからであり、農家をして充分なる施肥を實行せしむる爲には價格を低廉にして其の供給を豊富にせねばならぬ。勿論硫安のみが肥料の全部では無くて別に磷肥、堆肥、綠肥等を使用してゐるが、それにしても今ですら約一億圓、將來には一億圓以上にも上るべき輸入を防遏することは第一の急務であるのみならず、農業の進歩と共に今後農家の需要は益々増加するに相違なく、朝鮮、臺灣等にも更に需要を喚起する必要は充分にある。加之若し生産費さへ安ければ、進んでは支那や瓜哇等に輸出せしめ得る望みもある。この故に歐米の状態は別とし、少くとも東洋、特に我が國に於ては尙此の事業を發展せしめなければならぬのである。

唯だ問題は如何にして其の價格を低廉にするかに在る。關稅政策の運用に依る國家の保護は、此の場合

に於ては需者たる農家の利益と抵觸する。内地企業家を保護することの爲に價格を高むるが如き結果を見るに於ては、外國との農業競争に於て不利であり、又農家をして豆糟その他に向はしめ、或は施肥を吝むの風を生じて農産額を減退せしむる虞れがある。故に國家の政策は事業の發展を妨げざる範圍に於て價格の低廉を圖るべく働きかけねばならぬのであつて、就中當面に緊切なるは低利の資金と事業の連絡統制とである。高き金利に加ふるに高き公課を以てし、更に原動力の不廉、包装及配給機關の不整備等を漫然無關心の状態に放置するに於ては、根本理想とする農業發展の爲め、他國よりも低價なる肥料を供給し能はぬからである。

(七) 重要工業の現勢と對策(下)

上來余輩は工業國策の代表的例題として製鐵、油及肥料の問題に稍と多くの言を費したが、其の論旨は總ての工業に共通すべきものであり、本書の主旨とする所は敢て箇々の事業を對象としての考案では無い。要は國家及國民經濟の全局より觀察して緩急と輕重の取捨辨別を誤らざる用意にあらば可なりである。余輩が主として基本工業に就いて立言せるも畢竟此の意味に外ならない。但し基本工業の種目は上記以外に尙決して少しとせない。其の全部を擧げて之を攻究するは本論の目的上必ずしも其の必要を認めないが、しかし此の機會に於て更に機械工業及電氣動力に關して尙若干の言を添ゆることは敢て無用ではあるまい。

余輩の所見にして大なる過誤なくんば、現在多額の輸入を防遏すると共に、將來輸出能力の最も多かるべき事業として、機械工業及化學工業に由る生産物を重視せねばならないと思ふ。それで茲には機械工業に屬する下表を先づ掲げる。

種目	機械類輸入額 (單位千圓)	
	昭和元年	同三年
自動車及部分品	一五、七三三	三三、三四五
懷中時計及部分品	九、五三〇	七、九〇三
發電機及變壓機類	一〇、六六〇	七、四三三
其他機械及部分品	七、七七一	八四、七三三
計	二五、六五四	一三三、一六三

備考——機械類の統計はその分類法の差異に依り数字を異にす。今唯その一を表出す。

を回想すれば、今日二千萬圓の機械を外國に輸出し能ふに至つたことは大なる進歩に相違ない。又此の事實に依り我が國人の技術は習得熟達さへすれば決して世界何れの國にも遜色なく、遂には先進國を凌ぐに到ることの不可能ならざるを示す。例へば我が國民の考案に係る豊田式織布機械が世界的紡績業の中心地たるマンチエスターに据ゑつけらるべく其の特許權を購はれたるが如き、又現に米國航路に使用されつゝある淺間丸は世界の優秀船として各國に承認されつゝあるが如き、その他實例は稀では無い。斯く外國と

の競争に對抗し得る十二分の能力を持ちながらも、而かも依然として輸入國の地位に在るは寔に遺憾といはねばならない。

言ふ迄もなく現代は往時の手工業本位の世界にあらすして所謂機械萬能の世の中である。精巧にして而かも價格低廉なる機械こそは鐵道、電氣、紡績、製鐵、造船、其の他總ての産業に重大なる關係を有し、實際的には生産増加の中樞機能たる働きを爲すものである。殊に其の生産品の自質、多量、且つ迅速を旨とすべき近代工業に於ては、優秀なる機械力に依るの外、列國の商品に對抗して國際經濟戰の勝利者たり得る手段はあり得ない。然るに各種産業に缺くべからざる機械の製造が不完全にして尙内地の緊切なる要求をすら満たすに足らず、高價なる外國品の供給に待つが如きは、我が産業經營の第一歩に於て既に一籌を他に輸すると異ならない。

曩に余輩は米國に於ける機械工場が生産額が單に電氣機械の一種目のみにても三十億に上り、獨逸の如きも今より五年前、戰後經營の極めて多難なる時代に在つてすら、既に十億圓を製出しつゝあるに對し、我れは同じ種目に（而かも他と比較にならぬ小工業を併せて）尙五億二千八百萬圓程度の生産しか見出し能はざる事實を指摘して置いたが、此の電氣機械類は我が國現時の工業技術に依り殆んどその全部が内地にて製造し得るものなるに拘はらず、例へば變壓機にせよ、電力變壓器にせよ、メートル積算計にせよ、依然電要の大部分を外國から購つてゐるのである。昭和三年の調査に據れば、民間電氣鐵道の使用しつゝある變壓機三百十五箇の中百九十迄が外國品であり、三百九箇の電力變壓器中二百十六迄が輸入品である。

又メートル積算計の如き千三百六十箇の中内地品は僅々二百餘に止まり、他は獨、米、瑞等の製品である。既に扇風機や、電熱器の如きは三割以上も内地品が安價となつて居り、電球と共に立派な輸出品化してゐるに對し、他の機械類が尙舶來品崇拜時代の如き状態を持續しつゝあるは、何としても國家の不利、國民經濟上の大損といはねばならぬ。

この種の實例は一層適切に自動車の上に見はれつゝある。米國に於ては人口五人に對し一臺の自動車を持つて居り、加奈陀は十人に一臺、英國の如きも三十七人に一臺、佛國も亦四十人に一臺の割合となつてゐる。それが我が國に於ては數年來激増したとはいへ、尙人口一千五百餘人に對して漸く一臺といふ有様で、其の車輛數より見れば米國が二千三百萬臺、英國は一千二百萬臺、佛國九百萬臺に對し、日本はたゞの五萬五千臺しか無い（以上各國共一九二八年一日現在）。斯くの如き貧弱なる數字は蘭領瓜哇及スマトラ邊の近狀と相似たりて文明國中には殆んど見當らない。

随つて今後自動車の需要は、たとへ一時變兆を呈するが如き場合ありとしても、大勢上に於ては益々普及増加するに相違ない。之を我が貿易表に徴するも大正十四年度に於ける自動車及同部分品の輸入額四百六十萬圓なりしに對し、三年後の昭和三年には一躍三千二百萬圓にも上つてゐる。この割合を以て今後十年の後を推定すれば、少くとも其の需要は三十萬臺を越ゆるに至るであらう。而かも其の價格を問へば最低一臺一千圓を下らず、其の優れたるは一萬圓以上の高値を呼んでゐる。平均して一臺二千圓とするも三十萬臺の總額は六億圓である。然るに之を國內に於て製造すとせば嚴密なる計算より見て、其の所要の

地金及ゴム、硝子、綿皮等の原料代は一臺約三百圓内外にて事足るのである。それ以上の價格は概ね工賃運賃雜費等であり、工賃の大部分は勞銀である。今假りに將來價格の低落を見込み一臺平均一千圓の安値を以て三十萬臺を作るとして、其の總額は三億圓となり、而して此の内の七割即ち二億一千萬圓に相當する勞働力は之に依つて活用されるのである。二億一千萬圓の勞働力は一人一ヶ年五百圓宛の給料に換算して實に四十二萬人の工場従業者を使用する事に該當し、一従業者一戸五人の家族を養ふとせば二百萬人以上の人口を消化し得ることになる。單に自動車一種目ですら斯くの如し。輸入防過策としても、國民經濟充實策としても、機械工業の有利なるは推して知るべきである。況んや近域に支那を始め前途有望なる需要開拓地を控へつゝあるに於てをや。

轉じて更に電力事業を概観せんか。これこそは纖維業と共に我が國工業界に於て最も顯著なる發達を示せるものであり、そして我が國産業界の全局面に互り基礎的作用を爲すと同時に、國民生活改善上にも重要な性質を有する事業である。我が國が山岳起伏して平野少きは耕作に便ならずと雖も、其の反面には即ち地勢の傾斜多きを物語り、殊に南北兩方面より來る氣壓の多變に衝擊せられ、雨量の豊かなること、に於て水力電氣の絶好條件を具備しつゝある。如何に資源の貧弱を仰つ人々と雖も、此の點に就いては大に天龍に感謝し、環境の勝れたるを祝福せざるを得ぬであらう。帝國統計年鑑及逓信省編電氣事業要覽に依つて近況を見るに、

我が國の電力事業 (發電力、單位千キロワット)

之を大正の初め約六十萬キロワ

年	水力	火力	計
大正十三年	一、四七四	七六三	二、二三七
同十四年	一、八二四	九五四	二、七七八
昭和元年	一、九六六	一、二三七	三、二〇三
同二年	二、二二一	一、三五六	三、四七七

ツトなりしに比すれば約六倍、官廳施設及自家用の分を加ふれば正に七倍以上の躍進である。更に電氣事業別投資額を一瞥するに、(上掲左表)

外に官廳及自家用施設に係る水火兩者を合して昭和二年約七十八萬キロワットあり。

電氣事業投資額 (單位千圓、昭和二年)

事業別	拂込資本金	社債及借入金
電氣供給	七九〇、八五五	五四、七四七
電氣鐵道	二六六、五〇二	一九、二九七
供給電氣兼營	一、六二八、七九六	七九、九九六
計	二、六七七、一五三	一、四〇、〇九〇

して電燈と電車に使用せらるる。産業發展の一大要素たる動力が、豊富にして且つ永久盡くる所なき水力を利用して電化せられつゝあることは、誠に悦ぶべき事實であり、今後全國の水源を活用するに於ては、一千萬キロ若くはヨリ以上を期待し得べしと稱せられ、石炭及石油の有限的なるに比較し一層心強き資源である。唯だ併しながら從來我

が國に於て開發せられたる電氣事業は概して各個單獨の企業目的及利害に立脚して施設經營を進め來れるが爲に、當初より特に其需給關係に於て往々調節を缺ける憾みなきにあらず。相互間に送電の連絡統一を缺き、資本の二重投資又は其の設備に於て重複の状態を呈してゐる所も少くない。之が爲に河水の利用も經濟的ならず、設備や規格もまち／＼となり、有無共通の便を失ふに止まらず、投下資本の有効率を減殺すること尋常では無い。その結果として電力が高價になる。需要者に對して低廉に供給することが出來ない。低廉ならざるが故に消費を刺戟する力が遲鈍になり、一方事業界の要求が發電力の増加と伴して其處に供給過剩の現象を生ずる。我が國最近の状態は蓋し此の事實を物語つてゐるのではないか。隨つてそれは絶對的意味に於ての供給過剩でも無ければ、勿論將來の發展を阻止すが如き絶對的のものでも無い。まことは工業の基本動力、殊に四十餘億圓の巨資を投下せる重要事業にも拘はらず、之を不用意に看過し來れる政策的缺陷に其の禍因を見出すべきではないか。

成る程日本の電力事業が他の産業に比し近年眞に目醒しき躍進ぶりを示せることは前述の通りである。而してそれは一面天恵の水力を利用したるに發足し、他面には石炭及石油の高價なると瓦斯の普及未だ至らざるが爲でもあらう。歐米は概して水力に乏しく勢ひ動力は主として火力に依つて居り、従つて多年設備せる大量の火力機關が今も働きつゝあれど、それですら彼等諸國の電力設備は我れに比し大に優つて居る。即ち一九二五年度の列國の發電力概況を一覽すると、米國の二千二百萬キロを超特級とし、獨逸は當時既に六百萬キロを有し、英は五百萬、佛も四百五十萬キロを使用して居るのであつて其の頃の日本の

發電力總計二百七十萬キロよりは遙に多い。彼等の動力作用状態は根本的に異なるを以て單なる數字のみを比較するは妥當を缺かんと、之を動力設備の全局より見て、火力は固より水力に於ても日本は未だ遙に彼等に劣れるに關はらず、僅かの過剩に悲鳴を擧ぐるが如きは、畢竟する所、一に産業の未發達に基くであつて本來は甚だ心外とすべきである。我が國の水力電氣の總量一千萬キロ程度の如きは、今後寧ろ易と消化するまでに各般の産業を興隆せしむるにあらずんば、國際經濟戰に對峙して國民生活の平調を期し難いのである。

電力の需要は將來殆んど無限大である。現在に於ても例へば農村の電化や、家庭の電化は極めて小部分に限られて居り、たゞ數に於て電燈の普及せる以外、電熱及電力の利用率は尙甚だ低い。故に進んで工業的に農村漁村への電化が行はれたとせば、其の需要は劇増するに相違ないのである。元來我が國民殊に都會人が、今日尙薪炭を燃料とする如きは國家經濟の大局より見て不利益の甚だしきものであつて、一億圓の木材の輸入額やバルブ原料の前途を考ふれば、一日も速に山林擁護の計を怠つてはならないのである。薪炭の消費一年二三億圓を節約する爲に、瓦斯及電熱料金を低廉ならしめるが先決要件であり、瓦斯が石炭を原料とするに比し、電力が無限の水力を利用する點に於て、國家經濟上の着眼はヨリ強く後者に注がねばならない。然るに其の電氣が我が國に於ては瓦斯よりも薪炭よりも高い。所謂電力の過剩とは、之を他面より觀察せば畢竟料金不廉の反映に外ならない。

同時に吾々は國民生活の改善と社會政策上の立場から見て、電熱及電力の普及と低價策が必須の要

件なるを痛感するものである。電燈がランプに變つた如く、將來國民は電熱と電力とに依つて必然に生活様式の改善を促さるべき趨勢に在る。それは決して贅澤の爲ではなくて文化の向上と經濟上の關係及能率増進の要求に適應せんが爲である。随つて又國家は社會政策的意味に於て之が普及と低廉策を講ぜねばならぬのであつて、今日既に電氣設備の存在する所、如何なる寒村にも如何なる陋屋にも電燈を見ざるなきに徴しても、それが軀て極めて重要な國民生活の必需品であり、衣食住と共に不可缺の要具たるに至らんは決して遠き未來の事とは思はれない。既に今日に於てすら電力の總販賣代金は五億圓内外と言れて居る程國民生活の一大要品となつて居るのである。

斯く電氣電力事業が我が産業發展上に於ける基本的要素であり、併せて國民生活上普遍的必需性を有するの事實を認識するに於ては、國家は須らく此の事業に對して一日も速に適當なる方策を講ぜなければならぬ。

抑も水電事業は其の性質より見て、他の各種産業とは趣きを異にする點が多い。第一に其の水力は國家の所有に屬する河川を利用するものであり、河川は又水運及灌溉等の諸方面に至大なる關係を有するのみならず、其の源泉たる山林に就いても國家として切實なる注意を缺いてはならぬのである。此の意味に於て水電事業の如きは寧ろ國家の手を以て經營するが至當であり、幾多の利用方面を有する河川をして動もすれば一部のみに私に使用せしむるは甚だ不經濟、且穩當を缺くともいひ得る。前に吾々は官業整理の急務を指摘し、政府が商工業的の事業を行ふことの妥當ならざるを切言したが、水電の場合に於ては事

理を異にする、それは郵便及電信の官業たるを容認すると同様、之を營利事業として見るよりは、其の事業として經營すべき必然の理由を有するが故である。官業の最大なるは鐵道であるが、日露戰役後其の主要線路を國有とせるは主として國防上の見地に出發したのであつて、直接的には必ずしも産業の發展若くは社會政策的施設として打着せられたものでは無い。陸軍造兵廠、千住製絨所、海軍工廠等の如き亦軍備關係に基くものであり、而かも是等の官業は時代の變遷に伴ひ今や民間に於ても十二分に其の機能を發揮し得るのみならず、之を民營に移せばとて、毫も國防上に支障を生ぜず、却つてヨリ善き能率を上げ得る。製鐵所の如きも亦然りである。

之に異りて水電事業は上述の如くその資源が國家の公有物であり、あらゆる意味に於て國民經濟、國民生活と緊切なる普遍的關係を有するものである。故に之を單なる營利的事業と爲すの可否は極めて冷靜に考究さるべきであり、現在此の事業に附帶する各般の缺陷と弊害とは、最初より國家統制の方策を樹立せざりしが爲にもせよ、根本的には國家公營の手段を執らざりし結果とも解し得られる。即ち資本の二重乃至數重投下といひ、規格の不統一といひ、水利權の爭奪といひ、水運及灌溉上の故障といひ、概ね營利的事業の競争に起因する事象たらざるは無い。勿論今假りに水電の國有化を計畫すとしても、それは専ら發電及送電を管掌するに止め、之を一般に分つの役目は民間に委ねる。電燈、電熱及動力用の何れを問はず、需要家の求めに應じて直接に公衆と接觸し配電供給することは、例へば官營煙草が民間當事者の手に依りて販賣せられつゝある如く一定額の利益制限法を設けて事に當らしめば足る。但し政府としては

專賣事業に於ける如く水電の經營に依つて何等國庫の收益を圖つてはならない。蓋し電力國有の必要は營業事業本來の性質に由るのみならず、料金の値下と利用の普及を眼目とし、之に依つて産業を振興し、國民生活の改善を促進する。別言せば即ち國民經濟の發展と社會政策上の要求に應ずることを絶對的要件とせなければならぬが故である。

既にいへる通り現に我が國に於ける電氣事業投資額は四十億に上つてゐるが、今若し上記の方策に基き此の重要な設備を國有に移すとせば、水火電に互り概算二十億乃至二十五億圓内外の買收費を交するであらう——政府は發電及送電設備のみを買收せば足るのであつて、一般需要家に對する電氣電力の供給は總て民營と爲すを可とするが故に、此の方面の事業設備は敢て買收の要なし——假りに之を二十五億と見積り、六分利證券を發行すとせば、現在民營に依るものは約一割の配當、約六分内外の社債利子を當然の支出として採算され、其の間既に多額の利益あるのみならず、別に諸稅公課等を要するが上に、更に各會社個々の經營の爲め電力の過不足に由る損失も亦決して少くせざるに對して、これを國營と爲すに於ては是等諸般の點に多大の差異を生ずるを以て、民營に比し著しく支出を減少するに相違なく、それだけ料金を低廉とならしめ得べきは極めて明瞭である。加之現在の電力設備は概ね大戦時代物價最高の時に於て計畫せられたるものにて、平均發電所費一キロ五百圓以上にも當つてゐるが、將來政府の手にて新たに施行すべき工事費は大體半額を以て足るべしと言はれて居る。更に冬期渇水時に於て火力の補助を必要とすべき各大湖水に依る水力の補給、若くは同一目的の爲に必要とする貯水地設備の如きは極めて緊要目

適切なる事業なりと雖も、それは諸般の事情に徴し到底營利會社には望み難く、國家の力を以て初めて實現を可能とするのである。故に是等の計畫をして各々遺憾なからしめ將來大に電力料金の原價を低廉ならしむる爲には國營を有利とするであらう。

無論之を國營に移すに當りては特別會計を設定し、國庫證券に對する元利償還を其の範圍内に於て自辨せしむるが故に、一般歳出上には何等關係なく、厚毛と雖も國民の負擔を増加せずして低廉なる電氣電力を利用し能ふこととなるのである。

率然として之を聞けば二十五億圓の金額は寔に巨大なるが如しと雖も、實質的には唯だ從來の株券が國家證券と交換するだけであり、國家及國民の富と資産とは是の變動も無いのである。而かもその結果に於ては上述の如く發電原價其の他諸般の差異を生じ、需要者の利益を増進すると同時に、事業の統一に至便ならしめ、需給の關係を圓滑ならしめる。加之我が國の電氣電力事業は尙發達の中途に在りて今後に必要づけらるべき未開拓の領域、即ち將來少くとも更に七百萬キロ内外の水電を如何に統制すべきかの問題に對して、根本的解決を與ふる方策は、國營の一事に依つて立ちどころに大定され能ふのである。現在四十億の投資を巨額なりとする人々は、十年乃至二十年の後に於て八十億にも百億にも達せんとする此の重大事業を如何に見るであらうか。若しも成行きのままに放任して深く考慮せざるに於ては益々湖川水力の利用價格を低下し、水運灌漑等幾多地方的の問題を滋繁ならしめ、此の間、企業者に取りても需要者に取りても不利なる狀態を迫出する虞れなしとは何人が斷言し得やうか。問題は常に現在の缺陷と

料金の不廉なるに止らずして、實は寧ろその將來に懸つてゐる。故に吾々は之を民間營利事業のまゝに置くよりは、國家公共事業として收益關係を離れ、以て其の普及と低價策に徹底することの妥當なるを思はざるを得ないのである。

固よりこゝに陳ぶる所は畢竟余輩一個の試案であり、率直には國策上より見たる第一案として之を提擧したのであるが、若しも第二、第三案を問ふものありとせば、例へば半官半民事業として適切なる統制策を樹立すること、又は電氣電力事業に限り國家特別の保護及監督法を布くと同時に、其の收益に對して適度の制限を加へる如き方法もあり得る。又統制上の手段として關係營業會社の共同出資に依る一大監理會社を起し、建設、規格、連絡等を管理せしめ、其の經營を共通的ならしむると同時に、政府は該監理會社に參與し根本的に水利利用の途或は建設經營の監督、土地收用等に關する手續を統一合理的ならしめる。而して事業資金に要する社債に對し政府の保證を與へて低利金融の便を圖ると共に、利益配當其の他に關し公正なる規定を設けて資本主義の弊を排除し需給の調節に任ずる——この方法は結局官民合同の監理組織に依つて事業を經營することになるが——斯くして主要なる發電設備、送電幹線並に補助機關等を相互に連絡せしめ、規格を統一し、利用能率の増進を圖ることも時宜に適する一案たらんを信ずる。

若し夫れ水源涵養の爲には是れ又國家の政策として山林の保護助長に努力すべきであり、殊に貯水池の設定を條件づけることに依り、灌漑問題及減水季節の準備等に備ふるは極めて緊切と考へる。又水運問題に關しては慎重なる調査機關を置き、國民經濟の大局より判斷して可否を決すると共に、相當の對策

を設くる等、政府に於て當然に講究すべき各般の肝要なる施設が今日尙ほ等閑に附せられ、或は不用意に放任せられつゝあるは吾々の甚だ遺憾に堪へざる所である。

同時に當面の改善案について一言を附加すれば、不用電力の利用、即ち例へば現在無駄に放流しつつある深夜水電の如き、産業獎勵の趣旨に基きて適當なる指導と活用方法を促進すべきである。現に一キロ千圓にも當る建設費を投下せる貴重なる水力と其の設備を無價値に眠らしめつゝある如き實例もあり、一般に午後十時以後は電力に餘裕を生じ、殊に深夜より曉にかけては殆んど需要の大部分が停止の状態を呈する。故に此の過剰水電を活かすに於ては極めて低廉なる料金を以てしてもヨリ善き經濟は立て得らるゝ筈であり、動力だに低廉ならば夜間作業に可能なる事業も多々見出され得べく、勞務者の如きは二部制又は三部交代制を適宜採用すれば可なりである。既に鐵道、汽船等晝夜間斷なく活動せるもの決して稀ならず、又夜間に電熱を貯へて晝間に之を利用する方法も多々あり、窯業、化學工業、浴場、農家の排水灌漑の如きは、各國に於て既に巧に夜間の電熱及電力を取り入れることに成功してゐる。政府の指導と營業者の開拓宜しきを得ば、あらゆる方面に展開の餘地綽々たるを疑はない。

この他尙各種の手段と方法も考へ得られるが、要するに根本的には料金を低廉にし、サービスの優良と合理化を圖るにある。そして多々益々電力の供給を豊富にし、國家を擧げて一大電化國たらしむるまでに普及せしめることを理想とする——それは既に露國及伊太利に於て國策となりつゝあることに注目を要する——今日我が國は電光即ち燈火用としての利用と普及については世界有數の地位にまで進んでゐる

が、電熱及電力の二者は尙甚だしく遅れてゐる。前來吾々が主張力説せる農村の電化に就て見るも、當業者の誘導と有識者の努力を以てして昭和三年度に於ける此の方面の電力利用高は全國五百萬の農家を通じて總量僅に五萬九千キロに過ぎない。之に比すれば家庭の電熱化の方がまだしも稍々優つて居り、其の使用戸數約十萬、契約容量十五六萬キロと稱せられる。だが斯かるは尙初期時代の數字といふべくして、現在三四百萬キロワットの電力の如きは農村用と家庭電熱用とに依つて消化さるゝ位の程度にまで進歩普及せしむべきであり、之に工業用その他の需要を加へて水力一千萬キロ以上火力を以て之を補充する程の盛況を呈するに至つてこそ、我が國の産業は如實に勃興し、國民の生活狀態は面目を新たにすであらう。否、其の程度に高めることが單なる理想にあらすして、須らく實際上の計畫たらしめねばならぬのである。

繰り返していふ、電氣電力は既に國民生活上の必需品であり、永久に低廉なる動力を供給することは、あらゆる産業の基本的要素である。故に其の普及と低價策とは社會政策上にも重大なる意義を有すると共に、國家及國民經濟の全局に最も緊切なる關係あるを知らねばならない。其處に國家としての方策が當然に急務づけられてゐるのである。單なる供給區域協定問題以上、若くは所謂規格統一問題以上、ヨリ徹底的なる政策の確立と運用とを必要とする所以である。

以上に於て吾々は産業國策の遂行上、最先の急務と認めらるゝ數箇の基本工業を例題として大體の所見

を開陳した。而して製鐵、油、肥料、機械、電力等何れの事業も尙ほ我が國に於ては未完成であり、不統一の憾みを禁じ能はざる状態に彷徨し、或は低迷しつゝあることを痛言した。それは即ち我が國の全産業、然り殆んど全部の産業に共通する弱點の總評であり、現實暴露である。それが又我れに相當の能力と技術を持ちながら、依然巨額の輸入の杜絶せざる所以であり、同時に國民經濟を壓迫し國際貸借の均衡を失はしめつゝある主因の第一でもある。而かも其の未完成と不統一とは、一に國家の政策が國民生活の向上發展を基調として考案し運用されてゐない結果に外ならない。此の缺陷を取除くにあらざれば、我が國の工業は何時まで経つても優勢なる外國品に對して弱者の地位に甘んぜねばならない。隨つて又何時まで経つても經濟國難打開の幸運には見舞はれない。故に我が國民はここに一大勇斷を振つて根本的徹底的なる産業爲本主義の國策を確立するを要する。單に豫算案の款項目をいぢくり廻すことが國民經濟建直しの焦點では無い。嵐の前に灰を振りまくが如き施設が決して有意義なる失業救済では無い。總ては姑息であり、彌縫であり、眼前口頭のであり過ぎる。

眞實なる産業國策は名實共にあらゆる方面に互つての改造を要求する。形式的の轉換ではなくて本質的なる建直しである。そして大規模に、有機的に、經濟參謀本部を中心として國家總動員を行ふ底の改造でなければならぬ。所謂經濟參謀本部は即ち産業總司令部の別語である。總ての組織命令は其處に統制され、其處から發動する。經濟國難に自覺せる内閣は無論その參謀本部であり、總司令部たるの任務を盡すが當然である。而かも家が國民が現に直面しつゝある當相は如何に在るか。時の爲政者が自覺し勇斷する

に前立ちて、國民有識者が先づ自覺し勇斷しなければならぬのである。

第十一章 輸出増進策

本章に述ぶる所は前々章の農村振興策、前章の工業發展策と因果共通し、輸入防遏即輸出増進策たること勿論なれども、今唯だ便宜上、前者と引離して假りに此の一章を置きたるのみ。

(一) 一般的方策

産業國策の究竟目的は改めて説くまでもなく一面には輸入を防遏し、他面には輸出を増進するに在る。前者は先づ順序として國民生活の必需品を自給することに出發すべきであるが、しかし單なる自給を以て事足ると爲すは未だ世界人としての要素を具備せざる島國の見地の域を脱し能はぬ。苟くも國際的經濟戰に對處するに方りては他面輸出を増進し、依つて以て優越的地位を確保しなければならぬ。輸入防遏と輸出増進とは不可分なる因果的關係を有するものであり、たとへ其の一を充たし得たりとしても、若し他の一を缺くに於ては未だ國民經濟上の施設を完うせるものとはいひ得ない。

前章及前々章に於て、吾々は農工兩産業の現勢を考究するに際し、主として輸入防遏に觀察の焦點を置いたが、是れ唯だ説明の便宜に由るのであつて、其の眞意は無論輸入防遏と同時に、輸出の増進を考慮し且つ期待しての立案である。例へば農産物の代表的主目として取扱ひたる米の問題にせよ、將た工業の例題として記述せる鐵、油、肥料及機械等の問題にせよ、それは單に外國品の供給に待たざる迄に國産品

を製出し、以て自給自足を圖れば足るとするの意味では無い。期する所は國內の需要を満たすと同時に、廣く海外に販路を開きて大いに之を輸出せんことを要望してのことである。此の意味に於て輸入防遏即輸出増進策であり、既述の農村振興策も、工業發展策も、本來は決して對内的需給を限度とする政策たるべからずして、ヨリ強く、ヨリ切實に、對外的飛躍を豫想しての國策たらねばならないのである。

さて然らば如何にして輸出増進の目的を達成すべきか。一般的原則よりいふならば、總ての商品を國際化する事である。殊に我が國民の日用品をして單なる日本の需要限りのものと見ず、世界的需給關係に適應する國際的商品としての價值性を具備せしめる。第二には氣候、原料關係並に國民性に最も適當せる工業、殊に經濟的に列國と競争し得る確信を有すると共に、内外に互り需要廣き商品の製産を獎勵すべきである。この用意と認識とを實際上に發揮するにあらざれば、列國間の經濟的爭覇戦に突進して其の優强者たることは容易に望まれないのみならず、世男の大勢は如何なる商品、如何なる地域たるを問はず、時々刻々にあらゆる生産物の國際化を促しつゝあるのである。それは南洋の天産物たる砂糖が我が製菓業者の手に依り加工されて他國に輸出せられ、或は加奈陀及米國の小麥が日本に於て粉と化し、或は全然輸入原料に依るゴムと綿布より成る足袋が麥粉と共に支那方面に供給せらるゝが如く、現前顯著なる例證が極めて明瞭に之を語つてゐるのみならず、他方に在つては日本の特産物と見らるゝ傘、下駄の類すら支那より我が國に輸出されつゝあるが如き現象に徴しても、直ちに首肯せらるゝ事實であらねばならない。

固よと箇々の商品、箇々の生産物中には専ら國內用のものもあれば、輸出向きのものもある。併しながら、それは各國民それ々の好尚、習慣、圖樣等の差異に由る第二次的の現象であつて原則的、本質的には生産品の國際化に基礎づけられずして輸出増進の途は見出し能はぬ。現に廣幅物の絹布、綿織布等の如き我が國の重要輸出品が立派なる國際的商品であることは何人にも認知せらるゝ所であるが、これと同様に我が國の貿易關係を改善し、輸入國の地位より輸出國の地位に轉せしめんが爲には、國民の日用品そのものからして先づ國際化せしむる程度にまで開眼しなければならぬ。此の自覺、此の條件を忘れて輸出の多からんと欲するは鎖國時代の經濟觀に彷彿するものたるを免れない。

然るに我が現在の實情は果して斯くの如き國際商品化の趨勢に適應すべく妥當なる方針を執つてゐるであらうか。又國民の多くが果して此の原則的條件を意識的に體得してゐるか何うか。朝野の識者は頻りに輸出増進の急務を説いて居り、又國民の必要とする衣料、食料、及住料等が立派な國際商品として我が國に輸入せられてゐることを十二分に知悉してゐる筈である。それにも拘はらず、我が國の生産物、殊に日用品をして國際化せしむることの必要と努力とに就いては、生絲其の他從來世に知らるゝ特殊品以外、殆んど措いて問はざるが如き觀がある。かゝるは未だ日本をして世界的輸出國たらしむべき根本の要素と資格とに缺如するものといはねばならない。

實をいへば明治以後の政府は大に實業を獎勵し、經濟的對外發展の必要を高唱し來れりと雖も、それは唯だ月並のテール・スピーチたるに過ぎずして、具體的には何等徹底の方策が確立されてゐないのである。それ故に國家の外交にせよ、教育制度にせよ、國民經濟の要求に適應すべく基礎づけられてゐないのである。

らず、當面の主務官廳たる農材及商工省の如きすら、明確なる方針と施設とを結合はしてゐない。例へば米、麥、大豆等の輸入國でありながら、我が農作物の國際商品化に關する指導方法に就いては極めて狭き範圍に限られて居るが如きはその一體であり、就中重要な工業生産物に關しても、ちぎれ／＼の方策以上に殆んど何もものを見出し得ざる状態に在る——殊に現時の消極内閣に至つては、曩に田中内閣時代に決定せる各種産業助成の費目を削除し、或は一旦前内閣の貿易局新設豫算を切棄て置きながら、忽ち自ら之を復活するが如き撞着矛盾の行動を演じつゝありて、徒らに其の無理解又は不見識を暴露しつゝあるを遺憾とする。尙忌憚なく言へば根本的に産業の發展を圖らずして何の輸出増進があらうか。生産の増加を後にして單に貿易局の新設を急ぐが如きは、本末顛倒であり、國産品なくして如何に愛用の途ありや。それは單に消極主義の悲哀を自ら慰むるに過ぎざるのみ——斯くの如くにして貿易の増進を期待するは寧ろ餘りに小説的といはねばならない。

吾等は前に現行教育の缺陷を指摘して實業化の緊切なるを力説し、又外交及國防の經濟化を提唱したが、顧みて今日の經濟國難に徴する時、我が國の教育は果して如何なる認識を與へられ得るか。中學、師範、高等學校、殊に多量生産の實況を示しつゝある法科系の教育機關に依り、如何なる効果が待設けられ能ふか。又例へば我が國現時の外交を見ても、刻下の國情に對切なる如何の働きを爲しつゝありや。日本の海外に要求する所は低廉にして豊かなる原料の供給と我が輸出貿易品の販路開拓である。而して之が爲には支那、露西亞、印度、南洋及米國等に對する外交上の努力が何よりも肝要であらねばならない。然

るに近來日支の關係は外觀上好轉を傳へられつゝありとはいへ、其の真相は果して如何。最も密接なる利害を有する滿蒙問題に就ては全然拱手傍觀せられて之が解決點を見出すべく一步も前進せざるのみならず、恰も滿蒙の存在を忘るゝもの、如く何一つの努力をさへ傳へられてゐない。その上に新任公使は所謂アグレマンの關係に妨げられて本國に立往生の姿を呈し、帝國の威信を疑はしむるが如き状態を持ち續け、何よりも重要な日支關稅條約の交渉を一代理者の手に行はしめてゐる。其の結果として將來對支貿易に不利なる協定を甘受するに至るなきかは識者の深く憂慮して已まざる所である——現に最近の報道に隨へば今回の交渉に由る日支新關稅は甚だしく我が國の諸産業を壓迫し深刻なる打撃を對支通商上に與へる虞れなしとはいへない。互惠協定の實施期間を當初の十年案より極度に短縮して僅に三箇年に讓歩したるが如き、日本側互惠品目の範圍を狹隘にし、從來の對支輸出總額の約六割までも支那の關稅自主權を承認したるが如き、更に我が互惠品目の大部分に對して從價二分五厘引上權を留保せしめたるが如き、何れも妥當なる協定とは認め難く、尙この他にも種々の缺陷が既に各方面から指摘されてゐる——是れ即ち國家の外交が國民經濟の要求に出發せず、貿易の増進の重點として考案運用せられざるが爲に外ならない。

前者と同種の實例は對露支交にも既に示されて居り、就中ボーツマス條約に依つて獲得せる漁業權すら屢々圓滑なる進展を阻まれてゐるではないか。隨て彼我が經濟的協力よりする東露の開發は前途遠慮であり、同方面に於ける外交上の施設と對策とは殆んど何もものを見出し能はざる實情に在る。更に印度

の綿布關稅引上といひ、濠洲に於ける我が絹布の壓迫等といひ、問題は各國それ々の政策に立脚するに
 もせよ、此の間我が國の外交が經濟産業の見地に如何なる働きを爲したりやと問はゞ、單なる形式的交渉
 以外、事前に於て有意義なる活動を示せる事實あるを殆んど知り能はぬ。

羅馬は一日にして成らずといふが、凡そ産業の振興にせよ、輸入の防遏、輸出の増進にせよ、之を實現
 せんが爲には國家及國民の何れもが其の目的を達成するに必要なる方策を確立し、あらゆる努力を集中す
 るにあらざれば結局砂上の樓閣たるに過ぎない。故に日本をして輸出國たらしむるには、國家百般の施設
 が之に適應すべく準備づけられねばならぬと同時に、一般國民も亦廣く世界を相手として活躍するだけの
 用意を缺いてはならない。此の準備と用意とを合はすして徒らに輸出増進を口にすとも、それは單なる機
 上の雄辯であり、實際的には何の用をも爲さない。然るに我が國の現状は上述の如く國家として未だ明
 確なる具體的方策が無く、教育も外交も其の他所要の機構が此の目的を達成すべき基礎の上に運行されて
 るない。斯くして何程輸出増進の急務を高調したればとて、なか／＼に實績の擧るを期し能はぬ。

それで吾々は先づ一般的原则論として我が國民日用品の國際化を圖ること、そして國家の方策と各般の
 施設を確立改善するの要務を略述したのである。前内閣は其の一段として輸出補償制を立案し之を現
 内閣に引繼いだが、それは固より輸出獎勵の局部的方法に過ぎない。又輸出品に對する運賃の低減若くは
 拂戻の如き、既に各國に採用せられつゝありて、是れ又局部的補助の一方法に過ぎないのである。更に
 根本的なる要件としては矢張り積極的産業發展策に依る輸出適當品の多量生産と良品低價であり、如何に

輸出を増加せんと欲するも世界的需要を有する適品無くば海外に供給すること不可能なると同時に、如何
 に國産を獎勵すとも、良品低價にあらざれば以て輸入を防遏し、國際經濟戰に對抗し能はぬのである。故
 に根本的には一日も速に産業立國策を樹立し、國家全局の機構を産業經濟本位化せしむると共に、國民
 全部が輸出國民としての要素を具備するまでに自覺開眼しなければならぬ。そして國家は外交、國防、
 教育、交通、金融、その他あらゆる機關を通じて國際經濟戰に對處すべき施設を講じ、適切なる指導、獎
 勵及保護を與へる。いはゆる國際貸借の改善も、金解禁に伴ふ善後策も、國民經濟の擴充も、失業問題の
 解決も、眞實には這般の積極的方針を措きて其の可能性ありとは覺えない。随つて消極政策の手に持ち扱
 はるゝ局部的國策の如きは本質的に無價値なる閑戯にあらざれば貧弱なる彌縫策に過ぎざることを悟らね
 ばならない。

(三) 四箇の觀點と我が國の地位

輸出増進に關する一般の方策に就ては既に前節に略述したが、我が國一部の人士間には吾々の提唱し
 つゝある積極的政策に對し今も尙種々の悲觀論や懷疑見を挾むものがあり、之が爲に國家として執るべき
 當然の對策も、政府に於て行ふべき當然の施設も阻碍され、若しくは極めて姑息なる枝葉末節の事のみ
 心を奪はれつゝある。而して是等の人々の主張する所を聞けば、第一は依然原料問題に關聯し、第二は技
 術問題、第三は資本問題、第四は販路の問題等に低迷しての消極論たらざるは無く、而かも其の大部分が

論者自身の頭腦的錯誤にあらざれば、舊時代の鎖國的經濟觀に出發する謬見多きを憾む。

第一の原料問題については既に前章工業發展策の中に説明して置いた通り、現に英獨佛等の何れを見ても、皆原料の輸入國であり、大に輸出を増進せんと欲せば、原料品輸入の更に多きを必要とする關係に在る。試みに英獨兩國の例を取るならば、

英國の輸出入主要種目 (單位十萬磅、一九二八年)

輸入額	輸出額
食料及煙草	五、三二九
原料及粗製品	四、三三八
完成(製造)品	三、一八〇
	五、七六六

獨逸の輸出入主要種目 (單位百萬馬、一九二八年)

輸入額	輸出額
食料及煙草	四、一六六
原料及粗製品	七、二四七
完成(製造)品	二、四四八
	八、三〇〇

一目して英獨共に巨額の原料及粗製品輸入國たるを知り得ると同時に、之を加工製造して完成品と爲し、以て輸出貿易の大宗たらしめつゝある事實を看取し得やう。假令原料購入の爲に對外支拂額の増加を招くにもせよ、そは單に一時的假拂たるに過ぎずして、製造工業の設備及能力にあらば短期間に之を加工し

完成品化する事に依り、大なる利益を獲得し多數國民に生活の途を與へ能ふことは、我が國の紡績事業に徴しても極めて明白である。この意味よりいへば、原料輸入は我が國に取つての榮養素であり、之を攝取し消化するの多々益々大なる程、國民經濟を優強ならしむる所以である。随つて經濟外交の要點は圓滑に豊富低廉なる原料を外國に求めるにある。

第二の技術問題に關しては歐洲大戰當時の試練に依り既に製作工業の大部分は製造可能なることを立證し、舶來品萬能の思想も今や漸次に局部的に限縮せられて居る。例へば製鐵、造船、飛行機、發電機、變壓機、窒素肥料、レーヨン等々々の如何なる工業と雖も、邦人が有する技術能力の優秀なるは事實上に判明して居り、世界何れの國民と比較しても根本素質には決して遜色は無いのである。曾て製鐵事業中最も至難と認められたる武力板薄板の如きも國內生産の發達に依り漸次輸入を減少し、又獨逸の專賣視せらるる化學染料の如きも、既に其の或るものは獨逸品と對抗し得るまでに進んでゐる。最も技術の精巧を要する時計類の成功は言はずもがな、極めて鄰近なる實例としては我が國のシャツ、メリヤス類が世界の市場と呼ばるゝマンチエスターに進撃し、廣島縣の萬年筆が歐洲の市場にまでも羽翼を擴けつゝある。又多年純輸入品を以て目されたる毛織物類殊に洋服地の如きも、英國製優等品に劣らざる國産品を身に纏ひ得る時期に達してゐるのであつて、邦人の能力と技術とは我が國民自らが評價しつゝあるよりも遙に高く、遙に優れたる實質的進歩を示してゐる。然るに此の間、尙巨額の輸入を防ぎ能はざるは即ち我が國の産業方策、就中工業國策に缺如せる結果に外ならずして必ずしも技術上の罪では無い。別言せば産業に對する爲

政者の指導、保護、統制等の未だ到らざるが爲であり、國民それ自らの有する天分は十二分に英獨と對抗し、或は彼等を凌駕し得る程に豊かなりと稱するも敢て過言ではあるまい。

第三は資本の問題であるが、是れ又我が朝野の間には頭腦硬化病の發作かと推せらるゝ程の錯覺が廣く流行してゐる。消極内閣の標榜しつゝある非募債主義の如きは其の顯著なる實例の一つであり、消費經濟にのみ拘泥して生産經濟を理解せざる鎖國時代の緊縮節約論が、如何に無價値の努力たるかは既に眼前の事實に照らして炳焉火を睹るよりも明かである。彼等口を開けば忽ち國債の増加を咄ひ或は保護政策の非を鳴らし、或は財源の窮乏を嘆くを常とするも、生産公債の増加は毫も憂ふるに足らざるのみならず、之を活用する事に依りて國富を増進し國民經濟を裕福ならしむることは、恰も原料の輸入を榮養素として輸出の繁榮を圖ると同様であり、寧ろ多々益と辨するに足るものあるを思はしめる。假りに吾々が前に提擧せる試案の如く二三の主要なる基本工業を振興し以て當面の輸入を防止するとしても、之に要する資金は既記の如く鋼鐵、肥料、機械、自動車等概算年額三億圓の製作に對して約四億圓を投資せば足るのである。又假りに國內製出を可能とする全額年産十億圓の工作品を作るとして、其の所要資本は十二三億圓にて足れりとする。固より原則的には民間を督勵して是等の企業に當らしむべきであるが、之が爲には或る期間、各國に行ひつゝあるが如く適當なる助成補給、關稅政策、其他種々の方面より其の達成を促進する途を講すべきである。簡明率直に國家が此の投下資本に對し十年間平均五分の補助を與ふるとしても其の金額は毎年六七千萬圓に過ぎないのである。凡そ工業の原料は鐵石といひ、農林産といひ、石炭といひ、總て

勞働の結晶に外ならない。故に工業に依る十億圓の生産は其の大部分勞働賃金とも稱し得られるのであつて、男女工平均一日一圓の勞銀として前記製作に依り實に三百三十萬人の勞働者及其の家族の生計の途を與へる。そは社會政策より見ても極めて重大の意義を有するのみならず、其の目標とする十億圓の工作品は現に外國より輸入されつゝある商品即ち日本に需要すると同時に外國の消費にも共通するものなるが故に、國內の輸入を充すと共に、直ちに輸出貿易に轉換し得る國際商品である。随つて之に基礎づけらるることに依り、輸出増進の活力素となることは毫も疑ふの餘地は無い。

思ふに如何なる悲觀論者にもせよ、我が帝國の實力を以てして五億乃至十億程度の資金が不相應の巨額だとは考へぬであらう。民間の一紡績會社や、一電力會社ですら、二億三億の資本は必ずしも大なりとせず、況んや政府自ら之を行ふにあらすして唯だ適當なる指導及保護を與ふべく確たる方策だに樹立せしむ可なりとするのである。又假りに電力國有の一事を實行するとしても、之に依つて何等國民の負擔を増加する虞れなきは前に説ける通りである。要するに問題は資本難にあらずして一に國策の有無如何に依つて決定する。國策だに定まらば資金は内外何れの方面よりも供給され、別に預金部其他よりする低資金融の方法も立つ。たとへ、保護政策の可否は別論としても、現今世界の實勢は各國競つて保護政策を採用せざるなく、輸入防遏、輸出増進に對する關稅及金融等の施設を始め、外交に、教育に、交通運輸に、國家の全機構を擧げて經濟的保護主義の徹底化に努力を集中しつゝある時代に直面してゐるのである。獨り我が國に限つて呆然自失、或は姑息強辯、僅に其の日暮しの小計を以て足れりとするが如きは、斷じて國民

生活を多幸ならしむる途とは信ぜられない。

第四は販路の問題である。現今世界の人口は約十九億と推算されてゐるが、其中亞細亞方面のみにて十億内外の人間が居を構へつゝある。支那に四億、印度に三億、その他印度支那に、南洋に、西伯利に我が生産品の販路は頗る廣い。假りに歐米兩大陸に對しては我が特産品の供給に主力を注ぐこととし、其の他の國際競争品の輸出を見合はすとしても尙決して天地の狹隘なるを憂ふるに及ばないのである。單に滿洲にのみ就ていふも、二十年前一千萬と稱せられたる人口は近く三千萬に上るの盛況を呈しつゝありて、朝野の對策だに宜しきを缺かずんば將來極めて有望なる發展地域たるを疑はない。凡そ貿易の主眼は低廉なる原料品を得ること、相手國民に必要な商品を他の競争者よりも安價に供給するに在る。而して我が國は亞細亞大陸を對岸に控へて彼地より原料の輸入に至便なる地位を占むると共に、未だ近代の産業未開國の多數の人民を同じ地域に擁しつゝあるが故に、需要供給の兩面に於て甚だしく他に劣らざる寧ろ有利なる立場を恵まれてゐるのである。併しながら此の有利なる立場も腕を拵きて之を傍觀するに止まらば、單に空想を地圖上に描くの愚觀を脱せざるのみならず、其處には歐米各國より來る熾烈なる經濟的侵略に放任するの結果となる。故に國家の外交は當然に此の有利なる立場を活かすことを第一義として運用されねばならない。そして一方には我が國が必要とする原料の供給を圓滑ならしめ、他方には我が生産品を國際化し各目的地の需要に適合せしむべく誘導するの役目を引受ける。それが即ち吾々の要求する外交の經濟化である。

斯くして我が國の産業が振興し、優良且安價なる國際的商品を多量に生産するに至つたとせば、販路の擴張は必然的であり、地理的にも人文的にも亞細亞に國する日本は十億の顧客を對象として濫利たる活氣を呈するに相違なしと信ずる。此の曉に至らば單に對米向きの生糸だけが貿易の大宗では無く、又綿織物や麥粉乃至今日の工作品其の他の少類なる雜貨類が支那及印度向きの輸出品とは限らない。鐵、機械、汽船、肥料、人絹織物、化學工業品等々々の何れもが殆んど無限的需要を亞細亞大陸の將來に持つてゐるのである。嘗に工業生産物のみでは無い。世人が輸出不能なるかの如く考へつゝある米穀ですら、支那は近年大なる輸入國となりて一年六百萬石を海外の供給に仰いで居るのみならず、安南、緬甸を除ける他の各國即ち瓜哇にせよ印度にせよ、皆米の輸入國たるを見忘れてはならない。それ故に吾々は國民全般が日用品の國際化を圖ると共に、農と言はず工と言はず品質の改良と價格の低廉とに切念し、大量生産による積極的經濟に邁進せんことを力説して已まざる次第である。

敘べて茲に來れば所謂原料問題も、技術問題も、資本問題も、販路の問題も、總て悲觀するに足らず、消極的なる懷疑論者の見解の如きは、神經衰弱病者に目撃する所の危惧心に異らざるを知り得やう。本來我が國はその地理的關係に於て、又その氣候に於て、産業發展上極めて好適なる環境に在るのみならず、國民の智能は世界何れの國民にも負けを取らず、その人口の饒多なるだけ、それだけ生産力を強盛ならしむる爲の強味であるやうに仕向けねばならない。現に英獨の如きは日本以上の輸入國であり、殊に大戰の深傷を蒙りて瘡痍未だ癒えざる状態に在るに拘はらず、既に着々として國勢を回復し輝かしき更生の機運

を打開しつゝある。他國の行ふところ我れ之を爲し得ざるの理無し。然るに何故に我が國に於て之を至難とし、何故に深刻なる不景氣の永續を啣たねばならぬか。結論は寧ろ簡明である。其處には未だ産業國策が確立してゐないからである。政治上の組織運用が經濟化されてゐないからである。外交も教育も國防も其の他の機關も國民經濟の擴充を基調として構成されてゐないからである。輸出増進策は結局輸入防遏策と同一の論理、同一の約束、同一の内容を要件づける。區々たる一局一部の小施設に依つて大勢を轉換せんとするが如きは得て望む能はざる所。根本的には飽く迄も積極進取の政策を堅持貫徹して國內生産を豊富低廉ならしむること以外に別の方法も手段もあり得ない。それは即ち産業立國策の徹底を意味し、國民の總勞力を動員することに歸着する。之が爲には爲政者が率先行政の全機構を刷新し指導統制の任に當ることから開始されねばならない。これ吾々が本書に於て各般の方面に互り所見を記述する所以であつて、其の全部的趣旨が纏て輸出増進策の講究に外ならないのである。

(三) 我が國輸出品の一瞥

上に説ける所は輸出増進策としての根本的條件を明かにし、之に對する一般國民の正しき理解を促すと同時に、國家が必要とする方針と施設の如何に在るべきかを概説したのである。

翻つて我が國の輸出状態を見るに、大正十四年の輸出總額二十三億圓は暫らく別として、それ以後に在つては特別輸出品を除き左の如き數字を示してゐる。

昭和元年 二十億四千四百萬圓 (朝鮮臺灣共二十一億一千九百萬圓)

同 二年 十九億九千二百萬圓 (同 上 二十億六千五百萬圓)

同 三年 十九億七千二百萬圓 (同 上 二十億三千八百萬圓)

世界的不景氣の影響を受けて近年減退の傾向を呈すと雖も、概觀的には平均二十億圓内外の輸出額を示しつゝある。而して其の輸出品目を總括的に分類し、約數的に表示すれば左の如し。

生絲及絹布類 九億圓

綿絲及綿布類 四億五千萬圓

天 産 物 二億圓

工 作 品 及 其 他 四億五千萬圓

即ち生絲及絹布類が總輸出額の四割五分を占め、次では綿絲及綿布類が約二割三分となつてゐる——此の中生絲のみにて總輸出額約三割七分、綿布類が同じく約二割二分に上り、兩者合して十二億圓内外に達する——隨つて天産物及工作品等に屬する幾百種の輸出品が尙甚だ振はざるは一見何人にも推知し得る所である。

假りに之を以て前節に掲げたる英獨の輸出入主要種目と對照せよ、英は邦貨に換算して五十七億圓以上の完成品を輸出し、獨逸も亦同じく四十億圓以上の製造品を海外に供給してゐるのである。然るに我が國に在つては他國の原料品たる生絲が輸出の大宗にして天産物の二億圓も亦概ね他國に取りての原料又は粗

製品として輸出さるゝものであり、其の上生糸といひ天産物といひ我が國獨得の生産であつて他の追隨を許さない品物のみである。斯く總輸出額の大半を占むる二種目、金額にして十億圓以上のものが原料又は半原料の形に依つて海外に持ち出され、完成品としての價格を有せざることは我が國民に對して如何なる事實を教訓するか。そは工業生産の未だ國際化せざる證據であり、製造工業の發達を促すべき餘地極めて多きを物語るものではないか。

更に試みに英國の例を藉りて彼れが重要輸出品目の概算額を瞥見すとせよ。

(單位千圓——百萬圓以下約數——一九二八年度)

綿絲及綿製品	一、四五三、〇〇〇
毛絲及毛製品	五六六、〇〇〇
其他織物及衣類	五八六、〇〇〇
鐵鋼製品	六六八、〇〇〇
機械類	五三七、〇〇〇
船車及飛行機	四七〇、〇〇〇
石炭	三九一、〇〇〇
食料品	三四四、〇〇〇
化學製品	二五四、〇〇〇

我が國の綿絲及絲布類輸出額は四億五千萬圓内外に上り生糸に次ぐの地位を占めてゐるが、それでも英國が十四億五千萬圓を輸出するに比較すれば尙彼れが三分の一にも達せない。而かも其の原料たる棉花輸

入高に於ては彼我兩國共に左程の大差なく、即ち英は一九二七年六十八萬佛噸を印度、米國及埃及等より輸入しつゝあるに對し、我れは同年度に五十七萬佛噸を各國より購つてゐるのである。然るに其の輸出金額に於て斯くの如く格段の開きを生ずるは我が内地消費高の多きに由ること一理なれども、一面には彼れが高級品の生産を主とするに對し、我れは此の點に一步を輪せるが爲である。但し戦後英國紡績業の沈滞せるに反し、我が國のそれが著しき躍進を示し、着々前者の領域に踏込みつゝあるは聊を意を強くするに足る(最近印度が綿布關程引上を斷行し、殊に英印間に特惠協約を設けたるは、事實上我が紡績事業の進出に對する防衛戦とも解せられる)。

元來日英兩國は歐亞其の地を異にすとはいへ、彼我の環境頗る相似し、國情その他共通なる點が極めて多い。而して其の英國が綿製品を以て輸出貿易の首目とし、次では鐵、機械、船車乃至化學製品等を以て輸出産業の重要品目と爲しつゝあることは、我が國より觀て好箇の參考たらねばならない——同國の特種製品たる或種の織物又衣服類並に石炭等の如きは暫らく別問題とするも——就中毛織物及機械類の如きに至つては技術能力の許す限り何れの國と雖も生産可能なるものであり、船車及飛行機も亦同様である。英國は多年造船業を以て世界に雄飛し、綿布、製鐵又造船の三大事業を貿易の綱網大關格としたのであるが、近年之に加ふるに自動車及飛行機等を以てし、造船業の頽勢を補ひつつある。然らば我が日本は如何といふに、邦人本來の實力に於ては製鐵にせよ造船にせよ、既述の如く國際的技術戦に優位を贏ち得るまでに進展しつゝあり、勞働賃金も彼れに比し遙かに低廉なるに拘はらず、未だ大に輸出能力を發揮す

るに至らざるは何故か。

約言するに我れは英國に酷似する地位に在りて其の技能に何等遜色なしと雖も、僅に綿布綿製品の一品目を除き他は悉く遠距離より英國の後塵を拜してゐるに過ぎない。否、單に後塵を拜してゐるだけでは無い。彼れが巨額の輸出品も我れに於ては尙輸入國の狀態を呈し、若しくは極めて微々たる對外的生産を示しつゝあるに止まる。これ即ち我れに産業國策なく、爲政者として執るべき緊要なる積極的施設が等閑に附せられつゝある結果といはざるを得ない。換言せば民間に於ては既に相當の業績を擧ぐるものありと雖も、國家の力を以て適當なる指導、保護及統制を行はず、折角國民の持合はしつゝある技能と勞力とを此の方面に集中せしめざる缺陷の致す所に外ならないのである。

勿論、精密にいへば各國の産業には皆それ／＼の歴史があり特色もあり、需給の關係、風土嗜好等の差異に依つて甲國の利とする所、必ずしも乙國に適すとは斷ぜられない。故に日英兩者の國情は酷似するにせよ、彼れが傳統を移して直ちに我が用を爲すとは限らず。我が國としては又他國に見る能はざる天産物もあれば、國民の特技と稱し得べき長所もあり得る。現に蠶絲、綿紡織、水産業等の如きは我が國民の特長又は優良産業として世界に定評があり、樟腦、綠茶、薄荷、除蟲菊等の如き天産物や、玩具、眞田、ブラシユ等の如き小工業も亦我が國の輸出品として相當の聲價を有つてゐる。唯だ遺憾なるは蠶絲及綿紡織等の數種目以外、我が國産又は特技として認めらるゝものが何れも其の價格高からず、世界的商品として其の輸出品の多大なるを期待し難きことである。故に國家の産業方針を如何に取り定むべきかに關して

は矢張り主要農産物及基本工業の増進を主眼とし、先づ輸入を防遏すると同時に輸出の伸展を圖らなければならぬ。是れ吾々が前章及前々章に於て此の方面の問題に多くの言を費したる所以であり、而して我が國の輸出増進策を考案するに方り、特に英國の例を引用し重要産業の國際化を要望せる所以でもある。以上は我が國の輸出狀態を鳥瞰すると共に、今後の方針につき一言したのであるが、更に此の機會に於て現在我が國が重要と爲しつゝある輸出産業に關し以下少しく所見を附加する。蓋し箇々の品目に互り一縷述することは本書の目的とする所にあらずれども、前に例題を擧げて農業及工業發展策を説きたると同様、茲にも二三の例題として簡単に要旨を述べ置くのみ。

(四) 蠶絲政策の確立

今日我が國の輸出産業を語るに方り、例題の第一に擧げらるべきは無論蠶絲業である。然るに世上往々斯業の前途に關し疑問の眼を注ぐものあり、例へば支那生絲との競争を憂懼し、又は人造絹絲の壓迫を云ふし、若くは桑園の枯衰、勞銀の騰貴、産繭増進率の停頓等を懸念するが如き屢々吾々の耳にする所である。仍て一應我が蠶絲業の概況を通觀し今後の對策に關する私見を加へることとする。

そも蠶絲業は初めより日本限りの産業では無く、廣く見渡せば支那、印度、中央亞細亞より黒海を経て巴爾幹諸邦に及び、更に南歐伊、佛、西等に行はれたものであつて、前世紀の中葉後一八七五年頃は東南歐殊に佛伊兩國が養蠶の中心地と目せられ、世界總産額の約半數を産出してゐたのである。然るに其

の後蠶病の蔓延に禍ひされ、且つ産業革命の影響や勞銀の騰貴等に祟られて漸次に凋衰し、而して前者に取つて代つたものは即ち支那であつた。二十世紀の初頃には支那の蠶絲が嶄然世界の市場を壓して居つたのであるが、其の後日本の擡頭凌じく大正年間に入りて遂に日支地を易へ、間もなく日本の生絲は全世界總産額の過半数を突破して其の六割五分以上に達し、支那は漸く二割乃至二割五分内外を上下する状態となつた。斯くの如く歴史の示す所は既に支那が日本の敵にあらざる事實を證明して居るのであつて、我が國の蠶絲業が斯くも長足の發展を遂けたるは第一に國民の特技、第二蠶種の改良、製絲工業の進歩等科學的知識の應用、第三朝野の獎勵と努力、第四農家の生業特に副業として好適なること等々幾多の理由があり、随つて我が國民それ自ら懈怠せざる限り、假令支那生絲の復興的機運に際會すればとて遠き未來はいざ知らず、速に現在の優越的地位より轉落するが如きことありとは覺えず、又斷じて轉落してはならないのである。

それで現在我が國の養蠶業の概況を見れば、

我が國養蠶業の現勢

年次	養蠶戸數(千)	繭立枚數(枚)	繭産額(千)	繭價(千)	桑作面積(千)
昭和元年	二、〇六一	一七、九六一	八六、七三五	六六、四四三	五七三
同 二年	二、一〇三	一八、四三九	九〇、八六二	四九、六九二	五九五
同 三年	二、一六五	一八、八八九	九三、八五八	五五、六八四	六〇九

繭の價格は近年漸落歩調を呈すれど、其の産出量は比年増加し、斯業に従事する農家は全國農村戸數の三分の一を超えてゐるのである。

次に製絲業の概況は左表の如くである。

我が國製絲業の現勢

	(單位)	大正十四年	昭和元年	昭和二年
製絲場數	(一千)	一八五	三二	三三
従業員數	(千人)	五五五	四八五	四九六
絲絲釜數	(千箇)	五三三	四三七	四三六
生絲數量	(百萬貫)	八	九	二〇
同 價 格	(百萬圓)	六五八	八五八	七九九
屑物價格	(百萬圓)	三〇	二四	一九
價格合計	(百萬圓)	六八六	八八〇	八一八

此の他に眞絲數量六萬乃至九萬貫、價格二百萬圓乃至五百萬あり。

昭和元年及同二年分は自家産のものを含みます。

多年農家の副業と見られ、養蠶に製絲に、主として婦女子の勞力に依り其の指頭から繰り出さるゝ此の一種目を以て年産八億圓乃至十億圓近くの生産を爲しつゝあることは、確に世界の驚異であり、容易に他國の追隨を許さる我が獨壇場でもある。而してそれが如何なる形に於て外國に輸出さるゝやと見るに、

生絲及絹物類輸出額 (單位千圓—百萬圓以下約數)

年次	生絲類	絹物類	合計
大正十四年	九三,〇〇〇	一七,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
昭和元年	七五,〇〇〇	一三,〇〇〇	八八〇,〇〇〇
同 二 年	七五,〇〇〇	一四,〇〇〇	八九〇,〇〇〇
同 三 年	七四,〇〇〇	一三,〇〇〇	八五〇,〇〇〇

生絲の輸出先は米國が全體の九割五分以上を買ひ入れ餘餘は佛國その他に分たる。

即ち生絲の輸出額は漸然我が對外貿易上の首座を占めてゐるが、絹物類は前者に比して尙甚だ少額の憾みを禁じ能はぬ。我が國に於ける絹織物の總生産額は昭和二年度に於て純絹物四億一千百萬圓、絹綿交織五千八百萬圓、合計約四億七千萬圓となつてゐるが、其の中の輸出額は上表に在る通り一億四千五百萬圓である。故に總産額に對する輸出割合は約三分の一に止まり、輸出生絲に對しては五分の一の金額にも足りない。餘餘は即ち内地消費である。

斯くの如く我が國の蠶絲業は世界獨得のものであり、其の價格は國際市場の行情及需給關係の如何に依り高低あるを免れずと雖も、數量に於ては蠶絲共に増産の趨勢著しくして何等悲觀を要とせぬ。唯だ半製品たる生絲が依然輸出の大宗を爲し、而かも其の完成品たる絹織物の輸出額が未だ前者の五分の一にも達せざるは、斯業に従事する人々に對して更に大なる努力と開拓とを期待さるべき事實たらねばならぬ。それは勿論各國の關稅政策其の他の事情に妨げられつゝあるが爲めなれども、半面には我が絹織物の

國際化、就中製織、染色、販賣組織、嗜好、研究等に關し、尙十二分に海外の需要に適合せしむるに至らざるの憾みを感じずには居られない。これ斯業の發展と輸出増進の爲に特に最善の計慮を必要とする所である。

養蠶、製絲及貿易の概況は既に述べた通りであるが、然らば我が國の蠶絲業は唯漫然として樂觀せば可なりといふに、實は決して左様では無い。否、吾々ま今にして速に蠶絲政策を確立するにあらずんば、折角築き上げたる堅固なる地盤も他日或は動搖するに至らんことを虞るゝ點に於て、世の悲觀論者とは異なる別箇の事由を見出すのである。例へば前記支那生絲との競争に對しては殆んど完全に日本の優勝に歸したるにもせよ、もとゞ國土廣大なる支那の事であり、地價も安く殊に其の中南部は養蠶の好適地なるのみならず、人口多く勞銀亦低廉なるが故に自然我が國よりも安價なる蠶絲を供給し得る可能性を有つてゐる。随つて我が國それ自らが妥當なる對策を準備せず、單に眼前の安逸を保つを能事とするに於ては實際的需供關係よりする鋭敏なる刺戟作用に促進され、既に占め得たる日本の地位も將來絕對に逆轉せずとは限らない。歴史的には我れ勝てりと雖も、漫然捷利の甘酒に陶酔して居つては逆襲又逆襲、漸次受太刀とならねばならぬ恐れなしとは何人が保證し得やう。此の故に日本としては今に於て豫め激烈なる競争戦の迫出に善處すべき對策を講じ、能ふ限り未然に之を防止すると同時に益々海外に於ける需要の増加を喚起することに努力せなければならぬ。

しかも其の對策は唯だ一ありて二あるを知らず、即ち飽く迄も科學的研究を進めると共に極度の經濟的

節約法を採用し、以て品質の優良と多量生産主義を實現することである。再言せば多量生産に依つて生産原價を低下し、品質の優良と相待つて低廉なる支那生絲を凌駕する。價格だけ低廉ならば吾に支那生絲の脅威を受くる危険なきのみならず、海外の需要は益々増進するに相違なく、品質の優良なる限り何ものも我が牙城を侵すことは出来ない。單に日本の利害のみを標準とする時は輸出貿易の首座を占むる生絲の如きは其の價格の高きが上にも高かるべきを欲すと雖も、他に競争者の出現を豫想せらるゝ場合に在つては獨り相撲を取り能はぬ。又假りに價格を低廉ならしむるとしても、多量生産主義に依る原價の切り下げは毫も生産者を苦しめず、それが心然需要を刺戟し増加するが故に益々生産者の利潤を多からしむべきは經濟の通則として何等疑ひを容れないのである。

此の理は所謂人造絹糸の壓迫に對しても同様である。世界的普及性を有する人造絹糸の將來は後に述ぶるが如く大に注目すべき事業であるが、之を蠶絲と比較すれば兩者各々品質を異にし、随つて需要の範圍にも自ら別がある。たとへ外觀的に酷似するにもせよ、種々微妙細微の點に於て到底人造品を以て天然絲の價値を減却し能はざるは、如何に人造樟腦や、養殖眞珠を以てしても本來の實物を無價値ならしめ能はざると同じであり、寧ろ實際的には却つて天然絲の特長をヨリ尊重せしむることゝもならう。現に米國は世界各國中人造絹糸の最大生産國であるが、而かもこれが爲に我が生絲の需要は少しも減退せず、即ち大正十四年に於ける生絲の對米輸出量は約五十萬俵であつたが、昭和三年には六十一萬餘俵に増加してゐる。米國の統計調査に據れば、過去十年間に於て、毛物の需要には殆んど増進なきも、綿絲は二割を増加

し、而して此の間生絲は二倍、人造絹糸は十五倍の需要増を示してゐる。此の事實は毛及絹絲が單に實用向需要限度に止まれるに對し、一般の嗜好は絹物又は絹物類似品に向ひつゝあることを物語るものと解せられる。故に天然絹絲の將來は其の價格に可及的低廉なるに於ては、何等悲觀の要なきのみならず、益々需要増加の趨勢に在りと認め能ふと同時に、其の價格が高ければ高い程、消費量の増大を望み難くして生絲に對する愛好者も已むなく人造絹糸を代用することになる。即ち問題は主として唯だ價格の點に在るのみである。

斯く推究し來れば我が蠶絲業に對する一部の懷疑論は餘りに神經過敏に過ぐといはねばならぬ。さりとて現勢のまゝに放慮して差支なしとの見解も亦無條件的には成立しない。特殊の事情に依りて世界的好景氣時代が到來し永續するか、又生絲に對する新たなる需要方面が発見されるか、或は少くとも米國の財界が特に躍進的繁榮を告ぐるか、ともあれ何等か特別の理由なき限り、絲價の低廉なることを要求せらるべき環境に立つものとして今後の對策を講ずるにあらずんば、我が國に取りて萬全の計とはいはれない。それには何としても多量生産主義が第一要義であり、多量生産主義にして而も品質の優良なるを期するには科學的及經濟方法に基き邦人の特技を利用して其の目的を達成する以外に別的手段はあり得ない。此の意時に於て現消極内閣が極めて少額なる養蠶の科學的助成費をすら削除せるが如きは蓋し拙策である——尙勢銀の昂騰、桑園の枯衰、産繭増率量の停頓等を理由として早くも斯業の前途に失望の嘆聲を發するものありと雖も、それは餘りに現状に拘泥せる片面觀たるを免れない。勞銀は元來物價の高低に伴ひて上下す

るのみならず、労働能率に増進せば敢て深く憂ふるを要せず、殊に我が國の蠶業は半ば農家の副業たる性質を有するが故に實際上には融通性もある。又桑園、蠶繭、製絲等の問題に關しては、これこそ更に科學的研究に依り改良進歩を圖るべきものであり、我が國が支那其他に對し大なる強味の一つは此の點に存在する——

それで問題の焦點は如何にして多量生産、品質優良、以て斯様の將來を隆盛ならしむべきかに歸着すると共に、それは當然に蠶絲政策確立を要求せずば已まないものである。試みに我が國が斯業に對して最も緊要とする施設を例示すれば、

- (1) 桑園の改良
- (2) 蠶兒飼育法の改良
- (3) 蠶種の改良と配給法の改善
- (4) 製絲及加工業の改良
- (5) 繭取引、製絲及貿易關係の統制並に組合組織の改善
- (6) 共同倉庫の設立
- (7) 養蠶、製絲及輸出に對する金融の改善、特に其の金利引下
- (8) 其他各種の指導、獎勵及保護

茲には是等各事項に關し細かに所見を説くの邊なけれど、要するに其の總てに通じて科學的實驗と經濟

的經營とに基き第一に良質多産、第二に加工完成、第三に輸出増進の實績を擧ぐるに在る。吾々の信する所に依れば、如上の諸施設を合理的に行ふに於ては少くとも現在蠶絲の生産額を二倍以上三倍にするに敢て不可能とせず。随つて其の價格を相當の程度に低廉ならしむるとも、以て農家及製絲業者の利益を減少せざるのみか、今日よりも確に多くの收得を齎すに相違ないと思ふ。何となれば生産増加、價格低廉の結果として必然的に需要の増大を來たし輸出の累進を期待し得るからである。

併しながら以上の施設は區々片々たる一時凌ぎの小策や姑息不徹底なる申譯的のものであつてはならない。首尾一貫し經緯相聯絡せる確乎たる方策として運用されなければならない。語を新たにせば即ち徹底的及積極的なる蠶絲政策を樹立し、内閣の更迭又は政黨政派の關係等に累せらるゝことなく國家及國民經濟上の大方針として實現し遂行するにあらざれば、以て其の完きを期し難いのである。幸に這般の政策に確立されたとせば、支那絲との競争も人造絹絲の壓迫も左までの問題では無く、最近絲價の暴落や繭安の爲に悩みつゝある農家の困難も、將來は根本的に救はれ得ると共に、十億圓内外の輸出額をして十數億乃至二十億圓に増加せしむること單なる机上論では無いと信する。

(五) 綿紡織と人造絹絲に就て

我が輸出貿易の第二位を占むるものは綿絲及綿布類である。凡そ我が國に於て何等政府の保護に依らずして而かも世界列國に對し毫も遜色なき實績を擧げたるものは何ぞやと問はゞ、何人も指を棉花工業に屈

すべきを疑はない。他の殆んどあらゆる事業が直接政府の庇蔭の下に立ち、然らざるも關稅其の他の方法に依り擁護せられつゝある中に、我が紡績業が獨立獨歩、毅然として國際市場に躍進しつゝあるは確に人意を強くするに足る。

それは綿絲が國民の必需品であることに主なる強味があり、紡績の業が我が國土に適し我が國民の特技たる長所を有することも大なる原因の一つに相違ない。而かも其の原料を外國より購入して國內の需要を満たし、そして外國へも輸出するのである。此の點からいへば純國産にして且つ世界總産額の六割五分をも占むる生絲業者が、頻々政府の保護を求めて已まざるが如きは寧ろ憂ふべき現象といはざるを得ない。そは即ち製絲家の經營或は組織に何等かの缺陷があり、若くは健全なる企業たらしむる上に何等か不合理なる事由の伏在せるが爲か。ともあれ、綿紡の自由なる發展と比較すれば一見生絲業者の甚だ不甲斐なきを聯想せずには居られない。故に益々蠶絲政策を確立すると共に事業統制の緊要なるを痛感せしめるのであるが、綿紡に至つては之に異り、時に消長は免れざれども常に自力自營、而して常に進取的であり、積極的であり、奮つて海外貿易の尖端に突進し、調歩しつゝあるを壯とすべきである。

故に事の綿絲紡績業に關する範圍に於ては、最早や吾々が啜々の辯を要しないのである。其の基礎に於て、資本及經營的財能に於て、技術に於て、他の如何なる事業よりも堅實性を持つて居る。故に國家として經濟政策上の任務は、將來に於て更に一層の發展を期すると共に、海外に在つて國際經濟戰に打勝つべき努力に助成すること以外、他は總て當業者に一任して可なりである。

但し現時の綿絲紡績業が既に理想的にして完全無缺の状態に在りやといへば、未だ容易に然りと答ふることは出来ない。例へば英國の斯業者は年々約七億圓の棉花を輸入して之を綿絲布に完製し、原料代に倍加する十四億圓餘を海外に輸出する。即ち棉花輸入額を差引きて毎年七億圓以上の利益を國民經濟に提供しつゝあるのであつて、此の一點は我れに於て尙甚だ彼れに及ばざるを遺憾とする。參考の爲め大藏省貿易統計に據り、我が綿紡事業の概況を掲げて置く。

綿紡事業概況 (單位一千圓—百萬圓以下約數)

年次	綿花輸入額		綿製品輸出額		
	綿絲	棉織物	メリヤス類	其他共合計	
大正元年	101,000	33,000	26,000	9,000	93,000
昭和元年	76,000	31,000	26,000	22,000	50,000
同 二年	62,000	30,000	24,000	33,000	46,000
同 三年	50,000	26,000	22,000	33,000	41,000

今より十九年前の大正元年當時に比し斯業の變遷が如何に在るか右表に依つて大略察知し得やうが、此の間棉花輸入額が二億圓より五億五千萬圓即ち二倍七分強を増せるに對し、綿製品輸出が同期間約四倍七分を示せるは大いに喜ぶべきである。併しながら其の原料輸入額と製品の出額とを比較して、尙一年一億二千萬乃至二億圓の入超を示すは、前記英國が七億圓内外の出超となりつゝあるに對し、等しく世界的紡績工業國の地位を占めつゝ尙餘りに多くの開きがあり、甚だ物足らぬ感じを禁じ能はぬのである。

この事實は言ふ迄もなく英國の紡績設備は殆んど我が國の夫れに十倍し、更に多年の精練を重ねた爲めと、一面には我が國內の需要多量の爲め、彼我同律に論じ能はざるに由る。併しこゝに特に留意すべきは彼國の設備は數に於てこそ十倍すれ、既に其の大半は老朽的であり、其の上労働組合の運動に煩されて其の生産費が漸次に高まりし結果、諸外國の競争に押されて今や最も困難なる事態に陥つてゐることである。現に同國全體の紡績會社過去三ヶ年間の平均配當率に僅かに百分の一内外と言はれて居る程の状況にある。之に反し我が國は其の設備こそ六七百萬鎊に過ぎないが、何れも最新の工場であつて其の能率は前者よりも遙に優良なるが上に、更に豊富低廉なる労働者を有する事に依り、此の數年間猛然として世界の各市場に突進し、印度、支那は勿論バルカン半島、南亞方面迄もその販路を開拓し、英米等の先進國を假令一部たりとも凌駕し得たるは明かに我が國の紡績工業が世界の經濟戰に打勝ちつゝある證據と認められる。此の意味に於て吾々は是非共今一步を進めて、假令直ちに英國の官例の如くならずとするも、せめて近き將來に於て原棉と同額なる製品を輸出し得る迄に其の發展を希望して已まないのであり、又それは決して望みなき空想にあらずと思ふ。

さはあれ、英國の紡績業者が既に我れに對して多大の脅威を感じ、百方防衛策に苦慮しつゝあると同時に、我が國の前面にも漸次支那の同業者の接踵し來りつゝあるを知らねばならぬ。又各國の關稅政策其の他種々の對抗的氣勢を示すあり、殊にランカシア多年の潛勢力と其の精練熟達せる經驗中には吾々に於て未だ及ばざる點少からず、更に彼れに學びて大に發奮せなければならぬのである。そして粗製品より上級品へ、生地より染色ものへと益々進歩向上すると共に、ヨリ一層販路の開拓に努力し、當面の難局に屈することなく勇往激勵すべく、政府としても又金融、爲替若くは動力及戻稅等について適當なる方策を講じ、以て輸出の増進に助成して然るべきである。

次ぎに上に蠶絲及綿紡績業の一斑を述べたる序を以て茲に少しく人造絹絲の事を加へて置く、其の生産及輸出額に於ては未だ前兩者に比し大なる懸隔ありとはいへ、其の事業相似せる點より見て、又我が國に好適なる輸出品として頗る有望視せらるゝ點より考察し、人造絹絲の將來は特に注目の價値ありと思ふ——所謂人造絹絲の稱呼は今日甚だ妥當を缺くの感ありて、世界的にはレーヨンと呼ぶを可とするも暫らく通俗に隨ふのみ——
曾てエヂソン翁は半世紀後の世界を想像してレーヨンの需要が天然絹絲に取つて代るべしと豫言したが、それは固より一場の戲言にあらずば、此の新事業に對する最大級の形容詞であらう。だが、人造絹絲の發展は世界の發明王をして斯く迄に豫言せしむる程に驚異的であり、纖維工業に對する革命的記録を示しつゝある。
そして最近の業績を見れば、

人造絹絲生産高 (單位百萬封度)

米	一九二七年	一九二八年	一九二九年
國	五	六	三三

英 國	三	三	三
伊 國	三	三	三
獨 逸	三	三	三
佛 國	三	三	三
和 本	三	三	三
日 本	三	三	三
白 蘭 地	三	三	三
瑞 典	三	三	三
其他各國共、合計	三	三	三

米國の一雜誌に據る。但し日本の生産實数は本表よりも多きこと次表に掲ぐるが如し。

米國の人絹生産高は上表の如く世界の第一位を占めてゐるが、其の消費高も亦我が國より輸出する生絲を凌駕し、之に次ぐは英伊獨佛であり、日本も此の數年來生産及消費共毎年五割以上を増加しつゝあるのみならず、昨昭和四年に至つて貿易の形勢一變し、從來の輸入國より輸出國に好轉するに至つた。

我が國の人絹事業概況 (單位千封度)

昭和二年	生産	輸入	輸出	消費
同 三年	10,000	九	七	10,631
同 四年	16,000	三六	六	16,188
同 五年	22,000	三四	三三	22,333

かくして昨年度に於ける人絹織物の輸出は約四千八百萬ヤード、外に斤量單位のもの約十五萬斤を加へて其の價格二千八百萬圓餘に上つてゐる。勿論一面には尙輸入品の跡を絶たざる事實を見通し能はずとも、年々激増しつゝある國內の需要を満たし、其の上に輸出超過を示すに至れるは主として國家の保護政策に基くにもせよ、之を多とすべきであり、今後に於ては更に大いに支那其の他の方面に販路を擴張し得べき可能性あるを十二分に認められる。

改めて説く迄もなく人絹は純然たる化學工業品たるが故に蠶絲、棉花及麻等に比し、氣候風土又は蟲害等に依り直接生産に影響を及ぼすこと少く、随つて價格の高低にも彈力多く、且つ世界何れの地に於ても企業し得る便利があり、これこそ専ら科學と技術とに依る國際戦理の産業である。此の意味よりいへば生絲及綿紡織事業に特殊の長所を有する日本としては、將來前兩者と共に最も有望なる産業たるや疑ひなく、而かもそれは互ひに併行して各國の需要を喚起し能ふものである。これ吾々が茲に此の事業に關し一言を添へたる所以に外ならない。

精しく言ふならば固より此の事業にも根本的には其の原料たるバルブの問題があり、一時的には市價の變動も昨年來尋常では無い。しかし蠶、棉、麻の何れもが二割乃至三割の操短を行ひつゝある受難期に際し、たとへ若干の操短と義務輸出を要制するにもせよ、各社概ね相當の利益を擧げ堅實の發展性を認められつゝある人絹事業の將來は頗る心強きものがあると思ふ。故に今後の要件としては、製紙用バルブと共に速に此の方面の原料供給の途を講じ、科學的研究を遂げると同時に、益々其の技術を精良

にし、進んで海外販路の開拓を圖らねばならない。それには政府としても相當の施設を講じ指導獎勵の任を盡して然るべきである。

(六) 造船と化學工業に就て

既記英國の實例に隨へば、彼れが輸出品の主目は綿製品其の他の衣料に次ぎて鐵、機械、造船乃至化學製品等にある。日本には日本特殊の事情あるが故に必ずしも彼れが先蹤を逐ふを要せずと雖も、所謂東洋の英國として目せらるゝ我が國が大體に於て同様の方針に依ることの有利なるは重ねて語を勞する迄も無と思ふ。而して吾々は是等の各産業中、

製鐵 (第十章参照)

機械 (同上)

の事は既に前に之を略説したるを以て、茲には少しく造船事業及化學工業について記述する。

世人の知る通り我が國の造船事業は明治以來最も顯著なる發達を示せるもの、一つである。當初殆んど總ての軍艦と汽船とを外國に注文したる日本が、今は世界最優秀の軍艦も商船も自らの手に製造し得るまでに進歩するに至れるは、海國たる日本として固より必然の結果であらねばならない。現今世界各國の商船所有数は昭和三年ロイドの調査に依れば、

英國 一九八七萬噸 の順序であつて日本は世界第三位に在る——歐洲大戰前には獨逸が世

米國	一四六三萬噸
日本	四一四
獨逸	三七七
伊國	三四三
佛國	三三四

男の第三位を占め、日本は漸く第七位に置かれてゐるが——而して歐洲戰爭時代には海運事業の熱狂的好景氣に際會し、我が國の船舶總收入實に四億五千萬圓(大正七年度)にも上つたのである。それが海軍の充實と共に我が國の造船業を刺戟して長足の發展を遂ぐべく力づけた

ことは言ふ迄もないのであつて、戦後の反動期に入り此の方面の打撃は痛刻を極めたといへ、現在我が國に於ける造船業は一千噸以上の建造能力を有するもの十九、船臺七十七、船渠四十六、其の公稱資本二億三千万圓、拂込一億六千五百萬圓、外に社債七千六百萬圓、借入金五千五百萬圓と稱せられる。そして其の投資に依る造船能力は一ヶ年少くとも五十萬噸を下らないのである。然るに斯くまで發達せる我が造船業の近情如何と問へば近年甚だ振はず、之を世界的に見るにロイドの調査では、

各國造船概況 (單位千噸)

英國	一九二六年 六四〇	一九二七年 一、三三六	一九二八年 一、四四六
米國	一、五二	一、七九	九一
日本	三三	四三	一〇五
獨逸	一八一	二九〇	三七六
佛國	三三	四四	八一

伊	三〇〇	二〇一	五九
和	九四	三〇	一六七
蘭	七三	七三	三九
丁	三	七	一〇七
瑞	四	七	

英國は依然トツブを切つてゐるが、之に次ぐは復興途上に在る獨逸であり、日本は無残にも上記九ヶ國中の最低位に落ちつゝある——昨年は新造船十六萬噸、本年は十二萬噸臺になつたが明年は軍縮問題と關聯して更に低下の趨勢に在る——斯くして總能力五十萬噸の建造設備を持ちながら、僅に十萬噸内外しか活用されず、甚だしき時は四五萬噸臺の造船にも甘んぜざるべからざるが如き苦境に立つに至つては、國家及國民經濟上漫然看過し難き逆勢ではないか（而かも他方に在つては一昨年如き二十五隻一千百萬圓以上の汽船を外國から購入してゐるのである）。

それは勿論、世界的不況時代の現象に相違なく、隨つて此の種の受難は單に日本限りの問題では無い。現に英國の如き其の建造能力の巨大なるに比して利用率は極度に低下し到る所に悲鳴を上げてゐるが、然し事業本來の性質よりいふならば、少くとも我が日本に關する限り、造船業の將來は有望且つ多幸であらねばならぬ筈である。否、朝野の協力に依り之を有望且つ多幸ならしめむべく導かねばならないのである。

蓋し我が國の船舶は其の隻數及噸數に於てこそ世界の第三位に在れ、中には多くの老朽船を含むが故に實質的には第四位の獨逸に劣り、隨つて海運收入も彼れに比すれば少額である。現今優秀船の競争時代に於りて通商交易の利を得んが爲には、勢ひ老朽船の淘汰を餘儀なからしむこと必然なるを以て、自然造船業の前途を多望にする可能性あるのみならず、炭用船が漸次デイゼル船に變更さるゝは經濟上必然の理にして已に世界共通の現象である。然るに我が國には尙デイゼル船の所有甚だ少くして今後此の方面の需要及改造も當然に活氣を呈するであらうことを推定せしむる理由がある。加之、其處に適當たる施設をだに講ずるならば、世界一半の需要をして我が國に差向けしむることも決して至難では無い。英國の造船業が世界的である以上、例へば我が紡績が英國と角逐しつゝある如く、日本の同業者が彼れと同様の立場に進み、同様の利益を博し能はぬといふ制限は絶対に存在せず。況んやその技術及能力に於て我れ既に彼れに遜らず、別して勞銀は我れ尙遙かに彼れに比し低廉なるに於てをやである。

だが問題は是れも亦價格の點と、而して販路の開拓如何に在る。主として我が海軍方面の注文に期待を懸け、依つて以て斯業の繁榮を望むが如き時代は既に過去に入らんとしてゐる。それよりは國際的經濟戰の利器として大に飛躍するだけの自信と計畫を必要とするのである。之が爲には第一に其の主要材料たる鋼鐵の製造を盛んにし、その生産價格を外國よりも低廉ならしむるを絶対條件とする。之に次では經營の改良を求め、例へば資本の二重乃至數重投下を防止すべく企業の間又は統制を行ふが如き、規格を定めて所要材料及業務の部分的作業或は製造を行ふが如き、當業者それ自身に於て率先改善の實を擧ぐると同時に、政府としても動力、金融其の他の政策に於て宜しく之を開導するの方策を執るべきである（最近

消極内閣が造船業資金貸付利子補給法の名の下に僅々八萬圓程度の豫算を計上して足ると爲せるが如きは餘りにも姑息の小計といはざるべからずして、眞實には果して國策の重要義を理解せるや否やをすら疑はしめる。

次に化學工業について一言せんか。斯業の淵藪は獨逸を筆頭とすべきであるが、歐洲戰爭中製品の輸入杜絶するや、その刺戟に依り我が國に於ても相當の進展を促したに拘はらず、戦後忽ち獨逸品に壓せられ現時多くは關稅の保護の下に漸く殘喘を保つが如き感なしとせない。所謂化學工業の範圍は頗る廣汎にして既述の人造肥料及人造絹絲の如き其の一種目に屬し、國內の生産大に見るべきものありと雖も、工業藥品、染料、醫藥品、化粧品材料等の如き亦何れも化學工業の一科を爲すものたるを見忘れてはならぬ。而して我が國は其の工業原料たる曹達類のみにても昭和三年度一千三百萬圓、智利硝石六百萬圓以上を輸入し、染料も人造藍、塗料等を加へて三千萬圓以上の輸入がある。但し部分的に見れば工業藥品に屬する硫酸の如き年産一千八百萬圓内外に上り、國內の需要を満たして餘剩百萬圓内外を輸出し、硝酸、鹽酸、醋酸等も稍々自給の域に達しつゝある。但し其の生産原價は獨逸に比して尙遙かに高い。

我が國には人造肥料其の他化學工業の基本的要素とも云ふべき硫酸の原料たる硫化鐵礦を産出し、又硫黃も石炭も敢て事缺かない。獨逸佛の如きは硫黃が無く、硫化鐵礦も不足し之を他國の供給に仰いでゐるのである。即ち部分的には我が國の方が化學工業に於て有利の立場に置かれてゐるのであるが、唯我が國に取り苦痛とする所は曹達灰及苛性曹達の原料たる鹽の缺乏を告ぐることである。換言せば化學工業の二

大要素たる酸とアルカリの中、酸は我れに於て不足せざれど、アルカリを缺く。随つて鹽專賣法の利害如何が極めて切實なる問題となつて來るのである。我が國は多雨多濕の爲め海鹽の製造を妨げ、且つ岩鹽の産出なきを以て一部を臺灣より移入する外、更に不足を支那より輸入してゐるが、しかし一面より考ふれば政府の專賣の爲め却つて製鹽業の發達を阻止し、又海外よりの自由なる輸入を抑塞してゐる憾みもある。政府の方針は重きを食料用途に置いてゐるやうであり、事實に於て我が國現時の消費は鹽の大部分を漬物用、味噌用、醬油用、魚類用等に充當され、工業用は未だ全需要額の一割内外に過ぎざる状態に在れど、其の代りに別に一千三百萬圓もの曹達類を外國から輸入してゐるのである。此の點に於て鹽專賣法の存在が動もすれば化學工業の發展に不良なる影響を與へつゝあることは大に考慮せねばならぬ。須らく政策を一新するか、又は適法を設けて更に工業用鹽類の生産に關する關東州の鹽業政策を助成し、又は支那鹽の輸入を便ならしめんことを必要とする。

右は化學工業に關する一應の所見を陳べたに過ぎないが、獨逸は此の一工業の爲にすら戦後數年ならずして四億圓以上を輸出し、英國の如きも二億五千萬圓を對外的に收穫しつゝある。元來化學工業は原料其の他に基因する國際的障壁を科學的に打ち破りて人類の經濟生活を自由なる世界に解放するとまで言はれてゐる。我が國の爲政者は近視眼的事象に没頭せず、宜しく永遠の計を此の方面に運ばねばならない。そして現に存在する各種研究所の如きも統一的組織的に大擴張をなし、部門を定めて發明及改良の進展獎勵を督勵し、列國に比して遜色なき事を期せねばならぬ。

ない。然るに其の輸出高は罐詰類及特殊生産物を加へても尚ほ五千萬圓内外に過ぎないのである。

それは勿論一般國民が魚肉を常食と爲すに由るにもせよ、實際には尙ほ漁業組織、設備及利用經營法に不完全なる爲め、生産の増加未だ理想的なる能はざるの事實を見通すことは出来ない。我が國水産業者は現今約百五十萬人を超えて居り、漁船の總数は約三十五萬艘を算ふれど、其中動力を備ふるものは僅に二萬隻餘に過ぎない。即ち總数の十八分の一だけが漸く近代化したのである——それでも大正の初に比すれば動力船は十倍の増加であり、近來は年々三千隻乃至五千隻位づ、在來式の漁船を改良し動力設備を加へつゝある——水産業者百五十萬人に對する四億五千萬圓の收穫は設備其の他の資本收入を零としても、一人平均三百圓未満にしか當らない。以て其の生産の貧弱さを知るべく、同時に又其の漁獲方法の如何に原始的なるかを推知し得やう。

現に前記の水産物、殊に内地沿岸漁獲物の種目を見るに其の大部分は鮓と鱈であり、容積よりいへば此の兩者が全收穫高の半数以上を占めてゐるのである。随つて其の價格は他の魚類に比して低く、之を食用とする少量を除いて専ら農家の肥料に供せられる。斯かるは食料輸入國たる日本として餘りにも不經濟極まるのみならず、其の事業及設備並に需供關係等の如何に未開的なるかを物語るものといはねばならぬ。

故に我が水産業を發展せしめんが爲には根本的に大洋漁業、漁船漁具の改良、及び運輸及貯藏の設備を完全にすると共に、一面には國內の供給を豊富ならしめ、他方には漁獲物の國際商品化を圖るを急務とす

る。それには冷凍藏を始め醃藏、燻藏、酢藏等の方法を奨勵し適宜加工して製造食料たらしめねばならぬ。従來の如く節類其の他の乾製を主とする如きは寧ろ初步時代の觀を脱せない。故に政府としては先づ漁業組合の設立改善等を促すと同時に、必要なる條件に依り簡便に低利金融の方法を講じて可なりと信ずる。かくして漁船漁具等の改良に行はれたならば、其の漁獲高をして現時に倍加せしむることは寧ろ容易の業であり、そして完全なる設備と相待ちて新鮮なる魚肉を低價に供給するに於ては國民保健上至大の效あるに止まらず、其の輸出額を現時に二倍三倍ならしむることも亦敢て至難とはせない筈である。支那が漁業に極めて幼稚にして而かも需要の多大なる、又歐米の消化力が自然的に著しく増進しつゝある狀況は、近時地中海に於けるトロール船の發達、フィッシュミールの販賣額に徴して明瞭である。

之に對する要策としては先づ第一に水産教育の普及發達を圖ることが、特に刻下の日本に於て最も緊切なる急務である。現時の如く水産科が農學部の中に寄寓する觀あるは甚だ妥當を缺く。須らく國家政策上の見地に依り之を獨立せしめ、世人の因襲的觀念を覺醒するに努むべきである。又水産學校の設立及擴張を奨勵し、主として簡單なる實際的教育を漁民に普及し、又水産試験所の如き機關も盛んに活用する方法を講ずべきである。

若し夫れ水産と比較せらるゝ畜産類に至つては獨逸及米國の如き、單に製革のみにても一億圓以上を輸出しつゝありと雖も、我が國に於ては甚だ振はない。そは一に風土氣候、殊に牧場及牧草の生育、保管等に難あるが爲めなれども必ずしも絶望とは斷じられぬ。殊に我が領域内には朝鮮の一部の如き牧畜に適す

る地が他にも少くはないと認め得る。更に對内的に見て豚、兎等の如き舍屋畜類は農家の副業として近年各地に普及してゐるが將來益々之を盛んならしむべきである。就中鶏は輸入卵のみにても一時は年額千七百萬圓を超える程の状況を呈せし爲め近年頓に飼育数を増加し、且つ優良種及飼育法の改良に依り著しく産卵額も豊富となり、此の一兩年に於て殆んど輸入を撃退し進んで餘剰を輸出せんとする程に發展してゐる。併し毛皮族に屬する畜産は唯だ兎の食肉用を兼ねる外、未だ見るべきはなく、養狐、鯽の如き少く之を試みつゝあるも尙未知数の問題たるに過ぎぬ。是等は今後其の飼育法を研究し獎勵普及を圖らば、小面積の地域を以て相當の實績、少くとも今日以上の收穫を擧げ得べき可能性ありと思ふ。他國の如く牛馬綿羊等の飼育には比較的適當なりとするも、家畜及小動物を各農家の副産たらしむるに於ては、食肉用又は毛皮用等に益する所少しとせざるが故に、假令輸出を望み能はざるにもせよ、多少とも輸入を減じ併せて農家の收益を増進すべきである。我が國の鳥獸が近き年月の間に於て殆んど革命的に其の種類の變化せること、例へば牛馬にせよ、豚及鶏等にせよ、今や極めて稀にすら純日本種を見出し難くなれる事實は即ち經濟的要求の如何に切實なるかを物語ると同時に、國家及國民生活の將來を考ふるものに取り深慮を缺くべからざる點である。

(八) 有望産業の助成

以上は唯だ余輩の念頭に浮び出でたる數種の産業を例題として指摘したまでであつて、その道の専門家

達に於ては無論夙に熟知せらるゝ所である。のみならず、現在及將來に於ける國際的産業として最も有望なるものは前記以外にも多々あり、例へば

- 一、製紙、製糖及製粉
- 一、陶磁器
- 一、アルミニウム及マグネシウム
- 一、時計、計器類
- 一、玩具
- 一、硝子類
- 一、麻製品
- 一、各種國際的作品

等の如きは改めて説明を加ふるまでもなく、今後大に對外的發展を期待さるべきものであり、あらねばならない。

現今我が國の製紙事業は特殊品を除けば大體に於て自給自足の状態に在れど、其の原料計畫に立たば將來は益々支那及南洋等の方面に躍進すべきであり、製糖の如き今一段の農業的發展を計れば、更に大に可なりとする。又製粉事業の如きも、既に其の原料は他よりの輸入又は補充を要すと雖も、之を加工することに依つて現在すら既に相當の利益を擧げつゝあるは貿易統計の示す所であり、將來尙發展の餘地あ

るを豫想し得る。更に陶磁器類について見れば年々三千万圓以上の輸出を缺かず、これに磁器及硝子類を加ふれば其の輸出額は五千萬圓乃至六千萬圓に達する重要品目となりつゝある。販路は米國を第一とし、加奈陀にも印度其の他の南洋にも將た歐洲方面にも開かれて居るが、併し之を獨逸に比すれば尙遙かに及ばず、其の品質技巧よりいつても獨のドレスデン、佛のセーブル、丁のコッペンハーゲン等に較べて未だ至らざるの憾みを免れない。元來窯業は我が國固有の工藝美術として長き傳統を有する産業たるに拘はらず、一部好事者間に愛翫せらるゝに止まりて其の特技を充分に國際的に發揮すべき趣味の普及も、宣傳的努力も未だ足らざる爲め廣く傳はらず、却つて下級品が單なる經濟的商品として取扱はれつゝある。今後は其の設備を完全にして優良品の多量生産を圖り國際的に發展する方針の確立を要する。既にトンネル竈の如き實驗に依り燃料節約の方法も工夫され、又低價なる夜間電熱の利用、塗料の研究等一層改善の途を講ずるに於ては必ずや將來一大輸出品として迎へられるであらう。

更に曩に列記せし工作品中特に注目すべきは輕金屬の製作である。アルミニウム及マグネシウムの如き、其の原料は假令其の全部を外國に仰ぐとしても、それは販賣價値の十分の二三に過ぎずして其の主たる工費は一噸を作る爲め三四萬キロ時を要する電力代である。然るに其の電力は實に我が國に於て極めて豊富であり、殊に近來供給の過多を告げつゝある。我が國に輸入するアルミニウムは一萬二三千噸、金額にして一千萬圓内外に上る。先づ之を自給して輸入を防遏するは勿論なれど、同時に世界各國に輸出することも極めて有望と信じ得る理由を有す。世界のアルミニウム總消費額は百二十萬噸、價格一億圓と稱

せられ、最大の生産國は米國であるが、其の原料は専ら南米の輸入に依り而かも電力代は我れに比して高價なるが故に、我れに於て施設宜しきを得ば決して前者に對抗し能はざる筈がないのである。前年米國のシンジケートが富山縣黒部川流域に大量の水力使用權を出願して物議を醸したる事實に徴するも、我が電力が如何に本業に有利なるかを證明して餘りありと思ふ。又マグネシウムは將來アルミニウムと共に主要輕金屬として多大の需要あるは既に定論あり、而して兩種の世界に於ける現需要額は約百二十萬噸、十億圓と言はれてゐる。我が水力電氣量が充分であり、料金が低廉なれば、何れも將來頗る有望なる輸出品たり得べきを疑はない。

若し夫れ工作具及工作品に至つては其の種類甚だ多くして一々品目を擧ぐる邊なきも、製鐵其の他基本工業の發達と相待つて大いに海外の需要に應ずべく精進するの必要は多言を費すまでも無い。又各種の雜品に就いていふも、例へば玩具の如き、プラスチックの如き、或は製帽用眞田の如き、其の多きは一千萬圓を超え、少きも五百萬圓内外の輸出を示してゐるのである。之を要するに總ての生産物を國際化することが輪田増進の根本的要義であり、而して之を實現せんが爲には優良、低廉、豊富の三條件と、動力費の低下、基本工業の完成とを缺いてはならない。そは即ち國內生産に對する積極的方策のみが唯だ之を可能とする。

多くの人々の知るが如く獨逸の機械及化學工業等が世界に定評あると同様に、那威の機械、瑞典の化學工業も亦其の聲價は高いのである。瑞西の山中に製造せらるゝ時計や、チヨコレートが全世界に販路を有

し、チーズ、バター、肉類の罐詰等が、セメント、機械と共に歐洲の小國丁抹より各國に送り出され、伊太利製の帽子が歐米は勿論、日本の店頭に飾られつゝあるを自撃して之を無關心に看過するものは、未だ「世界の日本人」たる資格を具備せざる無自覺者といはねばならない。誰れか又原料の乏しきを憂ふるや。單なる特殊天産物のみに生命を託するか如き國民は、原始的民族若くは二三特殊の例外を別として世界何れの文明國にも殆んど見當らない。眞實に國際經濟戦裡の強者たらんが爲には優秀なる加工品を輸出するを第一要務とし、優秀なる加工品は國民の能力と技術を最大要素とする。能力あるも之を激勵せざれば無能力者と擇ばず、技術あるも利用宜しきを缺く時は實の持ち腐れとなる。幸ひに其の能力を發揮し、其の技術を働かすべく精進するに於ては、人口の多ければ多き程、勞力の供給豊かなれば豊かなる程、以て國富を増進し國民經濟を擴充せしむる源泉となるのである。

輸入防遏といひ、輸出振興といふも、詮する所は國民それ自らの能力と技術との總和であり、總決算たることを意味する。如何にして其の總和總決算を有利ならしむべきか。其處には當業者それ々の自覺と奮勵とに依り其の生産及販賣過程を通じての協力、合同、能率の増進、事業の分業化、經濟化、合理化等等を必要とすると同時に、國家としては速に産業國策を確立し、效果的なる指導、統制、保護、獎勵等等を缺如してはならない。そして金融、交通、運輸、税制其他各般の上に産業國家としての施設を整備し、大中小の各企業を聯ねて十二分に其の機能と特技とを活用せしむべく働きかけねばならないのである。これ吾々が積極主義的政策を高調する所以であり、單に金融資本主義に拘着して徒らに國際貸借の改

善を期待するが如きは、畢竟柱に膠して琴を彈するの類に過ぎない。所謂國產愛用の趣旨は固より不可なしと雖も、根本的には先づ國產を豊富にするが前提要件である。之を愛用することよりは、之を優秀にし、之を國際商品化することがヨリ緊切であらねばならぬ。若しも國內の産出に事缺かば所詮愛用の途なく、之を國際商品化せずんば、以て輸出を振興し國民經濟を富強ならしめ得ざるが故である。應に知るべし、消極主義と積極主義の政策的差異は退嬰と飛躍との對立に外ならざることを。但し現時の我が國民が其の何れを妥當とするかは、是れ又智見と能力問題に歸着する。

論者或は言はん、今日我が國各工業は萎靡銷沈し、工場も多くは操業短縮或は閉鎖しつゝある、何の利益ありて更に新たに工業に投資するものあらんと。然り、今日の不況に就いては其の原因もとより二三に止らずと雖も、就中其の主なるは、第一に是等工業の多くが専ら國內のみの需要に應ずる爲の計畫なしに對し、寧ろ突如として其の消費の激減に遭逢したること。第二は其の起業が多く歐洲大戦中の好景氣時代即ち物價騰貴の時機に於てなされし爲め、自然其の設備に要せし資金が今日に比し遙かに高價に上り、隨つて生産原價の不廉なるを免れざること。第三には好況時代の需要率が戦争終了後と雖も依然永續すべしとの企業上の誤算を有せしもの少からざること等を見通すことは出来ない。之を略言すれば國內の不況に由る消費の減退、外國の生産過剰よりする壓迫、加ふるに金解禁の爲に爲替の變動を來たし急激なる打撃を蒙れることを主なる原因とするのである。併しながら、若しも此の現實の狀況に恐れを懷きて最早我が國の工業は絶望なりとし一切の着手を見合せんか、そして依然として鐵も機械も自動車も其他の工作

品も従來の通り外國より購ふとせんか、我が國は未來永久、輸入國の地位を脱し能はずして、國際貸借の改善も、失業問題の解決も、遂に實現達成の時期あるを知り能はぬのである。吾々の主張する生産増加は現に過剰に苦しみつゝある事業を指すのではない。我が國に於て容易に工作可能なるものは外國品を排して是非我が國にて製作する、そして更に之を外國に輸出すべく努力することが我が國家經濟の上に絶對必要であることを高調するのであり、然らずんば徒らに手を拱きて他國の景氣回復を待望すとも、根本的には我が經濟的國難を打開し能はぬが故である。

第十二章 金融機關の改善

(一) 産業資金の充實と中央銀行

國家及國民經濟の建直しは積極的なる産業政策の開進に由る以外、何等效果的手段なきは既に章を重ねて論述した通りであるが、茲に其の國策を運行して所期の目的を達成せんとするに方り更に最も重要な要件を爲すものは低利なる産業資本の充實である。それは生産技能を圓滑且優強に發揮せしむる爲の油であり動力である。それは例へば人體に於ける血液の働きを爲すものであり、随つて其の心臓にも該當すべき中央銀行並に興業銀行、勸業銀行、農工銀行其他の特殊銀行が、特に敏活有效なる役割を分擔せなければならぬことは言を俟たない筈である。

顧みるに我が國に於ける産業及通商資金は多年高利にして而かも圓滑を缺くの憾みを深からしめて來た。英米の利率が四分乃至五分程度に在るに對して、我れは常に八分乃至一割を負擔するの狀態に在りしは何人も知る所であらう。尤も最近一二年は寧ろ變態的に利率低下しつゝあれど、それにも拘はらず、事業資金は兎角缺乏を訴へられ、實業界の嘆聲は殆んど總ての方面に共通なるかの如く聞き取れる。其處には有力なる中央銀行があり、政府の保護下に立てる特殊銀行が存在するにもせよ、産業資金の充實に滋害を

感じ、内外通商の取引を意の如くならしめ能はざる事實の屢々傳へらるゝは何故か。

歐洲大戰時代に於ける經濟界の好調は既に過去の夢物語であるが、其の後反動期に入れる矢先、更に不幸にも關東大震災の打撃を受け、國民一般に意外なる深傷を負つたのである。爾來七星霜、朝野を擧げて整理と彌縫とに没頭し、加ふるに昭和二年の金融界の變亂に會し、更に今春の金輸出解禁と共に事業界の半恐慌的時代に遭遇し、其の影響極めて痛激なものがある。之が爲め資金は一方に偏集し、銀行に遊資ありと雖も生産的企業は殆んど中絶し、中小商工業者も、農業者も、齊しく金融難に喘ぎつゝある。遊資餘りありて事業興らざるは、一時的變調期は別とし、一般的通則としては國民經濟の萎縮して振はざるが爲である。事業興らざるが故に完成品の輸入尙ほ防遏し難きのみならず、我が生産品の輸出も活況を呈せず。斯くして政府が保護獎勵を加へたる開墾事業や、其の他の事業の如きすら殆んど企業を休止するに至り、殊に最近に於て各種工場閉鎖、生産制限等相繼ぎ、延いて失業群の續出、購買力の減退等、恰も深淵に墮むが如き境地に追ひ込まれてゐるのである。

如上の現象を通觀し來り、更に遡つて根本的に所謂我が經濟國難の打開策に思慮を運ぶならば、産業國策を遂行するが爲の施設として、資金の充實、金融關係の改善に關し何人も切實なる考究の必要を痛感せずには居られまいと思ふ。

根本的及實體的意味よりする國民生活の安定と擴充とは、固より生産經濟を主とすべきであり、所謂金融經濟は前者を支持運行する爲の副機關であらねばならない。往時は資本經濟を以て最尊最貴としたる時

代もあつたが、近代に於ては世界各國悉く生産經濟を主とせざる無く、而して其の機運の開展する所名實共に圓滑なる信用經濟の發達を示しつつある。我が國の識者及賢明なる金融家の如き亦此の趨勢に順應して、國家の經濟に資益せんとする趣旨を離れざるべきは吾々の信じて疑はざる處であるが、中には生産經濟を輕視し、或は之を從屬物の如く誤認する結果、今日尙舊時代の金融資本主義の範圍に低迷しつゝある人士が絶無とはいへない。現に不自然なる消費節約を強調しつゝある消極内閣の如きは、寧ろ極端とも見らるゝ金融資本主義の奉持者たらずとせぬ。

苟くも經濟常識を失はざる限り、今更斯くの如き説明を加ふる必要もないのであるが、世間往々にして金融機關の本質的認識を見誤れるが如き論者もあり、甚だしきは中央銀行及特殊銀行の任務の如何に在るべきかをすら、何時の間にか忘却せるが如き議論に接することも稀では無い。民間普通の商事銀行は暫らく別問題として、先づ中央銀行の責務からいふならば、それは決して兌換券發行の特權を握りて利益を獲得するが爲の機關では無い。又國庫の出納、公債發行の代辨を爲すことだけが其の使命でも無ければ、金利の上下、國債の市場放出に依つて株主を利益することのみが本質的行務でもあつてはならぬ。まことは中央銀行こそ金融界の中樞であり總本家たるべき立場に在るのみならず、國民經濟の盛衰を左右し得る程の機能と與へられてゐるのである。随つて産業の消長も、通商の浮沈も、中央銀行の働き方如何に關係すること至大であり、殊に國家の保護を受けること厚く、其の權能の廣汎なる點に於て、我が國の中央銀行は恐らく廣き世界にも類例少き異彩と稱し得やう。

我が日本銀行條例も最初は太政官布告に濫觴し、兌換銀行券條例も明治十七年の布達に依つて定められたものである。爾來小部分の改正は行はれたが其の根本の組織に於て、株式より成る營利的建て前は何等變更なく繼續されて來たのである。そして各種の特權に基き其の基礎の牽固不拔となり、盤石の堅實性を有するは一般國民と共に大に多とすべきであるが、聞く所に依れば、其の利益は年々累積して實に莫大なる金額に上つてゐるとのことである。勿論こゝには日本銀行それ自らの自衛的施設に就いて敢て議せんとするのでは無く、又其の巨額なる利益の如きも日本銀行本來の性質に鑑み、國家有用の場合には他に率先して國利民福の爲に活用的に提供せらるゝであらうことを一般に期待せられてゐるやうでもあるが、兎もあれ、日本銀行が銀行中の銀行であると共に、公益機關中の公益機關たる性質を有するものたるべきことは兒童走卒と雖も之を疑はない。随つて其の公益任務を完うする爲に必要なる改正は、當然に遂行せらるべき筈である。

然らば如何なる改正を現在の日本銀行に必要づけられてゐるか。それに就いては識者間に於て既に定論がある。其の主要を擧ぐれば、

- (1) 兌換券發行に對する現制保證準備額を適當に増加すること
- (2) 若しくは現制度を改めて米國の例に倣ひ保證準備を主とし、正貨準備を従とする比例準備制度を採用すること
- (3) 保證準備の據保に商業手形を充用すること(寧ろこの商業手形を以て保證準備の原則とするまで)

改正せば、更に可なりと信ずる)

- (4) 株式に對する配當制限及一定額の積立金を超過せる利益金の處分法定
 - (5) 少くとも理事の半数を民選にすること
- 上記各項中、其の(1)、(2)、(3)が最も重要な問題である。

そも、我が中央銀行の現保證準備制は二十餘年前に定められたものであるが、其の後に於ける經濟狀態が著大なる進化發達を遂けたることは、何人の眼にも炳焉たる事實である。然るに尙ほ之を舊時のまゝに踏襲墨守して寧ろ必要以上に正貨準備を重視し、且つ保證準備の制限の過少なるは、必ずしも我が財界の進運に適應すとは言ひ難い。米國は人の知る通り歐洲戰爭に依り、世界一の正貨所有國となり、全世界の正貨の四割五分を有すと稱せられてゐるが、それでも聯邦準備銀行の法定制限率は四割となつて居り、而かも更に低率さるべき傾向を呈してゐる。英國の如きも矢張り其の金準備高は同じく四割であり、我が國の如く通貨に對する正貨準備を高率に制限づけてゐる國家は他に例が少くない。

それ故に、我が國の現制準備額を増加して英國と同様、假りに之を四制にまで擴張するとしたならば、例へば十億の正貨準備を有する場合には即ち二十五億圓までの兌換券發行を可能ならしめる。之を五割としても二十億圓となり、從來の制限外發行を消滅せしむるに止らず、現制に比し少くとも四五億圓内外の流動資金を増加し活用し得せしむるであらう。斯くして發行税なき資金が豊富となればそれだけ金利は低下し、以て産業政策の遂行を促進し得るのであつて、此の運用こそ他の營利銀行と異なる金融機關の中樞

として常に我が國の經濟界に對し、資金充實、金利調節の任務を圓滑に達成し得るのである。本來が國家より多大の特權を受けつゝある中央銀行であり、時には銀行それ自らの利益も其の犠牲にする覺悟を以て、國民經濟の恢弘に努力する奉仕的精神を有する事を切望して止まぬのである。それには時勢に適應する各般の改善を要とすべく、若し全然舊様に拘泥するが如くんば世上却つて其の機能を疑はれ、或は遂に設立の意義に感ひを懐かしむるが如き虞れなきを保せない。これ蓋し當局者に取りても心外の沙汰に相違なしと信するが故に、敢て忌憚なく所見の一端を記述したる所以である。

(二) 興業、勸業其他の特殊銀行に就て

中央銀行の使命については既に略述したが、今日我が國に於ける産業金融機關として直接特殊の任務を帯ぶるものに興業銀行、勸業銀行、農工銀行、朝鮮及臺灣銀行等がある。其の本質よりいへば、産業國策の遂行に必要な金融運用機關は主として是等の特殊銀行が其の衝に當りて最善を盡さねばならぬ關係に置かれてゐる。別言せば是等の銀行は民間の商事銀行と異り、専ら公共的方針に基き最も直接的に國家が特に保護獎勵を必要とする産業上の有用機關として切實に働きかへべき重要性を與へられてゐるのである。

然るに現在是等の特殊銀行が完全に其の任務を満たし得べき各種の條件を果して具備しつゝありや否やは、少くとも其の規模より見て甚だ疑問であり、殊に上來吾々の提唱する産業國策を實現せんとするに於

ては、更に其の機能を擴充し、資本及産業債券の發行力増加等に依り、豊富且低利なる資金の供給に當らしむるの必要あるを思はしむる。

それに就けても吾々は今日政府が所有する資金、若くは政府の方針如何に依つて之を産業資金化し得べき財源が必ずしも絶無又は稀少ならざるを確信するものである。前段には中央銀行制度の改正に實行せば、更に四五億圓の資金を融通し能ふことを述べたが、それは暫らく別としても、我が大藏省預金部には二十八億圓以上(昭和四年末)の資金があり、而かも其の内約二十一億圓は、三千七百万人を超ゆる國民の預金より成る郵便貯金であつて、近年平均約二億圓宛の増加を示してゐる。又別に逓信省に於て取扱ひつゝある簡易生命保險(四年度歳入一億三千八百萬圓、歳出五千五百萬圓)もあれば、國有財産整理資金もある——國有財産整理資金は國有財産を整理處分して、中央諸官衙の建築及營繕費等に充當することゝなつてゐるのであるが、刻下の經濟的難局を打開する爲には、それよりも産業國策の助成に其の資金を差向けらる方より緊要と感ぜられる。消極内閣は此の種の整理をすらはず、却つて生産方面の事業を繰延べつゝあれども、元來國有財産の整理は一日も早きを有利とし、空しく之を眠らし置くの可なるを知らない。昭和二年度末調査に據る國有財産の總價格は實に七十二億圓に上るのであつて順次之を適當に處分すとせば、こゝにも國家に必要な産業資金の財源は直ちに見出され得るのである——然るに現政府は何故に極めて僅少なる産業上の研究費用をすら削減するが如き方針を執りたるか。全く不可解なる退嬰主義といふ以外、評語の下しやうも無い。

固より茲に引例せる預金部資金に關しては運用委員會の諮問を経るにあらすんば、之を融通し能はざる
 ことになつてゐる。而してそれには「有利確實なる方法」を以て「國家公共の利益」の爲に運用すべきこ
 とを條件づけられてゐる。こは至極當然の事とも見らるゝが、併し其の如何なる方法が果して眞實に有利
 確實であり、國家公共の利益と認むべきかに就いては單なる抽象的見解に依つて決定せらるべきでは無
 い。例へば、現在二十一億圓に上る郵便貯金の約六割は國債證券と地方債證券とに運用され、又外國預金
 と内地預金の分も一割を超えてゐる。三千七百萬人の汗と膏の結晶ともいふ郵便貯金の大部分、少くとも
 其の一半が斯くの如く或る意味に於ける不生産的證券化されてゐることは果して郵便貯金そのもの、本質
 に最も適合すと稱し得るであらうか。殊に今日の如き國民經濟の梗塞に悩まされつゝある時、それが果し
 て最善の運用法と認め得るであらうか。それよりは該貯金を活用し、能ふ限り直接的に之を生産資金化す
 る事こそ一層喫緊の急務ではあるまいか。而して之に依つて産業の振興を促進し多數の國民に生産の途を
 與ふるとせば、それが即ち最も効果的なる國家公共の利益たるのみならず、郵便貯金そのもの、性質にも
 適合し、併せて世に喧しき中央資金の地元還元問題も自然に解決せらるゝ筈である。

この見地よりいふならば、預金部資金は事情の許す限り興業、勸業、農工及信用組合等を通じて産業振
 興の爲に運用せらるゝを第一要務とすると同時に、其の利率の如きも更に低からしめねばならない。隨つ
 て特殊銀行それ自身に於ては此の間始んど何等の収益利鞘を求めざる程の奉仕的任務に服せんことを望み
 たい。現時の組織を以てして若し之を不可能とするならば、宜しく其の制度を改造すべきであり、それが

民間銀行と異り國家より特權を附與せらるゝ特殊機關として當然の役目とも云ふべく、又若し此の種の方
 法に依つて假りに損失を招く虞れありとせば、適法を設けて政府補償の途を講ずるも敢て不可なりとせな
 い。且つ又郵便貯金の預金者は必ずしも單に利殖を目的とするものではない。故に該貯金に依りて多大の
 収益利鞘を求むるが如きは、寧ろ不穩當の嫌ひあるを免れざると同時に、郵便貯金の利率を更に適度に引
 き下げ一段低利に資金を供給し得る便法を開くも差支へなしと思ふ。之を現在の利率に据ゑ置きて民間銀
 行と競争の形を爲し、延いて財界に於ける利率低下の趨勢を抑止するが如き状態を呈するのは決して郵便
 貯金の趣旨に合致すとは認められない。假令貯金利率を幾分低下するにもせよ、窓口に於ける取扱方法を
 を篤實にし官僚臭を一掃すると共に、極めて薄利なる無報償無手数料主義を以て其の資金を國民經濟の振
 興即ち産業發展の爲に運用し、生産事業を通じて之を一般國民の手に還元する。そして貴重なる資金の死
 藏と偏在的集中とを避くるこそ、國家事業としても、將た預金者の意思及立場より觀察しても、最も適切
 なる手段であり且つ最も有效なる低利金融の一策ではないか。

或は從來の特殊銀行のみを以てしては、産業國策の遂行に必要な金融運用の任務を果すべく、其の組
 織に於て不適當なる點もあり、又其の負擔の餘りに重きを危むものもあらう。而かも此の如きは既記中央
 銀行制度の改善の場合と同様、特殊銀行本然の目的に合致せしむべく組織を建直すことに何の不都合な
 く、又特殊銀行をして吾々の期待に背かざる使命に當らしめんが爲には勢ひ現制に比して其の規模を大に
 し、事實上産業金融統制の主なる任務を負ふべく其の機構を擴充するが當然で無ければならない。故にそ

れが餘りに過重なりとせば、例へば工業銀行、鑛山銀行、水産銀行等々それらに分科するも可なりである。現に今日に於ても工業銀行乃至水産銀行等々の特設を希望するもの少からず。かゝるは形式枝葉の問題であり、敢て從來の特殊銀行のみに限定し集中せざるべからざる理由を認めない。目的は産業國策の遂行に堪ゆべき任務を完うするに在る。そして各分科機關を通じて適當なる統制方法だに講ずるに於ては何等妨げなしと信ずる。

世上又或は吾々の提案に對して、臺灣銀行の轍を履むが如き事なきやを憂ふるものがあるかも知れぬ。併しながら、顧みて我が國財界の歴史を觀るに、歐洲大戦争の勃發は實に世界未曾有の椿事であつたと同様に、其の波動を受けたる我が日本に於ても物價及株式の昂騰は平時に三倍乃至五倍したのである。そして一朝戦争の終結を告ぐるに及んでそれが忽ち暴落したことは現に世人の目撃して居る事實である。換言せば我が財界は既往十數年間に於て世界的暴風時代に遭逢し、千古其の例なき激動渦中に震盪されたのである。この間、たゞ臺灣銀行の如き不仕末を暴露したればとて——勿論それには内部的經營上の過失もあれど——それは歐洲戦争が空前の大變事なりしが如く、世界的暴風時代の犠牲と見るべき點もあり、之を目して平時の常例と爲すは當らない。若しも此の種の暴風時代に難船せるの故を以て、總ての場合を危惧するに於ては、渺茫たる太平洋は勿論、琵琶湖を渡ることすら、危険極りなしとして躊躇せねばならぬのであつて、其の迂や測るべからずである。吾々は中央銀行始め各特殊銀行に對する法規を改正し、重役の責任を重からしむると同時に、政府の監督を嚴にして一切の不正及脱法行爲を取締るべき必要を主張

するものである。だが過去に於ける二三の例を以て將來を否定するが如きは、所謂義に懲りて貽を吹くの類であり、相俱に國家産業の發展を談ずる資格を缺くといはねばならぬ。

語を重ねていふが、今日の經濟國難は決して尋常一様の状態では無い。それは單なる世界的不景氣の餘波のみでは無くして、國民經濟を根本的に建直さざる限り、到底乗り切る能はざる難航時代である。假りに歐米の景氣が回復しても、支那の動亂が鎮靜しても、印度、南洋其の他世界各方面の趨勢が順調に轉じて、我れ自らに於て産業國策を遂行し之が達成に努力するにあらずんば、何時までも唯だ他動的運命を辿るに止まり、人口過剰問題の解決も、輸入の防遏も、國際貸借の改善も、國民生活環境の向上も容易には期待され能はぬのである。故に此の經濟國難の波濤を突破する爲には朝野を擧げて奮闘するの覺悟が肝要であると共に、何よりも先づ主力を産業の振興に傾倒せなければならぬ。國策だに大定せば、其處には必ずしも財源なきを憂へず、資金なきを嘆ずるに及ばざること上述の通りである。敢て區々の繩墨に拘泥すべき秋でも無ければ、些々たる運賃の低減などに依り大勢を轉換し得るが如き膚淺なる政策を以て足れりとする時でも無い。保護すべきものは徹底的に保護すべく、獎勵すべき産業は國力の可能なる限り大いに獎勵すべきであり、之が爲には更に所要の産業に限り、例へば總ての公課を解除する、長期低利の金融を與へる、輸出品には完全なる補償制を設ける、國民經濟の全局に有益ならば、あらゆる方法に依り利便を與へる、其の他國民の負擔と能力の堪ふる範圍に於て最善を盡さねばならないのである。

この故に吾々は中央銀行の改善を要望すると同時に、興業銀行、勸業銀行及其の他の特殊銀行の組織

と内容を擴充し、名實共に産業金融機關としての機能を十二分に發揮せしめ、民間銀行を壓迫せず其の營業範圍を侵すことなくして國家が必要とする施設に順應しつゝ、豊富且低廉なる資金の運用に當らしむることの極めて緊要なるを指摘せざるを得ないのである。若し夫れ不動産に對する金融問題といひ、中小商工業者融資問題といふが如き部分的竝に技術問題に關しては、別に其の人ありて之を専門的に攻究すべく、又吾々に於ても他の機會に記述する時もあり得やう。大局的には何よりも先づ産業國策の確立が根本であり、今は唯だ其の骨子を描きて廣く世人の理解と考察とを求むるのみ。

(三) 通貨と物價問題

世間一部の論者はいふ、通貨の膨脹は直ちに物價の騰貴を招徠するが故に不可なり、宜しく通貨を縮少して物價を低落せしむるにあらざるば、輸入防遏、輸出増進の目的を達する能はずと。所謂經濟學者の間には以前より此の種の見解を主張する人士甚だ少しとせず。そは恰も勤儉貯蓄といひ、消費節約といふが如き標語が、殆んど無批判的に讚美され、如何にも眞實味ある至言として受取らるゝと同様の感と與へてゐる。惟ふに是等の論者は上來吾々の提唱せる積極的産業國策、殊に本章に記述せる産業資金融通策を以て必然通貨の膨脹を伴ふ虞れありとの懸念を惹起するでもあらう。そして忽ち不自然なる物價騰貴の時代が襲來するかの如く杞憂臆測するかも知れない。

併しながら斯くの如き意味よりする通貨對物價論は多くの場合、單なる概念の發作であり、唯だ机上の論理に囚はるゝ拂象的思辨としてののみ一顧の價値を與へらるゝに過ぎざる程度に屬する。随つてそれは常に現實の眞を穿てる妥當の見解といふ能はざるのみならず、實際的には寧ろ此の種の概念論と全く相反する現象を屢々見受けられるのである。勿論所謂通貨の問題も結局は其の用意及分量の程度如何に依つて是非の判斷を分たるべきであり、何等定まれる目的をも有せざる漫然たる通貨膨脹の如きは固より其の可なるを知らない。然れども或る一部の人人に依つて絶対的原則視せられつゝあるが如く「通貨縮少即物價低落」、「物價低落即貿易伸展」と一本筋に思惟論斷し去ることは、未だ世界の實情にも、我が國の經濟界の特殊相にも通曉せざる迂濶の譏りを免れないのである。

元來通貨と物價との關係は極めて複雑であり、簡單なる因果律や、數學的方式を以てしては到底説明し能ふものではない。我が國現下の經濟狀態に於て、幾許の通貨を適量とするかは暫らく別問題とし、其處には各國幣制の差異もあれば、通貨以外の信用取引の高き國と低き國との相違もある。又物價そのものに就いても國際的商品と國內限りの需要品とは決して通貨の多寡に伴ひて一律に上下するものではない。それ故に例へば歐洲戰爭の勃發せる一八一四年當時に於ける歐米主要各國の通貨流通高を標準とし、其の後十箇年を経たる一九二四年のそれと比較するに、此の間佛は七倍、英は六倍、日米兩國は共に三倍となつてゐる——但し米國の通貨膨脹高の比較的少額なるは信用證券と認むべき公債の發行があつたからで、實質的には我が國が最少の増加を示したことになる——然るに物價の點に於てはフランの激落せる佛國は別とし、日本の物價指數が英米の何れよりも遙に高位を示せることは夙に世人の知る通りである。そして

此の状態は其の後も依然繼續し、昨昭和四年七月各商品卸賣の物價指數は一九一三年を一〇〇として倫敦に在つては一四一、紐育に在つては一四五なるに對し、我が東京に於ては一七四となつてゐる（爾來各國共更に低落の趨勢に在れど、比較的には矢張り我が國が尙高位に在る）。

斯くの如く通貨流通額増加の點より見れば我が國は比較的最少額に止りしに拘はらず、物價指數は之に反比例して高位を保ちつゝあるは何故か。それは即ち通貨と物價との關係に種々錯綜せる事情あるを證明すると同時に、通貨の伸縮に依つてのみ左右せられざるを知り得べく、實際には生産と消費との關係及一航經濟の事情に基因して上下するものたるを理解され得やう。

翻つて考ふるに現在我が國民生活の實情に於て、假令政府其他の機關が如何に物價調節に努力するにせよ、其の有効限界は極めて狭き範圍に過ぎないのである。即ち國民の需要最も多大なる衣食住の日常品は既に説明せる通り、米も麥も豆も砂糖も肉類も悉く生産不足であり、更に棉花、羊毛、鐵、石油、機械、肥料、木材等、國民の必需品といへば其の主要なるものを擧げて殆んど皆不足を告げ、之を海外よりの輸入に依つて補足してゐるのである。輸入に依るものは即ち世界的需給關係に依つて大勢を左右せらるゝものであつて、日本一國の力を以て其の價格を動かすことは出来ない。それは外國の市價に支配せらるゝものであり、我が國に於ける物價調節の範圍外に在る——米穀管理法の如きに依つて臨機其の暴騰暴落を阻止するにしても、それは部分的且つ一時的であつて全般的に物價を上下せしめ得るものではない——外國の市價に支配さるゝものは假りに其の輸入を抑制しても、其の効果は極めて微弱であり、又何程

節約と緊縮とを呼號したればとて生活必需品は結局買はずに済まされないのである。觀じ來れば日本獨自に可能なる所謂物價調節の有効限界に如何なるものが見出され得るか。國內に生産して國內に消費する物資としては僅に生魚、薪炭、家具、傘、下駄等の如き日用雜貨類に過ぎないのである。又物價決定の一大要素たる勞銀の如きも直ちに一般物價の高低に追隨すとは限らない。別に社會問題や思想問題等よりする諸種の作用や技術關係に依る特殊事情もある。之を要するに我が國民經濟の全局面に於ては調節可能範圍極めて狹隘にして、通貨關係に支配さるゝ限界は寧ろ一小部分に過ぎない。世の通貨爲本論者は不幸にして此の現實相を透視せず、卓上に得たる經濟原理論に惑ひて自ら迷誤に陥れるものではないか。

且つ夫れ我が國の通貨が列國に比して果して多量なりや少量なりやの判斷に就いても實は單なる概念論を以て決すべきでは無い。世の消極主義者は頻りに通貨の膨脹を叫んで已まずと雖も、試みに主要各國の紙幣流通高を國民一人當りに配分すれば、大約左の如き數字を示すのである。

各國紙幣流通高と國民一人當金額（昭和三年末）

國別	紙幣流通高	國民一人當
日本	一、六七六（百萬圓）	三六圓
英國	三七八（同 磅）	二
米國	二、七三三（同 弗）	四六
佛國	三、九一六（同 法）	三三
獨逸	四、九六七（同 馬克）	四二

國民一人當（對米爲替時價に依り各國共圓價に換算す）

伊	一七、一八(同利)	四九
白	二、六八(同法)	八二
和	八五(同グレン)	一三三

即ち我が國に於ける國民一人當りの紙幣流通高は主要列國の何れに比するも極めて低位に在りて決して多額とはいへないのである。紙幣流通高の多少は固より國民の富又は所得を表現するものでは無く、例へば國民各自に於て通貨を死蔵すること多ければ、それだけ流通を阻碍せらるゝが故に通貨を多くする結果を招くべく、又銀行小切手若くは約束手形の使用に慣るゝ國民は、必ずしも通貨の多きを要せない——米國の如きは小切手を使用すること頻繁なるが故に比較的に通貨流通高が少いのである——其の原因の何れに在るにもせよ、我が國に於ける通貨の流通額が一部の人々に杞憂せらるゝが如く列國に比して過分にも過大にもあらざることとは上記の數字が證明してゐるのである。

かくいへばとて吾々は決して通貨の無限的増大を可とするものでも無く、又放漫なる通貨の膨脹に賛同するものにあらざるは前に述べた通りである。併しながら事實は極めて明白である。今や資金の一部的偏在を叫ばれ、遊資の少からざるを耳にすと雖も、他方面に於ては資金梗塞の聲が各産業界にこだましつつある。そして實際に融通せらるゝ金利が中工商業者に對しては概ね一割内外であり、大企業に對しても八九歩のもの多きは争ふべからざる事實である。此の事實は果して資金充實の反映なりや。通貨の膨脹を裏書きするものなりや。そもく亦國民經濟の發展を圖り、國家産業の振興に助成すべき中央銀行其他特

殊銀行の任務と機能とを遺憾なく發揮しつゝある現象と解し得べきや。

若しも資金餘りありて而かも金融梗塞し、或は實際上の金利高しとせば、それは即ち主として金融機關の缺陷に原由する。そして金融機關の缺陷は制度的若しくは他の意味に於て結局中央銀行及其他の特殊銀行の未だ完からざるを示唆する。随つて其の制度方針の改善と業務の刷新等に就いて大いに考慮せられなければならぬのである。假令日本銀行それ自らは金利を引下けたりとしても、之が運用に缺陷あり、之を利用せしむるに適當の方法を以てせざれば、直ちに化して産業發展の用途となり得ず、空しく他の途に死蔵せらるゝか、若しくは中間に抑留せられて容易に起業者の手に入らず、入る時は高利に變ぜざるを得ない。それが果して通貨過大の爲めといひ得やうか。將に又此の上にも尙ほ消極的緊縮政策を必要とすべき理由となり得べきや。

資金梗塞して金利の高きに困するものは決して中小企業家ばかりでは無い。其の影響は最も直接的に消費者の頭上に襲來するのである。凡そ總ての物價を通じて最も普遍的且つ根本的な條件となるものは生産及商業資金に對する金利の高低であり、生産と分配とに要する資金に對して金利が高ければ高い程、それが物價に加はりて消費者の負擔を重くすることは極めて容易き事實である。例へば生産業者又は貿易業者より問屋に、問屋より小賣商に、そして小賣商より一般需要者の手に入るまでに始終物價に附隨して離れざるものは金利である。假りに全生産と分配とを通じて五百億圓の資金が循環流動すとせよ、そして金利が一分から七分に低下したとするならば、其處に十五億圓に相當するだけの物價は何等勞せずして

自然的に低落するのである——實際的に金利の差が働き懸ける作用は、三重にも四重にもなるのであつて、それが物價に及ぼす影響は更に遙に至大である——だから金利の高きは最も直接的に物價を高める原因となるのであつて、其の負擔は悉く消費者に嫁せられざるを得ない。これ即ち國民經濟上に於て益々資金の豊富と金利の低率とを必要とする所以である。

この故に眞實に國民生活を安易にし、其の經濟力を強からしめんが爲に低物價策を急務とするならば、それは多量生産に依つて生産費を引下げ得る迄に産業を隆興せしむる外に合理的手段は無い。産業隆興、多量生産の先掛要件は低金利である。低金利の根本要件は豊富なる資金である。そして各金融機關を通じて豊富なる資金の積極的運用を促進することである。それは斷じて姑息なる消極的縮小主義に依つて期待され得べき理由なく、現時の如き状態に在つては遊資ありとも資金は動かさず、公定利率は低下しても産業は萎縮するのみである。此の如きは畢竟不健全なる病的現象の發作であり、手足冷却して唯だ頭腦のみ充血してゐるのと異なる。血液は少しも體內に循環せず、否、循環を妨げられてゐるのである。言ふ所の遊資は眞の遊資にあらずして産業不振の反映であり、隨つて其の利率引下も名あつて實なき一部一局限りの事象たるに過ぎない。それ故にこそ保護政策の許に生産が進展せず、いつ迄も輸入國に甘んぜねばならぬ状態を餘儀なくせられ、目前には幾多の工場、鑛山等が閉鎖又は生産制銀を行ひ、販賣價格を協定して辛うじて事業維持に努むる等實に苦心慘愴の光景を呈しつゝあるのである。此の如き急激なる變態的状況を現出したる事由は經濟界の不振に依る消費激減、企業計畫の不確實等多々其の原因を挙げ得べ

きも、同時に一面遊資を有しながら他面に融通の途梗塞し、利子の高率なることが確に一大理由を爲して居ると考へられる。世には自然療法と言ふ事もあるが、不自然的に過激なる方法を用ひ絶食を強ひて瀕死の危険状態に陥れる如きは斷じて名醫の探らざる所である。そして今日の痛ましき國民生活、失業群の續出、不景氣の襲來は果して何者の致す所か。

歐洲戦後の最大難問題たりし獨逸の賠償問題も今は既に解決せられ、佛國、伊國の財界も既に著しく復活しつゝある。而も彼等各國が慘落低止する所を知らざる通貨を調整安んぜしむるに方りては、我が朝野の殆んど想像だに及ばざる苦心と決斷とを以てしたのであつて、殊に獨逸が舊紙幣を切り捨てたる如き、佛國が新フランの發行に成功したるが如き、實に絶大の犠牲と舉國一致の覺悟に依つて達成せられたのである。彼等の改革、彼等の英斷を思へば、我が國の金融機關の改善の如きは寧ろ容易なる事業であり、更に中央銀行のその如きは爲政者の勇氣一つにて直ちに實現の機運を打開し得るのである。敢て朝野の識慮と努力とを切望して已まざる所以である。

第十三章 消費經濟の改善

(一) 閑却さる、消費經濟

本書は上來主として生産業を對象として考察したのであるが、こゝには簡單に消費經濟に就て所見を加へる。

總ての國民は一方に於て生産者であると共に、他方に於ては消費者である。故に廣き視界よりする産業國策の樹立及運用に際しては、生産消費兩經濟の兩面より之を講究するの必要があり、兩者の關係を圓滑にして相互の利害を適當に調節するの用意を缺如してはならない。生産者にトラストや、カルテルなどの組織があり、消費者に購買組合や、消費組合が起り、その他兩經濟を通じて種々の機構形態を見受くれども、それは別箇の問題として、茲に國策上の見地よりいへば、生産の増大を圖ると同時に、消費經濟の機關を整備し、配給方法を改善することが區々たる消費節約や、緊縮政策よりも遙かに有效有意義なる施設と信ずる。

我が國の現情に於ては、生産經濟上の根本方策が未だ確立してゐないのみならず、消費經濟の方面に在つては更に一層不用意に看過されてゐる。否、消費經濟方面には殆んど何等の方針施設も講ぜられてゐな

いと言つた方が寧ろ適切と思はるゝまでに等閑に附せられつゝある。生産經濟の方面には個別的、間歇的、断片的ながらも、例へば、時々之の關稅改正とか、製鐵業の保護とか、蠶絲業の救済とか、善かれ、悪しかれ、多少の施設を見出し得ぬでは無いが、消費經濟上の機關としては僅に大都市に於ける小規模の公設市場位に指を屈する程度以外に何も無い。米穀管理法の如きも、實際は消費經濟の爲に働きかける場合よりは、却つて生産擁護の具と視らるゝ觀を呈し、それも甚だ不備不徹底の憾みを禁じ難い。近年頻りに社會政策とか、物價調節の聲を耳にすと雖も、それは消費經濟に關する方策の缺陷に原因する實例が頗る多いのである。

消費經濟の原則は國民生活の安易、殊に衣食住に互り其の様式習慣を經濟的且つ合理的に改善し、科學設備を普及し、需要供給の關係を妥當化するに在る。其の様式習慣を一朝にして更新せしむることは固より容易の業では無いが、國家としては能ふ限り民衆的共同經濟の疏通を切實にし、漸を逐うて改善を期すべきであり、生産者の利益を確保し増進せしむると共に、消費者の負擔を軽減し、設備の不完全より生ずる損傷や無駄を省き、不必要なる中間機關を排除すること等に依り、兩者共通の幸福を得せしむべきである。そして消費の向上と増大とが常に生産者を刺戟し發展せしむるに至つて、兩經濟の調和が實現する。

教科書的の議論は専門學者に委ねるとして、消費經濟上、最も重大なる問題は何といつても物價の低下を圖ることである。生産者の利益を害せずして而かも消費者の負擔を軽減し國民生活を安易ならしむる方

法は、低廉にして優良なる品物を如何にして供給するかの問題を離れない。こゝに於て

(一)物價調節の問題が必然に一般消費者の口から呼びかけられるのである。それについては既に前章に述べた通り、衣食住に關する日用品中、主要食糧たる米、麥、豆類は悉く生産不足を告げ、輸入に依つて之を補充する状態に在るのみならず、更に棉花、羊毛、鐵、石油、機械、肥料、砂糖、木材、肉類等に至るまで悉く輸入品の中に置かれてゐるのであるから、是等の物價は總て世界的需給の大勢に引きづられ、外國市場の市價に支配せられざる能はずして我が國單獨に其の價格を上下せしむることは出来ない。随つて物價調節の可能範圍は極めて狭く僅に生魚、菜果、薪炭、家具等の特殊品に限らるゝのであるが、これとて前記食糧其他の日用必需品と終始相伴ふものなるが故に、意のままに左右し得るものではない。物價決定の重大要素たる勞働賃銀亦然りである。だから國際經濟を抽離したる物價調節の効果は極めて微弱たらざるを免れない。これ過去に於て試みられたる我が國の物價調節策が消費經濟上に左までの反響を惹起し能はざりし所以であり、現在及將來に於ても、國民の日用品を外國の供給に待つ限り、其の物價は矢張り世界的需給の大勢に支配せられ常に其の生産國民よりは高價を支拂ねばならぬ。此の故に吾々は産業國策を高唱し、農産物は勿論一般産業の振興に依り國內の生産増加を促し、以て輸入を防遏するの急務を力説して已まないものであるが、それに就けても

(二)低利金融と大量生産とに由る物價対策は極めて緊要であらねばならぬ。既に前にもいへる通り物價中最も普遍的にして且つ根本的なる働きを爲すものは、生産及商業資金に對する金利なるが故に、政府

は能ふ限り低利金融の方策を講じ、以て生産費の低下を圖ると共に、之に依つて大量生産を容易ならしむることに努力する。さすれば物價は自然に低落し、國內の供給を滑かにするに止らず、進んで海外輸出の原動力ともなるのである。別言せば低金利と大量生産に依つて生産原價の引下げを可能ならしめだにせば、其の價格は當然に低廉となるに相違なく、價格が低廉となれば、内地需要を増加すると同時に、外國品との競争にも對抗し得て販路を海外に擴張し能ふのである。價格の低廉は消費者を利し、内外兩方面に於ける需要の増加は又生産者を利する。それが産業國策としての一重要義たるに拘はらず、從來未だ此の主旨を實際化すべき根本方針すら一貫的に定められてゐないのである。これ我が國消費經濟に關する大なる缺陷といはざるべからずして、其處に國家經濟建直しの急務が益々痛感せられるのである。

(三)消費經濟に關する缺陷 以上は消費經濟に於ける一般の問題について略言したのであるが、翻つて之を我が國の實情に照らすに更に緊要なる幾多の施設が等閑に附せられてゐる。現に我が國の諸物價は世界の大勢に押されて近年低下の歩趨を辿り、殊に今春の金解禁に依り追撃的急落を告ぐるに至つたが、しかし卸賣相場と小賣相場との間には尙常に二割五分内外の開きがある。日本銀行の調査に據る我が國の各商品物價指數は昨年三月の一七九・九から最近(本年三月)の一五五に低落してゐるに對し、食糧品小賣相場指數は同じ期間に於て二〇七から一八二に下つたに過ぎずして、其處には二七プロセントの開きが見出される。此の事實は販賣配給機關が——就中國民の一日も缺くべからざる食料品でさへも——甚だ不備なる状態に在ることを證據立てゝゐる。殊に現内閣成立以來米價其他の農産物は激落したが、それで

も食糧品の指數が依然として上記の如く高きは決して世界の大勢に由るのみでは無い。又例へば饅頭や佃煮の如き純國産品が殆んど下落せず、細かく言はゞ豆の低落せるにも拘はらず、豆腐の値段が前年と同價格を保てる如き、寧ろ不可解の現象とも考へられる程である。是れ果して如何なる理由に原因するか。それは即ち消費經濟に關する施設が忽諸に附せられ、何等國家としての對策を講ぜられてゐないが爲の禍ひに外ならない。然らば如何なる施設を必要とすべきか。

(二)消費經濟に關する施設

消費經濟の改善に必要な施設は固より二三にして止らない。それには種々の方策を考案され得るが、就中一般的且つ根本的なるは科學的設備を完成し、生活の合理化を圖るに在る。以下試みに所見の一端を擧げんか。

(イ)低廉なる電力及瓦斯の普及

電力を低廉にすることの必要は既に農村の電化及工業振興策を説明せる場合に切言したが、更に之を消費經濟の上より見て茲に反覆指摘せざるを得ないのである。元來我が國の如き木造家屋に在つては燃料たる薪炭使用の爲に火災の危険、衛生の害を伴ふのみならず、山林を荒廢せしめ治水の作用を妨ぐる等、國民經濟の全局に取りて不利の甚だしきものといはねばならぬ。さなきだに我が國の林業は獨逸、瑞西等に

比して頗る振はず、其の植林能力極めて薄弱且つ遅緩なる結果、年々一億圓もの木材を輸入しつゝあることは是れ又前に述べた通りであるから、國家は一日も速かに植林計畫と相俟ちて燃料政策を確立する急務に迫られてゐる。故に電力竝に瓦斯の價を低廉にして之を一般に普及せしめ、國民生活上の危険と時間の浪費と不衛生を防ぐと共に、不便不經濟なる薪炭に代らしむべく適當なる方策を講ぜなければならぬ。木炭一噸の價は百圓内外となるのであつて石炭の二十圓とは同日の談では無いのみならず、更に兩者の火熱力を比較すれば木炭の甚だしく不經濟なるは一見分明である。若し石炭の供給に不足せば一時之を滿洲、朝鮮に求むるも不可なく、又水力電氣の爲には國家の統制と管理竝に保護法を布くと同時に、價格を引下げるも可なりである。現在電力の販賣總價格は約五億圓に上り、米及衣料に次ぐほどの重要な一般日用消成品となつてゐる。故に能ふ限り之を安價に供給することは國民生活上の理想であり、それが可能となれば薪炭の需要も著しく節減せられ得べく、例へば又湯屋の如き、洗濯の如き、其の費用を切り下げ得ること極めて容易き理ではないか。故に電力竝に瓦斯の經濟化と低廉化を圖ることは國家政策として單に生産事業の一方面に限らず、消費方面に於ても同じく緊切なる要務であらねばならぬ。

(口) 冷蔵庫及船車の設備獎勵

次に物價調節の一主要機關として、列國を通じ近時最も發達の顯著なるは冷蔵設備の完成である。我が國の如く四面環海の島國として、且つ支那、朝鮮及沿海州等豊富なる水産物供給地を擁しながら販賣魚價の高貴なる、寧ろ奇異に感ぜらるゝ程であり、更に獸肉の如きは實に世界第一の高價國を以て目せられ、

鶏肉、鶏卵其の他の生食資料亦概ね安からず。而かも其の原因を問へば、主として貯藏及運搬の設備に缺くる所あるが故に外ならない。現に帝都を距る三十里にして一升二十五錢の牛乳あるに關はらず、それが都人の口に觸るゝ時は一升八十錢乃至一圓にも上り、又或る縣下に於ける鶏一羽の價は近時二十五錢と稱せらるゝに關はらず、東京に於ては少くとも一圓五十錢を下らないのである。生魚、牛肉、菜果等皆此の類にして生産原價と販賣價格との差、我が國の如く極端なるは他に例あるを見ない。此の如きは中間機關の介在するに依れど、第一の理由は冷蔵庫及船車設備に缺くる所ある爲め、腐敗と變質とに由る遺棄物の代價を購買者に負擔せしめてゐる結果に外ならない。之を英國の例に聞くに冷蔵庫七十萬噸、貯藏船三十萬噸に上り、倫敦に於ける肉價は一定して殆んど高下する所なしといはれ、英國以外の列國も競つて同様の設備を整へつゝある。我が國に於ても船、庫、車を通じ貯藏設備に對して適切なる獎勵方法を講じ、主要都市及鐵道各驛更に各市場等に於て之を整備せしむるに於ては、假令國庫は若干の負擔を増加すとも、それに幾倍する利益を全國民に均霑せしめ得るを疑はない。我が國の食糧品が他の商品より高價なるは、國民經濟上に於ても社會政策的意味に於ても極めて憂ふべき現象なるが故に、爲政者は強く此の點に思慮を注がねばならない。斯くして配給機關の設備を改善することは他の總ての物産に關しても切要であり、例へば、肥料用硫酸の如きは其の荷作費だけに一噸に付六七圓を要する有様であつて、若し之を散貨のまゝ取扱ひ得べき船車及貯藏設備に完備せば、それだけの價格は直ちに引下け得るのである。外國に於ては現に小麥、硫酸等を始め主要物品はバラにて運搬し得らるゝ設備が整へられて居る。我が國に在

つても鐵道、港灣及倉庫、市場等に同様の設備を施さば、配給機關の整備と相俟つて以れも消費者に對して相當價格を低減し能ふのである。些々たる運賃の割引及拂戻の如きは其の效果言ふに足らず、眞實の消費節約としては先づ此の種の設備を完成するに在る。

(ハ) 廣幅織布の獎勵

國民の生活用品を國産商品化することは、生産經濟の原則として極めて緊要なるのみならず、消費經濟に於ても至大なる重要性を有つてゐる。之を織物の例に見るも、所謂廣幅物と小幅物とは其の製織工賃等に大差なく、而かも世界各國を見渡して小幅物を常用するものは獨り我が國民のみである。否、我が國に於てもラシヤ、フランネル等は悉く廣幅であり、既に廣く國民に使用せられて何等不便を感じないのである。然るに今日尙小幅に執着して之を改めざるが如きは甚だ賢明とはいはれない——現在我が國の織物中、廣幅を不適當とする種類のもは小幅物總生産額中の約二割に過ぎずして、他の八割は何時にも廣幅に改良し能ふのである——而して之を廣幅に改めたとしたならば、從來小幅なりしが故に外人の需要に適せざりし我が國の織物も國際商品化せられて相當の輸出を見るべく、又内地人に取りても各自の身長に應じて必要量を購入し得る便あるを以て無駄排除の利益は少くない。其の上、生産努力も節約し得られるのであつて、専門家の計算に據れば之に依つて少くとも一千萬圓の生産費を減少し、同時に國內の消費約一億圓を節約し得と稱せられる。小幅織機の昭和三年末現在数は約三十八萬臺(廣幅物は二十一萬臺)となつて居り、急に之を廢棄するの不可能なるにもせよ、何等か適當の方法を講じて機運の促進に努むべきで

あり、生産費節約、無駄排除及輸出増進の三理由を兼ねたる消費經濟策として、已むなくば暫らく織物消費税に差等を附すとも、成るべく速かに廣幅織の専用普及に努力すべきである。

(ニ) 消費組合の促進

生産業者には共同、連絡、聯合の組織があり、又販賣者間にはそれらの組合があるが、購買者は各人孤立の状態に在りて組織的團體を構成しつゝあるもの未だ極めて稀である。古來の舊習を墨守して徒らに不便不利益を甘受し、生産者又は中間機關に對して不正の暴利を匡正する能はざるは國民經濟上の一大缺陷といはねばならない。歐米に在つては消費組合が不正なる生産業者を壓倒して自ら生産に任じ、或は不當なる中間販賣人を斥けて配給機關を創設し顯著なる効果を奏せる實例も乏しくないのである。爲政者は宜しく是等の實例に鑑み堅實なる消費組合の成立を促進し、生産團體に對立せしめて成るべく生産者と消費者とを直接的關係の下に置くことに依り、物價の公正と贅費の節約を圖り、國民生活の經濟化を圖るべきである。

(ホ) 卸賣及小賣市場の改善

中央卸賣市場を改善すべしとの要求は、多年各方面から唱出されてゐるが、實際には尙遲々として進まず。小賣關係の現状に至つては全く昔ながらの舊様に拘泥して殆んど時代の進化を忘れてゐるが如き觀がある。たまノ、東京及大阪等の大都會には若干の公設市場を見受くれども、その設備の不完全なる、其の業態の舊式なる、其の名にふさはしき何程の實質をも未だ具備してゐない。之が爲に東京市の如きは六

戸に一軒の小賣商ありと言はれ、其の小賣商に必要な生活費を物價の上に附加せられてあることになるのであつて、逆にいへば六戸の消費者が一軒の小賣商を養つてゐる形となつてゐる。斯くては如何に生産費を切り下けても需要者の手に入る時は依然物價の高きを免れない。我が國の生活必需品が容易に低落せざる主なる一原因はこゝに在る。故に消費經濟をヨリ善くする爲には卸賣及小賣機關の改善が何よりも急務となる。

或は卸賣及小賣機關の改善に伴ひ、從來の間屋筋や、小賣商が其の職業を奪はれ生活の脅威を被むるであらうことを憂慮するものがある。先年帝都の小賣商が公設市場の開設に反對し、府會又は市會議員等を通じて極力妨害的運動を試みたるやの事實もあり、甚だしきは公設市場豫定地附近の小賣商等が相謀りて威嚇的に賣止め手段を取りたる場所もあつたと聞く。常に選挙場裡の駈引に腐慮しつゝある此の種の議員等としては、小賣商の反感を買ふを恐るゝこと甚だしきが故に、不完全なる公設市場すらが屢々行惱みの種となる。

併しながら、他方に於ては大デパートや、チェンストアアの隆興は時代の大勢である。如何に小賣商が反對し焦躁すればとて、需要者の大群が便利なる大百貨店及チェンストアアに集まることは目前の事實が雄辯に證明してゐる。小賣商の轉換時期到來は已むを得ざる趨勢であり、たとへ、急激なる變化を惹起すべからずとしても、徳川幕府以來の舊習は必然、打ち破らるべき状態に向つてゐる。現在の如き小資本に依る小賣商が大資本を擁する薄利多賣主義に吸収されて行くことは避くべからざる徑路ともいふべく、國

民經濟の全局より眺むれば舊き産業革命から、小賣商店の變革時代に推移し、彼等が職を更へて工業其の他の生産的方面に轉化する用意の早ければ早きほど、先賢の明ありと稱し得やう。

假りに小賣商の運命問題は別としても、消費群の数は無論小賣商よりも遙に多く、店頭に客を待ちて國民相互間に共喰を演ずるが如き不經濟なる状態は當然に改善されなければならない。生産者より消費者への直接的關係は今後益々緊密となるに相違なく、緊密ならしめねばならぬのである。それには即ち卸賣市場の設備を完成すると同時に小賣機關を整備し、其の取引、運搬及貯藏設備を良好ならしむるを急務とする。特に食料品小賣市場の如きは其の設備を清潔にし、商品を潤澤ならしめ、一般消費者をして入り易く買ひ易からしむると同時に、前記冷蔵庫を各所に備へ、更に配給機關を簡便ならしめる。斯くせば物價は著しく低下し、消費者の負擔を軽くし得るのである。

(へ) 生活の合理化と主婦教育

最後に消費經濟の建て前より見て、最も緊要なるは生活の合理化である。生活の合理化は極めて多方面に分れ、國民の衣食住の全般に亘りて改善せられなければならないのであるが、單に其の卑近なる例を擧ぐるも、今日の如き和洋兩様の二重生活は時代おくれである。特に最先の要務は生命の糧たる食物に對する榮養知識の普及を第一とする。又一般中流以下の家庭すらが所謂「御用聞き」の來るを待ち、坐して品物の配達せらるゝを悦ぶが如き虛榮的弊風から一日も速に脱却せねばならない。貯藏に至便にして且つ比較的安價に供給せらるゝ乾物や罐詰を嫌ひて、わざ／＼腐敗し易き高價の生食品を求むる習慣の如きも不

經濟の一例である。商品に加重せらるゝ配給費が決して輕少にあらざること、小賣商の收支を一目せば直ちに判明する。それを我が國の家庭、就中都會地に在つては一向に理解してゐない。生魚、蔬菜等の腐敗に依る無駄の夥しきことも未だ殆んど念頭に置かざるが如きは餘りに心得違ひといふ外は無い。而かも是等の改善については其の責任の大部分は寧ろ一家の主婦に在る。主婦自らが策を携へて日用品を市場に購ふに、何の不都合があらうか。少數の貴族富豪は暫らく措くも、中流以下の主婦に在つては「御用聞き」を待たねばならぬ程に寸暇もなき境遇とはいへない。現に彼女等と雖も三越その他のデパートには嬉々として出かけて行くのである。生活改善は主婦教育に端を發する。主婦教育の爲には今日の小學校及び女學校を實際生活化すべく取換へられねばならない。消費經濟に於ける女子の立場は極めて重い。

この他消費經濟より觀察して改善を必要とする事項は尙甚だ多いが、本書の目的は生産經濟の振興を主越とするが故にこゝに詳述の違を持たない。遮莫、現時の消極内閣が眞實に國民に對して消費節約の義務を痛感すとせば、何が故に第一着に消費經濟の合理化に努力せざるや。時代錯誤の鎖國的勤儉論を呼號し、或は空疎なる教化宣傳を行ふことに依つて如何なる効果を期待し得ることぞ。眞の節約は如上解説せる通り生産増大と生活の科學化を圖り、冷蔵庫其の他の設備を整へ、廣幅織の使用を勵行し、消費組合を盛んならしめ、市場を改善する等、幾多の合理的手段に依つてのみ實現し得るのである。眞の低物價策も亦同様であつて、總ては國民經濟の全局より根本的建直しを行ふことの外、有意義なる方策は絶無である。然るに此の全局的觀點を見忘れ、或は之を自覺せずして専ら緊縮を叫び、消費節約を高唱する。そ

れが不景氣招徠策となり、失業群製造策と化するは寧ろ當然の歸趨であらねばならない。消費經濟の重要性は國民生活の安定を期する上に於て毫も生産經濟の重要性に遜らない。簡略ながらも此の一章を加へたる所以である。

第十四章 結 論

(一) 國難の真相と打開策

本書を構成せる余輩の小さな企てが、約半載に亘る道程を経過しつゝある間に、我が國の經濟現象は多くの人々に依つて豫想し、或は推測せられたるよりも、遙に急峻なるテンポを以て陰暗なる局面を展開するに至つた。余輩は茲に聊かそれ等の事實に眼を注ぎつゝ此の一章を加へる。

それは現前の事相に眼を閉づるものにあらざる限り、若くは強めて自己の政策的破綻に覆面し、其の責任を回避せんとするが如き理性の麻痺者にあらざる限り、如何なる人々に對しても餘りに明白にして而かも餘りに沈痛なる景觀である。例へば昨年來の貿易趨勢は如何うか、株式の激落は何うか、あらゆる生産、あらゆる企業の現狀は何うか。失業群の増加は如何に在るか、各學校より送り出されたる新卒業者の就職状態は如何。一言以て掩へば此の深刻なる不景氣を何人が打消し、何人が夢にだに謳歌し能ふか。豫め此の悲境に備ふべかりし筈の消極内閣すらが、自ら集計せる歳入の減少に驚きて意外の苦汁を嘗めつゝある程に、財界は萎縮し、國民經濟は轉落を告げてゐるのである。そして緊縮と節約と非募債主義の三色旗を高く打振れる消極内閣それ自らが、まことに慌しくも失業救済の挽歌を弾じ、從來の制限を緩和してまで

も、國庫補助より成る事業計畫を各府縣に促さざるを得ざる境地に迫り込まれてゐるのである。我が國民は今こそ極めて正直に、そして極めて眞剣に、國家の當相を見究めねばならない。曾て世界に於ける五大國の一と謳はれ、或は更に進んで三大國の一たる優位に列すとの誇りを持ちつゝあつた日本であるが、それは果して正しき理解、正しき認識に立脚せる矜持であつたらうか。成る程歐洲大戰當時に在つては、思ひも設けざりし幸運に際會して多年の輸入超過國が一躍して輸出超過國となり、數年間に十四億圓の受付勘定となつたのは事實である。又専ら陸海軍の方面より觀るならば、確に世界に於けるAクラス組には相違ない。併しながら之を國民經濟の實狀に徴し、之を國際經濟戰の立場より觀察する時、果して如何なる認識價値を與へられ得るか。眞實の意義よりする國家の實力は國民經濟の消長と内容を一にし、國民經濟の消長は最も直接的に産業の盛衰と因果する。單に生絲及綿布類等の數種目を最良の武器として世界經濟戰に對陣し、而して我れは即ち日用必需品其の他の重要品目を海外の供給に待つが如き地位に坐しつゝ、徒らに所謂三大國乃至五大國の名に酔ふものありとせば、其の迂、若くは其の不用意なる、寧ろ常識を逸すといはなければならぬ。

敢て直言する、若しも我が國現時の狀態、殊に其の産業、其の國民經濟を在るがまゝに放視して可なりとすべくんば、それは恰も戰敗國の運命を自ら購ふが如きの類であり、或は期待し能はざる天祐の再來を唯一の頼みとして自己陶醉に耽るに異ならず。所謂經濟國難の根本的原因——少くとも慘憺たる不景氣を持ち來せる最大の理由——を見出さんと欲する人々は、何を措きても三大國乃至五大國といふが如き眩惑的

形容詞に拊舞するよりは、胸を冷かにして世界經濟に於ける我が國の現實を正視するを先きとする。別言せば産業國家としての日本が如何に在るかを嚴正に客觀すると同時に、日本の政治、日本の外交、日本の財政、日本の教育等々々が如何なる姿を以て國民經濟に働きかけつゝあるかを吟味するが第一である。今日我が國民を悩ましつゝある總ての問題は、斯くして其の淵源を究め能ふと共に、これが解決策を如何なる方針と施設に求むべきかを知り得るであらう。

それにつけても吾々は現下の政界及財界乃至國民の或る部分に於て、今尙種々の謬想に低迷しつゝある論者を見出すことの少からざるを悲しますには居られない。即ち其の或る者はいふ、當面の不景氣は世界共通の現象にして、日本は畢竟其の飛沫を浴びつゝあるに外ならず、故に海外の形勢だに好轉せば、我が國一般財界の回復期に待つべきのみと。此の種の論、一見理あるに似て實は人を誤るの甚だしきものである。歐米各國及支那並に印度等の諸方面に互りて何れも不況時代に達しつゝあることは吾々も亦敢て之を否認せない。併しながら各國齊しく不況時代に在るにもせよ、其の性質、其の原因及其の實情は必ずしも同一とは言はれない。例へば歐米に在つては戦後に於ける産業復興に絶大の努力を競ひたる結果、却つて工業製作品も、棉花、小麥及砂糖等の農産物も共に需要に對して生産過剰を告ぐるに至つたことが其の主なる原因を爲しつゝありと雖も、我が國に於ては前者と事情を異にし、食料も衣料も住料も將た又基本工業たる鐵も油も機械も肥料等も、皆悉く内地生産を以て足れりとせず、僅に生絲其の他二三の特産品を除きては概ね之を海外より輸入してゐるのである。更言せば前者は輸出品の生産過剰に由る不況であ

り、後者は輸入超過若しくは輸入品の壓迫に由る不況である。前者は生産機能の發達と膨脹に由り供給過多に陥れるが爲の不況であり、後者は之に反して未だ國內自給の計すら成らず、産業未發展の境地に在るが爲の不況である。故に外面的には彼我共に財界の不況に悩みつゝありと雖も、本質的には全然其の原因を異にし、寧ろ正反對の事情に發源するものたるを見忘れてはならないのである。就中注意すべきは、歐米各國に在つては戰後何れも産業保護政策を執り、關稅其の他の方法に依り極力輸出増進に努め、同時に産業の科學化、機械化及經濟化を促進せる結果、それが顯著なる成功を收むるに至り、爲に一種の反動として産業過剰を告ぐるに至つたことである。此の點我が國の如く保護政策にも輸入防遏及輸出増進の施設にも、尙極めて不徹底であり、爲に不況を招けるとは全く事情を異にする。

勿論精しくいへば、生絲の如く世界經濟、殊に米國の景氣如何に依つて市價の變動を免れざるものあり、又綿製品の如く原料市價の暴落や、支那及印度方面の需要如何に依り相當の影響を被れるものもある。其の他箇々の品目中には直接又は間接に國際經濟の波動を受くるもの少しとせざれど、概觀的には生活必需品の輸入國たる日本の立場が著しく他と差異あることは、多語を要せずして明瞭である。それは恰も支那の不況が同國內部の動亂を主因とするが如く、又印度のそれが同じく國內の騷擾、棉花の激落等に原因すること至大なるが如く、各國それ／＼特殊の事情を有し、決して一律には論斷し能はざる理由を持つてゐる。然るに是等の真相を識別せずして單に「世界不況時代」の一語に依り、我が深刻なる經濟國難を手輕に評し去らんとするが如きは、餘りにも淺薄なる考へ方であり、若しくは我が國民經濟の現境に自

覺せざる迂者の戯れといはねばならない。斯くの如き何等根柢に觸れざる浮薄なる論議に感ふが故に、我が國の産業は未だ獨立性を具するに至らざるのみならず、歐洲戰爭時代の再來を夢見るが如き他力本願的迷想にすら彷徨するものあるを免れないのである。他國に於ける財界の好轉を唯一の力頼みとして待ち受け、他國の景氣回復に依つて自國の時艱を切り抜け得べしとするが如き近視眼的觀察も亦同一病根の現はれであり、それは唯だ手を空しうして徒らに神に禱り、以て運命の轉換を待つと同様なる祈禱的心理の表現としてのみ取扱はるべきである。

いはゆる世界不況時代てふ標語が、少くとも事の日本に關する限り、鸚鵡的に唱和さるべからざるは上述の通りである。それにも拘はらず、我が國の一部、就中政界の或方面に於ては頻りに此の種の標語を持ち出され、そして現に我が國民が直面しつゝある經濟的難局を故意に樂觀し、又は輕微視せんとするが如きは、そも／＼如何なる理由に出發するのであらうか。察するに是等の論者は金解禁に由る我が財界の打撃に對し種々非難の聲高きが爲め、それを打消すべくわざ／＼他働的原因を強調して一切の責任を世界の不況に轉嫁しやうとするのでは無いか。若し然りとせば是れ又一層世を誤り人を惑はすの甚だしきものと言はざるべからずして、其の禍ひは迷信の害にも劣らない。たとへ歐米の不況、支那の不況、印度の不況等が事實にもせよ、それが日本と根本的性質を異にすることは既に陳べたる通りである。同時に其の世界的不況時代の襲來を當然に豫知すべき時機と立場に在りながら、何等準備的對策を持たざる金解禁を行つたが爲に、忽ち慘烈なる激動を我が財界に與へたことも亦掩ふべからざる事實であつて、之をしも強めて

否定し、或は不條理に回護せんとするが如き事ありとせば、それは餘りにも黨派的偏見に囚はるゝ詭辯といはねばならない。我が國の經濟界が戦後の反動に踵ぐに大震災火災の深傷を被り、整理と建直しを要する時代に在りしことは何人も之を認める。だが其の整理、其の建直しの中途に於て、率如として舊平價を規準とする金解禁を行ふべく持ち懸け、且つ之を決行したことは何といつても輕慮不用意の非難を免れない。世界的不況時代であればある程、そして我が國の經濟界が整理と建直しの道程に在ればある程、一層慎重に考慮して能ふ限り外部的衝動を與へざるべく細心の注意を拂はなければならぬ。然るに其の不況時代なるを知りつゝ、金解禁に打着したが爲に忽ち異常なる激動を惹起し、恰も崎嶇たる坂路に差懸れる荷車に對して背後より追撃的突き落としを試みたと同様の結果を迫出したのである。隨つて其の追撃的政策の遂行者が、之に依つて發生せる當面の責任を取らざるべからざることは病者に對して誤藥を投じたと同じであり、相手の疲勞衰弱せるを理由として誤診の過ちを解除せられ能はぬ。まことは相手が病者なるが故に醫師としての責任は加重されねばならぬのである。

若しも此の種の場合に於て、是非とも金解禁を行はざるべからざる他の理由ありしとせば、其處には別種の方策もあり得たであらう。例へば、爲替相場の時價を規準としての金解禁も其の一段であり、然らざれば豫め解禁後に於ける準備を事前に整へ置きて内外の波動を極力緩和する。所謂産業合理化といひ、國産愛用といひ、それが何程の政策的價値を有するかは極めて疑問なれども、假りに其の効果の期待すべきものと信ずるに於ては、須らく金解禁に先ちて其の實現化を圖るが順序であり、然る後好適の時機を掴みて解禁せらるべきを妥當とする。たとへ金解禁そのものは變態を常態に復せんとするの善意的發想に促されたるものにせよ、又それが邦貨に及ぼす國際市價の値開きは一割二割に止まるにもせよ、坂路に差懸れる財界に在つては微弱なる一指の動きと雖も、實際には意外なる追撃的迫力となるのである。さなきだに疲勞衰弱せる病者に取つては、單に窓を明け放つたことすらが意外の悪作用を惹起する例があり、寒中發熱の虞れある場合に於ては特に慎重を要する。更に況んや金輸出禁止は變態に相違なしとはいへ、既に多年持ち續けられたる状態であり、思慮淺き人爲的手段に依り之を一朝に革むることは、少くとも自然なる開展では無い。それだけに其の影響は痛烈であり、惱めるものを突き落すが如き苦境に追ひ込みたることは、眼前幾多の悲愴なる事實が歴々として映出してゐるではないか。

世上或は本年度に於ける二億三千万圓の外債借替の爲に、是非とも金解禁を絶対必要と爲したるが如く言ふものあるやに聞く。而かもそれは必ずしも首肯せられない。現に何等準備なき金解禁を行つた結果として、我が國の正貨は内地のみにも既に二億圓以上の減少を示すに至つたのであつて、若しも論者の言の如く専ら外債借替の一事のみ、絶対視すべくんば、輕率に金解禁を行ふ事に依り強めて該公債を借替ふるよりも、寧ろ現實償還を行つた方が却つて有利であつたと思はれる。何となれば既に海外に流失せる二億圓以上の正貨を以てせば、優に該公債を償還し得たからである。然るに我が當局は此の邊の考慮を缺ける爲め、折角金解禁を斷行したるに拘はらず、所謂國辱公債と稱せらるゝ程の不利なる借替をも忍受せなければならぬ境地に立つに至つたといふ事實は、金解禁そのものが或る一部に唱へらるゝ如く、外債借

替の爲に絶對的必要條件にあらざりしことを證據立て、るるではないか。禁敏なる國際財界に在つては、形式上に於ける金解禁の價值性よりも、實質上に於ける國家及國民經濟の強弱を重要視する。故に假令金解禁を行つたとしても、其の國家及國民經濟の内容が改善されずに依然輸入超過を續け、産業の基礎が確立せなかつたならば、國際上の信用は高まらないのである。之に反して假りに金の輸出を禁止して居つても、之に依つて國家及國民經濟が着々と伸展し實質的に健全性を加ふるに於ては、國際財界の信用に依り外債は自然に成立し得る。随つて眞實に必要な條件は漫然準備對策なき金解禁を急ぐことにあらずして、國家及國民經濟の改善と發展とを根本義とするのである。

吾々は今更既に過ぎ去りたる問題を捉へて歴史的檢討を試みんとするものではない。唯だ先天的盲者にあらざる限り、見るもの、眼を痛めしめずには措かない現實の受難時代に際會しながら、尙其の主因及動機等について正しき理解を持たざることを爲に、將來如何なる應報を受くべきかを想はずには居られないのである。現實の受難に對して正しき理解を持たざること、即ち深刻なる國難に善處すべき方策の破産者たることを意味する。それは又單なる調査、單なる審議等に藉口して其の日暮しの小計に多忙を極むる外、何等不景氣回復の根本策を持合はざることを意味する。假りに總ての責任を世界不況時代の一語に歸納し能ふにせよ。さらば他日歐米各國の財界が好轉せる時、我が國の産業は如何にして發展し、我が國の貿易状態は如何にして好調を呈するか。彼れが財界の好轉は、彼れが輸出力の復活旺盛を告ぐる時であり、彼れが輸出力の復活旺盛を告ぐる日は、現に輸入國の立場に在る日本に取りて如何なる結果を并致する

や。我が國それ自身に於て積極的進取的なる産業國策の達成を圖ることなく、徒らに緊縮と消費節約を呼號しつゝ、何を吾々は前途に待ち設け得るか。自國の産業を振興せず、自國の經濟的發展に努力せずして而かもるながらに輸入防遏、輸出増進、國際貸借の改善を期待するが如きは、神の力を以てしても之を不可能と匙を投げるに相違ない。其の失業問題に對するも、將た思想國難に對するも亦然りである。

而して更に其の到達點は如何。吾々は憂ふ、若しも斯くの如き退嬰姑息の計に離脱し、國難の真相を自覺せざるに於ては、世界各國が好況時代に移れる日こそ、却つていよいよ我が國産業の擡頭を壓迫し、威力を我が國經濟界に振ふべく肉薄し來らざるかを。何となれば現代は國際的經濟爭鬪戦の時代であり、何れの國も輸入防遏、輸出増進を以て國民經濟の基調と爲しつゝあるからである。随つて若しも其の曉に於て我が國のみが依然消極主義の政策に低迷し自ら改むることを知らずとせば、折角至大の犠牲を拂つて敢行せる金解禁の如き、遂に或は之を無意義ならしめ、或は之を支持するの不利を忍ぶ能はざるに至るなきを保せない。

吾々は固より曾て歐洲各國に見たるが如き資本の逃避を豫想するものではない。如何なる難關と雖も我が國民の手に依つて必らず打開すべきを確信する。併しながら現に金解禁を以て唯一の成功とし而して之を執行するが爲に消極的政策を支持固執することの結果は果して如何——準備なく對策なくして金解禁を行へる場合に於ては、所謂消極的政策を固執せざる限り、正貨は必然に海外に流失せざるを得ない。故に消極内閣の緊縮主義は、之を反面よりいへば何等國際貸借改善の方策を待たずして單なる金融資本主義の

思想に誤られ、漫然金解禁を急ぎたることを自語自白すると異ならない。若しも相當對策あり準備ありて然る後に金解禁に着手したりとせば、敢て緊縮を叫び節約を呼號するにも及ばない筈である。何となれば我れに於て相當の對策と準備とを有するに於ては、毫も正貨の流出を憂ふる必要もなく、國際貸借關係は自然に改善せられ能ふが故である。少くとも我れに於て輸入防遏及輸出増進の方策に確立し、そして着之を實現するに於ては、何時金解禁を行つても今更めかしく緊縮と節約とを強調しなければならぬ必要は無いのである。然るに此の明白なる事理を押し隠して全然我が國と實情を異にする他國の事例を引用し、總ての責任を世界的不況時代に歸することに依りて金解禁が持ち來したる激動と、消極政策が與へたる打撃とに改悔せざるに於ては——論理の指示する所、國民を驅つて益々陰暗なる淵瀾に陥ましむるの危きを深く憂慮せずには居られない。

それ故に吾々は、今こそ正直に國難の真相を見究め、正しき認識を把握せんことを要求するのである。そして國難打開の鍵が結局産業國策の確立と共に積極の方針を執りて邁進するの一事に在るを提擧するのである。此の意味に於て所謂不景氣退治策の別語も、國民經濟建直しの要訣も、端的には即ち積極的な産業國策の遂行、唯是れあるのみ。

(二) 保護政策及生産制限に就て

前節に於て余輩は我が經濟國難の根本的原因の那邊に在るかを考察すると同時に、現に或る一部の人物

に依つて唱へられつゝある種々の謬見に對し其の非を指摘した。然るに翻つて更に各方面に於ける論議並に事實に徴するに、其處には又別種の見解が行はれてゐる。其の一は所謂保護政策に對する誤解であり、他は吾々が必要とする多量生産主義とは正反對に、却つて生産制限に由る流行的現象である。そして其の結果が政府の消極的政策と共に益々財界を不況にし、殊に失業群の増加を餘儀なくしつゝあることを吾々は甚だ遺憾とするものである。

世の一部、就中生産事業に關係を持たざる學者又は評論家中には往々單純なる經濟原理論を振り翳して頻りに自由主義を鼓吹し、以て獨り自ら賢なりとしてゐる人々を見受ける。此の種の論者に隨へば吾々が主張する産業國策は即ち保護政策と内容を一にするものであり、國際間に於ける自由なる貿易、自由なる需給の關係に墻壁を築くものとして反對せられるであらうことを想像し得る。併しながら吾々は先づ是等の論者に反問する、今や世界廣しと雖も何れの國家が果して自由主義の政策を實行しつゝあるかと。問題は抽象的理想論を机上に争ふにあらずして如何に國際的經濟爭覇戦に善處し、如何に國民生活の安定と幸福とを保持増進すべきかに在る。然るに現實の世界に於ては極めて公正なる人道的觀念に出發する人種的差別すら撤廢されず、海洋自由主義の建前すら行はれないのである。そして自由主義の代りに劇烈なる關稅戰爭が各國間に實演されて居るのみならず、自國の生産品を他に輸出するが爲には外交に、金融に、税課に、運賃に、保險に、あらゆる手段が講ぜられてゐるのである。例へば米國の如く、自給自足して尙ほ絶大なる餘剰を有する國家さへが、極めて高き關稅國であり、過去に於ては自由貿易主義を誇りとせる英

國の如きも、今日は我が國に遡らざる保護關稅を實施しつゝある。多年勞働黨の政權下に在る濠洲が砂糖、絹布等に對して殆んど禁止的關稅を課しつゝあることや、最近に於ける印度の綿布輸入税引上げ等は果して何を現實に物語るものなりや。斯かるは上來屢々説明せる通り悉く自國産業保護の爲に外ならぬ。語を換ふれば現代は自由主義時代にあらすして保護政策時代といふも決して過言では無い。

勿論、誤られたる保護政策が、逆に事業の改良を障け其の經營を怠慢化し、國家の恩典に狎れて種々の情弊を醸すの弊あるは吾々も亦敢て之を否定するのでは無い。然れども一部の弊のみを見て全局の利害に考慮を缺くが如きは正しき認識とはいはれない。局部的及一時的には消費階級に取りて不利と認めらるゝが如き場合あるにもせよ、國民全般の上より觀察して保護獎勵を利益とするに於ては、それが總て何等かの形に依りて消費者の負擔を軽くするの効果を齎らすのである。例へば我が國の農業を保護する如き、基本工業に對して保護政策を行ふが如き、たとへ之が爲に或種の關稅をヨリ高くし、又他利金融の途を講じて其の發達に助成すとしても、其結果として巨額の輸入を防遏し、進んで輸出を見るに於ては、それだけ國家全局の利益となり、國民經濟を豊かにするのである。輸入超過の爲に外國に國位を募り其の元利を負擔するよりは、一時關稅を忍んで自國の生産を進展せしめ輸入變じて輸出とならば、其の效益の永久的であり、全般的たるは多言を費すまでもない。我が國の砂糖、造船、海運、製鐵等が兎にも角にも今日の狀態に進みたるは直接間接國家に負ふ所至大であり、蠶絲が貿易の大宗となるに至れるも種々の方法に由る獎勵及保護なくば、或は現在の如き盛況を未だ目撃する迄に普及發達してゐなかつたかも知れない。

弊をいへば寧ろ限りなし、朝野協力して責任觀念を激勵し情弊を排除すれば善いのである。

吾々の切に遺憾とする所は、それよりも却つて保護政策の不徹底なることである。不徹底なるが故に食料にせよ、織にせよ、機械にせよ、肥料にせよ、其他現在我が國に於て既に立派に生産し製造し能ふものに對し尙多額の代價を外國に支拂つてゐるのである。そして輸入超過を啣ち、國際貸借の改善に苦心憂鬱してゐるのである。所謂國產獎勵、國產愛用の宣傳は固より不可ならざるも、眞實國民が要求する所は紙上の獎勵と口舌の宣傳に先んじて實物を豊富低廉且優良にすることである。實物を豊富低廉且優良ならしめんが爲には、其の生産を盛大ならしむるを要する。生産を盛大ならしむるには政策の許す限り國家の力を以て保護助成の途を講じ、外國品との競争に打勝ち得るまでに進歩發達せしめねばならない。それは國家としての生産的投資であり、國民の負擔は一時的にして其の利益は恒久的ではないか。

既に前に例示せし通り、吾々の所見に據れば現在我が國が外國に對して支拂ひつゝある約二十億圓内外の輸入額中、其の一半は國內に於て優に生産自供し得るものである。就中農業及基本工業に對し假りに十億圓を保護、研究、指導及獎勵等の爲に國家が投資すとしても——無論此の投資は大體十年内外の繼續的の事業と爲すべきであり、隨つて毎一年の經費は平均一億圓程度にて足る——其の結果に於て輸入總額二十億圓の一半即ち十億圓を減少するに至らば、國家が支出せる經費は一年にして國民の手に回收し得ることとなる。假りに最少限度に豫想して、其の半額五億圓の輸入を防遏すとしても、二ヶ年にして投資額を取戻し得る計算となるのみか、之に依つて國內の生産を發達せしめ進んで輸出の途を開き得ると共に、我

が國民が有する技能と過剩勞力とを活用し能ふのである。年々五億内外の經費を軍備に掛けつゝある日本として、又中央及地方を併算し六億圓近くを教育費に支出しつゝある日本として、これしきの金額を産業國策の運用に投資し能はぬといふ理はない。

現在にても我が國の豫算面に於ては補助、獎勵、改良等各種の名目を以て支出せらるゝ金額が一般會計所屬昭和四年度分に一億圓餘りがある。併し其の中の約半額即ち四千六百萬圓程は内務所管の水道、港灣及府縣債利子等に對する補助金であり、他は各省に分割されて文部にも外務にも陸海軍にも遞信、拓務等にも振り向けられてゐる。それで直接産業振興の爲に支出せらるゝ分は農林省の二千三百萬圓と商工省の五百三十萬圓に過ぎない（此の兩省中にも開墾及土地改良費とか、漁港修築獎勵費とか、發明獎勵費、理化學研究所補助など二十幾種のものが含まれてゐるが）。斯かるは吾々が提唱する産業國策のそれに比し餘りに散漫稀薄なる施設であり、更に其の方針を徹底的ならしむると共に、産業方面に對する金額を一億圓臺に引上げ、遅くとも十ヶ年を期して國家が必要とする輸入防遏、輸出増進の目的を達成するだけの積極的計畫を樹立しなければならぬ。但し問題は寧ろ財源關係に在りとせんも、これ又既述の如く行政制度の改善に由るべく、官業及國有財産の整理と處分に由るべく、又或るものは公債に由るべく、その他必ずしも其の方法なきを悲觀するには及ばないのである。所詮は積極的に國運を打開するか、消極的に退嬰逡巡するかに在るのみ。世上保護政策を排して専ら自由主義を執るべしと主張する論者は世界各國の實勢を無視して、日本獨り永久の輸入國たり債務國たるに甘んぜよと唱ふるに異るなく、然らずんば無爲

に傍觀して國際經濟戰の落伍者たる運命をも介意せざる超國家的仙人論者である。積極主義は斷じて放漫主義でも空景氣政策でも無い。積極主義を基調とせざる限り生産事業は振興せず、國民經濟は擴充され能はぬからである。

然るに退きて我が國刻下の状態を見れば、一方政府に金解禁後の準備なく對策なく徒らに調査審議に日を消しつゝあると同時に、他方民間に在つては諸會社各事業家を通じて生産制限、操業短縮、工場閉鎖、企業中止等々々、全く以て秋風落莫の感を與へつゝある。それは恰も爲政者が専ら消極的政策を墨守して國家の大策に深慮せず、不合理なる緊縮と節約の歌を合唱しつゝあると同時に、民間實業家も亦總括的意味に於ては已むなく前者の政策に引きづられて退嬰的自衛策を執るの外なき窮境に在るものと解せられる。而かも此の如きは共に國民經濟の發展を阻碍し、産業の興隆を抑塞するの甚だしきものと言はざる能はずして其の不利不幸なるや言を俟たない。固より現在の各種事業中には歐洲大戰時代の好況に陶醉し、全然一時的偶然的なる急需要に由るの事實を冷靜に考慮することなくして高價なる永久的設備を爲したるものもあらう。又前者と同様の輕慮よりして突發的に現はれたる消費の増加にも拘はらず、それが將來無限に繼續し多々益々増進するものとの誤信に驅られ莫大なる事業擴張を行ひたるものもあらう。而して是等の事業が概ね最も物價の騰貴せる時期に於て建設又は擴張せられたる爲め、今日の時價より見れば固定資金に少からざるの缺損を示し其の收益の減退を免れざるは寔に已むを得ざること、いはねばならぬ。其の上

策の裏を受けただのである。随つて近時の株式低落は單に収益配當率の減少のみに由るにあらずして、資本に對する評價點も併せて鋭敏なる事業家及投機者等の眼を離れず、寧ろ之に依つて經濟上の水準線にまで合理化されつゝあると認め得べきものもあるのである。此の故に戦時好況時代に投せられたる是等の固定資産中、未だ適當に整理を了せざりしものに對し、此の際直ちに時價標準程度に切り下げられたとしたならば、株價の居所も収益の利率も相當の水準線に復歸すべきもの當に二三に止らないであらう。併しなから、此の種の事象は寧ろ經濟界自然の作用に依つて調節せらるべきものであり、且つそれが自然的に調節せられたにせば、事業の基礎は堅實となり、其の機能及信用共に十二分に恢復すべきを疑はない。

尙率直にいふならば、今日最も苦境に在る各種産業中には、それ自らに於て需給關係を無視したる誤算と、日新の科學的設備及其の運用に缺陷を有するものも交駁しとせない。或は事業の統制宜しきを得ざるもの、或は二重三重の無駄を累ねるものもあり、専ら國內の消費を目標とせる結果、一たび内地需要の減退に會するや忽ち製産過剩の形を呈し、而かも急に輸出すべき販路を見出し能はざる爲め、已むなく操業短縮又は工場閉鎖の厄に遭へるものも稀では無いのである。勿論大戰當時の盛進に際し収益を目的とする事業家が各社の企業を行へることは寧ろ當然にして無怪からぬ現象ともいふべく、且つ之を半面より見れば我が國の産業は其の刺戟に依つて異常の發達を示し、偶然にも列國に對抗し得る能力の實在を初めて確め得る好機會を得たりとも稱し得るのである。歐洲大戰が有史以來の大事變たりしと同様に、それが世界各國の經濟界に與へたる激動も亦空前の激なるが故に、此の間に發生せる種々の現象は固より常時の標準を

以て律すべからざるものがあり、随つて其の結果に於ても亦常時の判斷のみに依り是非得失を論定するは酷に過ぎやう。其處に多少の誤算又は過失を免れざりしにもせよ、勢ひの然らしむる所概ね避け能はざる經過を迎れるものと解し得べきであるが、しかし此の事實ありしが爲に、我が國將來の工業を悲觀し、殆んど絶望的なるかの如く意氣消沈するに至つては、其の謬見たるの甚だしきや亦多語を要しない。我が國今日の工業不振の状態に氣死的恐怖心を起し、徒らに遲疑退嬰するの非なるは恰も大戰當時の好況の永久に持續すべきが如く觀測せると同様な誤算といふべくして、若し此の種の臆見に低迷するに於ては、それこそ更に常規を逸せる没我的見解といはねばならない。

既にいへる通り、我が國の經濟的立場は歐米の何れとも同じからず、又我が國民の有する技能及勞力は如何なる業種を問はず決して歐米各國人に比し遜色は無いのである。それは當に戦時非常の場合に方りて然るのみならず、平常時に於て其の實力を發揮し、如何なる相手、如何なる舞臺に立つとも毫も後れを取らざるだけの自信が無ければならない。否、其の實力は既に立派に證明せられてゐるのであつて、本質的には寧ろ大に樂觀すべき理由を見出し得る。空古無前の變動時代に際會して僥倖的成功に酔溺せるの不覺なりしが如く、其の反動的低氣壓に錯愕して俄かに失望落膽し専ら消極退嬰主義に墮するが如きも亦自覺ある國民の態度とはいへない。整理すべきものは當然に整理さるべきであるが、それは經濟界自然の作用に依つて漸次に調節さるゝと共に、潑刺たる更生恢復の光明が洋々として待ち設けてゐることを知らねばならない。それ故に所謂生産制限、操業短縮等々の如きは、或る期間或る場合に限局せる應急的自衛手段と

しては兎も角、根本的には有爲なる國民に取りて賢明なる方針とはいはれ能はぬ。苟くも國際經濟戦に善處して國民經濟の振興發展を圖らんと欲する限り、其の製作生産品の國際商品化を切實に意念して忘れざる限り、而して現時の苦境を切り抜くる爲には高價なる固定資本、二重投資、科學的設備等々に改善の餘地あるを自知する限り、難關突破の途は濶然として開かれてゐるのである。同時に國家が必要とする方策、即ち爲政者として努力せざるべからざる經濟界建直し策が、決して資本の活動を停止せしめ生産制限を除儀なからしむるが如き坐食的籠城主義や、生産機能を睡眠せしめて操業短縮に導くが如き小乘的退避主義にあつてはならない。需要減退、消費節約の爲に、富業者をして已むなく自衛的に操短乃至工場閉鎖を行はしめ、失業群を迫出するが如き消極策に偏執するの不可なるは、最早や自明の理であらねばならぬ。

廣く各國を見渡せば、其處には例へば棉花の如き、鐵鋼の如き、硫安の如き、何れも世界的に生産過剰を告げつゝあるは一般に知らるゝ所である。併しながら我が日本に關する限り、決して他國と同一に語るべからざる事情あるは既に指摘せる通りである。輸入超過國たる日本としては寧ろ他國に於ける生産過剰を利とする場合ありとも、自國の生産を制限して可なりとすべき理は極めて稀なる特殊の例外を除き之あるを知らない。曩に世界の最大肥料會社の一たるハーヴァー社の一重役が我が國に來朝せる時、頻りに硫安の世界的生産過剰を物語りて當時我が滿鐵の計畫を非とするかの色を示した。但し余は日本の實情が各種肥料輸入の爲に年々一億五千萬圓乃至二億圓もの代價を海外に支拂はせられつゝある關係上、我が國

それ自らの立場としては、國家及國民經濟の利害に顧みて、少くとも國內の需要を滿たすべき必要あることを説明したのである。然るに流石にも明敏なる彼れは直ちに此の事情を理解すると共に、然らば我がハーヴァー社も進んで亦滿鐵の企業に参加したいとの希望を余に開示するに至つた。輸入國たる日本としては他國の生産過剰が必ずしも頭痛の種では無い。一部富業者限りの採算上よりいへば無論此の種の事情を斟酌すべき必要もあるべきが、國家及國民の全般的見地から考察すれば、他國の一時的生産過剰に引きづられ、それに恐怖し遠慮して見すゝ自國に生産し得るものを外國より購入せなければならぬといふ理由はあり得ない。時としては外國のダンピングに遭逢することもあるべく、又内地消費の減退を告ぐる場合もあらんかなれど、之を内地に生産する事に依り、廉價良質の要件に備はらば、假令一時的には多少の苦痛を忍ばねならぬ場合ありとしても、最後の勝利は必然我が手に歸するに相違なく、斯くしてこそ將來に於ける需要の増進と利益とを期待し能ふ筈である。

事實は單に肥料の一例に限らず、凡そ我が國に於て生産可能なるものは悉く同一の經濟原理に基礎づけられねばならぬのであつて、國策上の根本命題は飽く迄も輸入防遏、輸出増進である。而して之を實現せんが爲には積極的方針を執つて多量生産を圖り、能ふ限り低廉にして内地の需要に應ずると共に、國際的經濟戦に善處する外は無い。それ故に現に見るが如き操業短縮、生産制限等の消極的經營は一般經濟界に捲き起りたる一時的變態であり、企業家自身に取りても不本意なる行き方に相違ない。況んや更に工場閉鎖、事業中止の如きをや。そは自らの資本を殺し、自らの機能を縮ると異らざるが故に。